

基礎資料集

2022

目 次

第1章 大学の使命・目的	
1 目的	4
(1) 愛知教育大学憲章	
(2) ミッションの再定義	
(3) アドミッション・ポリシー	
カリキュラム・ポリシー	
ディプロマ・ポリシー	
2 愛知教育大学 未来共創プラン	4
3 中期目標・中期計画	4
4 沿革	4
第2章 管理運営体制	
1 運営組織(役員名簿)	4
2 教育組織	4
3 研究組織(教員組織)	4
4 事務組織	4
第3章 大学教員・教育支援者の構成	
1 大学教員	5
(1) 専任教員	
(2) 本務教員	
2 事務職員	6
(1) 現員数	
(2) 研修状況	
第4章 教育活動	
1 学生の受入	8
(1) 入学者選抜の実施状況	
2 学生数	10
(1) 在籍者数	
(2) 定員の充足状況	
(3) 休学者数、退学者数、除籍者数、留年者数	
(4) 卒業者数、修了者数	
3 教育課程	16
(1) 単位認定の実施状況	
(2) インターンシップの実施状況	
(3) 子どもキャンパスプロジェクトの実施状況	
(4) 教科横断探求コース	
(5) 教員免許取得プログラム	
4 学習成果	22
(1) 教育職員免許状及び保育士の資格取得状況	
5 学生支援	23
(1) 相談体制	
(2) 修学支援	
(3) 経済支援	
(4) 生活支援	
6 学生生活	29
(1) 課外活動の状況	
(2) 大学祭、子どもまつり開催状況	
7 卒業者・修了者の進路・就職の状況	30
(1) 進路・就職状況	
(2) 教員就職の状況	
8 FD活動	32
9 未来基金を活用した活動	34

第5章 研究活動	
1 学長裁量経費等の採択状況	36
2 外部研究資金獲得状況	37
(1) 科学研究費助成事業	
(2) 受託研究、共同研究、受託事業	
(3) 寄附金	
3 研究成果の公表とその現状	39
(1) 研究者総覧システム	
(2) 学術情報リポジトリ	
(3) 愛知教育大学出版会	
(4) アカデミックカフェの実施	
第6章 地域連携・社会貢献	
1 非正規学生の受入状況	40
2 公開講座	40
3 教員研修	40
4 相談事業	41
(1) こころの支援研究部門	
(2) そだちの支援研究部門	
5 ボランティア活動	42
6 教育機関等との連携・協定	42
第7章 国際交流	
1 留学生の受入状況	43
(1) 外国人留学生在籍者	
(2) 留学生支援	
2 在学生の海外留学	44
3 国際学術交流協定締結校	45
(1) 締結状況	
(2) 単位互換	
(3) 研究者等の受入状況	
4 大学間交流行事	46
5 外国人教員の採用状況	46
第8章 附属施設の概要	
1 附属図書館	47
2 教職キャリアセンター	49
(1) 教科教育学研究部門	
(2) 教育支援専門職研究部門	
(3) ICT活用等普及推進統括部門	
(4) 教員研修部門	
3 教育研究創成センター	52
(1) 実践教育研究部門	
(2) FD開発部門	
4 教育臨床総合センター	53
5 国際交流センター	53
6 地域連携センター	54
(1) 委員委嘱及び講師派遣依頼	
(2) 協定の締結状況	
(3) 公開講座	
(4) 高校訪問授業	
(5) その他の実施イベント	
(6) 発行物	
7 科学・ものづくり教育推進センター	55
(1) 科学ものづくりフェスタ	
(2) 訪問科学実験	
(3) ものづくり教室	
(4) その他の実施イベント	
8 健康支援センター	56
9 ICT教育基盤センター	56

10	キャリア支援センター	57
	(1) 支援体制	
	(2) 支援プログラム	
11	日本語教育支援センター	58
	(1) 外国人児童生徒学習支援への学生派遣	
	(2) センター主催研修会	
	(3) 委員委嘱及び講師派遣依頼	
	(4) 教材一覧	
	(5) その他の実施イベント	
12	インクルーシブ教育推進センター	60
第9章 附属学校		
1	附属学校の活動状況	61
	附属学校部の組織図、附属学校規模	
	(1) 附属幼稚園	
	(2) 附属名古屋小学校	
	(3) 附属岡崎小学校	
	(4) 附属名古屋中学校	
	(5) 附属岡崎中学校	
	(6) 附属高等学校	
	(7) 附属特別支援学校	
2	今年度の取組状況	80
	(1) 教育課題、研究活動	
	(2) 連携事業	
	(3) 教職員の安全対策向上を図る取組状況	
第10章 施設・設備		
1	施設整備の状況	82
	(1) 教育研究活動に必要な施設・設備の状況	
	(2) 耐震化等の整備状況	
	(3) 自主的学習環境スペースの整備状況	
	(4) ICT環境の整備状況	
2	中期的視点における施設整備計画	87
3	その他の施設・設備	88
第11章 財務状況		
第12章 自己点検評価及び教育情報の公表		
1	自己点検評価	92
2	評価結果に対する改善	92
3	教育情報の公表状況	92
第13章 危機管理		
1	危機管理に対する整備状況	92
	(1) 防災ハンドブック	
	(2) 緊急地震速報システム	
	(3) 安否確認システム	

別添資料

愛知教育大学 大学概要2022-2023
 愛知教育大学 大学概要2023-2024
 愛知教育大学未来共創プラン リーフレット
 愛知教育大学 キャンパスマスタープラン2022
 愛知教育大学 インフラ長寿命化計画(行動計画)(令和3年度～令和7年度)
 愛知教育大学 インフラ長寿命化計画(個別施設計画 2022)
 令和4事業年度 財務諸表

第1章 大学の使命・目的

1 目的

(1) 愛知教育大学憲章

本学ウェブサイト参照

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/charter.html>

(2) ミッションの再定義

本学ウェブサイト参照

https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/mission_sheet_140430.pdf

(3) アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

本学ウェブサイト参照

アドミッション・ポリシー <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

カリキュラム・ポリシー <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

ディプロマ・ポリシー <https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/policy.html>

2 愛知教育大学 未来共創プラン

別添資料「愛知教育大学未来共創プラン リーフレット」を参照

3 中期目標・中期計画

本学ウェブサイト参照（第4期中期目標期間「法人評価」の表中、「中期目標・中期計画」）

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/corporative/hyoka.html>

4 沿革

別添資料「愛知教育大学 大学概要2022-2023」の「沿革」を参照

第2章 管理運営体制

1 運営組織（役員名簿）

別添資料「愛知教育大学 大学概要2022-2023」の「役職員」を参照

2 教育組織

別添資料「愛知教育大学 大学概要2022-2023」の「組織（教育組織）」を参照

3 研究組織（教員組織）

別添資料「愛知教育大学 大学概要2022-2023」の「組織（研究組織）」を参照

4 事務組織

別添資料「愛知教育大学 大学概要2022-2023」の「組織（事務組織）」を参照

第3章 大学教員・教育支援者の構成

1 大学教員

(1) 専任教員

ア 教育学部

令和4年5月1日現在(単位:人)

課 程	大学設置基準上の 必要教員数	専任教員数							入学 定員	教員1人 当たり 学生数
		特別 教授	教授	特別 准教授	准教授	講師	助教	計		
学校教員養成課程	27	5	86	0	59	10	5	165	729	4.4
教育支援専門職養成課程	9	1	12	0	10	3	1	27	130	4.8
全収容定員に応じた教員数	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	69	6	98	0	69	13	6	192	859	4.5

* 特別支援教育特別専攻科担当教員を含む。

イ 大学院教育学研究科(教育実践高度化専攻)

令和4年5月1日現在(単位:人)

専 攻	専門職大学院設置基準上の 必要教員数			専任教員数						入学 定員	教員1人 当たり 学生数
				教授	准教授	講師	みなし 専任	計	実務家		
	教授	実務家	計								
教育実践高度化専攻	19人以上	15人以上	37	29	16	1	4	50	21	120	2.4
	うち、みなし専任10人以内										
	うち、専任算入教員（専任教員） ※29人以内+現員-37人			26	13	1	0	40	11	-	-

ウ 大学院教育学研究科(教育支援高度化専攻、共同教科開発学専攻)

令和4年5月1日現在(単位:人)

専 攻	大学院設置基準上の必要教員数			専任教員配置状況			入学 定員	研究指導教員 1人当たり学 生数
	研究指導 教員	研究指導 補助教員	基準計	研究指 導教員	研究指 導補助教員	計		
教育支援高度化専攻 (修士課程)	3	3	6	21	8	29	30	1.4
共同教科開発学専攻 (後期3年のみの博士課程)	3	3	6	9	3	12	4	0.4

(2) 本務教員

令和4年5月1日現在(単位:人)

	合計			特別教授			教授			特別准教授			准教授			講師			助教			特別助手			助手		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育組織	145	58	203	6	1	7	83	19	102				49	25	74	6	7	13	1	5	6					1	1
教育学部	138	52	190	5	1	6	80	18	98				46	22	68	6	7	13	1	4	5						
大学院教育研究科	5	1	6	1		1	2		2				2	1	3												
教職キャリアセンター	1	2	3										1	1	2					1	1						
健康支援センター	1	2	3				1	1	2					1	1												
日本語教育支援センター		1	1																							1	1
研究組織	145	58	203	6	1	7	83	19	102				49	25	74	6	7	13	1	5	6					1	1
教育科学系	45	31	76	2	1	3	20	12	32				21	12	33	2	5	7		1	1						
人文社会科学系	29	9	38				17		17				8	6	14	3	1	4	1	1	2					1	1
自然科学系	42	4	46	1		1	29	1	30				11	2	13	1	1	2									
創造科学系	29	14	43	3		3	17	6	23				9	5	14					3	3						
全体に占める男女比(%)	71.4	28.6																									

* 正規・常勤の大学教員(休職者・長期研修者含む)の人数を1つの主たる本務先に計上
複数の所属先への計上はない。

2 事務職員

(1) 現員数

令和4年5月1日現在 (単位:人)

	事務系職員										本務者（休職者等含む。代替職員は含まない。）																				
	合計			事務局長			部長			課長			副課長			参与			係長			主任			係員			その他			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
合計	89	62	151				3		3	11	1	12	11	7	18	2		2	33	16	49	7	9	16	22	28	50		1	1	
事務局長	(1)		(1)	(1)		(1)																									
事務局	2		2													2		2													
総務・企画部	30	21	51				1		1	4		4	4	3	7				15	5	20	2	2	4	4	11	15				
部長	1		1				1		1																						
総務課	4	3	7							1		1		1	1				3		3		1	1		1	1				
企画課	7	5	12							1		1	3		3				2	3	5				1	2	3				
広報課		2	2											1	1						5				1	1					
人事労務課	9	7	16							1		1	1		1				3	1	4	1	1	2	3	5	8				
附属学校課	1	3	4							1		1		1	1				1	1					1	1					
附属幼稚園																															
附属名古屋小学校	2		2																1		1	1		1							
附属岡崎小学校	2		2																2		2										
附属名古屋中学校	1		1																1		1										
附属岡崎中学校	1	1	2																1		1					1	1				
附属高等学校	1		1																1		1										
附属特別支援学校	1		1																1		1										
財務・学術部	33	17	50				1		1	4		4	2	4	6				11	5	16	5	4	9	10	4	14				
部長	1		1				1		1																						
財務課	9	6	15							1		1		1	1				3	3	6				5	2	7				
施設課	8	4	12							1		1	1	1	2				1		1	3	2	5	2	1	3				
学術研究支援課	4	1	5							1		1	1	1	2				1		1				1		1				
教育科学系担当係	1		1																1		1										
人文社会科学系担当係	1		1																1		1										
自然科学系担当係	1		1																1		1										
創造科学系担当係	1		1																			1	1								
図書館運営室	3	4	7																2	1	3	2	2		1	1	2				
地域連携課	4	2	6							1		1		1	1				1	1	2	1		1	1	1					
学務部	24	24	48				1		1	3	1	4	5		5				7	6	13	3	3		8	13	21		1	1	
部長	1		1				1		1																						
教務企画課	10	10	20							1		1	3		3				2	3	5	1	1		4	6	10				
学生支援課	4	7	11							1		1	1		1				2	1	3	1	1		4	4		1	1		
国際企画課		3	3																1	1		1	1		1	1					
キャリア支援課	4	2	6							1		1							1	1	2				2	1	3				
入試課	5	2	7								1	1	1		1				2		2				2	1	3				

* 本務者は正規・常勤の職員数。(休職者は含むが、それに伴う代替職員は含まない。) 職務等を兼ねる場合でも1つの主たる本務先のみに計上し、複数の所属先への計上は無い。

ただし、理事が兼務する事務局長は()で表示し、合計には集計しない。

* 人事交流者は、本学に籍のある者を計上(他大学等へ出向中であっても本学に籍がある者は計上し、交流受入者等で現に本学で勤務していても転出元に籍がある者は計上しない。)

* 代替職員は、産休、休職、育休、長期研修等に伴い採用された者で、正規・常勤の者を計上(代替職員の休職者は含まない。)

* 監査室は、総務課に含む。

* 副課長には、室長・専門員を含み、係長には、専門職員・専門職員(再雇用)を含む。

(2) 研修状況

令和4年度事務系職員研修状況（本学主催分）

研修会名	開催期間	研修形式	受講者数
令和4年度採用職員研修	R4/04/01 (金)	対面式	9人
ビジネス基礎（ビジネスマナー）研修	R4/04/04 (月)	対面式	4人
令和3.4年度若手職員研修（R4年度開催分）	R4/04/08 (金) - 03/31 (金)	対面式	7人
第5回デジタル教科書研修会『啓林館・算数数学』	R4/04/27 (水)	対面式	1人
新人職員向け法人文書研修	R4/05/24 (火)	対面式	7人
第7回デジタル教科書研修会『教育出版・音楽』	R4/06/15 (水)	対面式	4人
第8回デジタル教科書研修会『日本文教出版・図工/美術』	R4/07/06 (水)	対面式	4人
科研費申請書類添削に係る事務SD研修	R4/08/01 (月) - 09/15 (木)	対面式	11人
第9回デジタル教科書研修会『教育芸術社・音楽』	R4/09/07 (水)	対面式	2人
第4期中期目標・中期計画に係る研修会 学務部会	R4/09/12 (月)	対面式	35人
第4期中期目標・中期計画に係る研修会 研究評価部会	R4/09/12 (月)	対面式	11人
第4期中期目標・中期計画に係る研修会 未来共創部会	R4/09/14 (水)	対面式	29人
第4期中期目標・中期計画に係る研修会 業務・財務部会	R4/09/22 (木)	対面式	33人
第4期中期目標・中期計画に係る研修会 社会貢献部会	R4/09/22 (木)	対面式	20人
安全衛生委員会主催職員研修	R4/11/16 (水)	対面式	10人
令和4・5年度若手職員研修（R4年度開催分）	R4/11/22 (火) - 03/31 (金)	対面式	6人
令和4年度個人情報保護セミナー	R5/02/16 (木) - 03/31 (金)	メディア形式	46人
令和4年度情報セキュリティーセミナー	R5/03/02 (木) - 03/31 (金)	メディア形式	84人

第4章 教育活動

1 学生の受入

(1) 入学者選抜の実施状況

令和5年度教育学部入学者選抜

(単位：人)

区分	入学 定員	志願者		受験者		合格者	入学者	充足率
			倍率		倍率			
教育学部	859	3,135 (5)	3.64	2,125 (3)	2.47	936	901	104.9%
学校教員養成課程	729	2,587 (3)	3.54	1,807 (2)	2.48	788	767	105.2%
幼児教育専攻	30	145	4.83	103	3.43	31	31	103.3%
義務教育専攻	555	1,859 (3)	3.34	1,300 (2)	2.34	601	582	104.9%
学校教育科学専修	30	162	5.40	102	3.40	32	32	106.7%
生活・総合専修	10	41	4.10	38	3.80	12	12	120.0%
ICT活用支援専修	20	51	2.55	49	2.45	22	20	100.0%
日本語支援専修	23	151 (2)	6.48	90 (1)	3.87	25	24	104.3%
国語専修	60	156	2.60	105	1.75	64	62	103.3%
社会専修	71	197	2.77	140	1.97	77	75	105.6%
算数・数学専修	76	263	3.46	186	2.45	81	79	103.9%
理科専修	84	229 (1)	2.71	167 (1)	1.98	90	89	106.0%
音楽専修	30	110	3.67	71	2.37	32	32	106.7%
図画工作・美術専修	30	99	3.30	60	2.00	33	32	106.7%
保健体育専修	60	226	3.77	164	2.73	67	63	105.0%
ものづくり・技術専修	15	25	1.67	24	1.60	16	16	106.7%
家庭専修	30	114	3.80	72	2.40	33	30	100.0%
英語専修	16	35	2.19	32	2.00	17	16	100.0%
高等学校教育専攻	74	300	4.05	196	2.65	83	81	109.5%
国語・書道専修	10	34	3.40	23	2.30	11	11	110.0%
地歴・公民専修	9	62	6.89	41	4.56	10	10	111.1%
数学専修	14	72	5.14	50	3.57	15	15	107.1%
理科専修	24	68	2.83	46	1.92	27	27	112.5%
英語専修	17	64	3.76	36	2.12	20	18	105.9%
特別支援教育専攻	30	115	3.83	86	2.87	31	31	103.3%
養護教育専攻	40	168	4.20	122	3.05	42	42	105.0%
教育支援専門職養成課程	130	548 (2)	4.20	318 (1)	2.44	148	134	103.1%
心理コース	50	199 (2)	3.94	121 (1)	2.40	55	52	104.0%
福祉コース	20	83	4.15	51	2.55	20	20	100.0%
教育ガバナンスコース	60	266	4.43	146	2.43	73	62	103.3%

* 全ての入試（前期、後期、総合型、学校推薦型、高大連携、帰国子女、外国人留学生）の合計で、第2年次編入学、第3年次編入学は除く。（）は外国人留学生を示し、内数。

倍率は志願者、受験者に外国人留学生を含まない。充足率は入学者に外国人留学生を含む。

合格者、入学者に追加合格者を含む。

令和5年度第2年次編入学（学校教員養成課程）

(単位：人)

区分	募集 人員	志願者		受験者		合格者	入学者
			倍率		倍率		
教育学部	8	9	1.13	9	1.13	8	6
学校教員養成課程	8	9	1.13	9	1.13	8	6
義務教育専攻	－	3		3		2	1
ICT活用支援専修	－	1		1		0	0
理科専修	－	2		2		2	1
高等学校教育専攻	－	6		6		6	5
数学専修	－	3		3		3	2
理科専修	－	3		3		3	3

令和5年度大学院教育学研究科入学者選抜

(単位：人)

区分	入学 定員	志願者		受験者		合格者	入学者	充足率
			倍率		倍率			
教育学研究科（本学分）	154	159 (15)	1.01	157 (15)	1.00	121 (14)	106 (12)	68.8%
専門職学位課程	120	88	0.73	88	0.73	78	69	57.5%
教育実践高度化専攻	120	88	0.73	88	0.73	78	69	57.5%
学校マネジメント	－	6		6		6	6	
教科指導重点	－	59		59		54	45	
児童生徒発達支援	－	14		14		11	11	
地域・教育課題解決	－	9		9		7	7	
修士課程	30	59 (12)	1.97	57 (12)	1.90	38 (12)	32 (10)	106.7%
教育支援高度化専攻	30	59 (12)	1.97	57 (12)	1.90	38 (12)	32 (10)	106.7%
臨床心理学	－	43		41		22	17	
教育ガバナンスキャリア	－	4		4		4	4	
日本型教育グローバル	－	12 (12)		12 (12)		12 (12)	11 (10)	
後期3年博士課程	4	12 (3)	2.25	12 (3)	2.25	5 (2)	5 (2)	125.0%
共同教科開発学専攻	4	12 (3)	2.25	12 (3)	2.25	5 (2)	5 (2)	125.0%
愛知教育大学	4	12 (3)	2.25	12 (3)	2.25	5 (2)	5 (2)	125.0%

* () は外国人留学生を内数で示す。【グローバルコースの1人：二重国籍のため、志願者・受験者・合格者は留学生としてカウントし、入学者は留学生としてカウントしない（本学で定める留学生入学者に該当しない）】

博士課程の倍率は、志願者、受験者に外国人留学生を含まない。（教育学研究科の倍率には、博士課程の外国人留学生の志願者、受験者を除く。）充足率は入学者に外国人留学生を含む。

*志願者倍率(倍)＝志願者÷入学定員（博士課程の志願者に外国人留学生を含まない。）

*入学定員充足率(%)＝入学者÷入学定員（入学者に外国人留学生を含む。）

令和5年度特別支援教育特別専攻科入学者選抜

(単位：人)

区分	入学 定員	志願者		受験者		合格者	入学者	充足率
			倍率		倍率			
特別支援教育特別専攻科	30	41	1.37	39	1.30	32	27	90.0%
特別支援教育専攻（1次募集）	30	41	1.37	39	1.30	32	27	90.0%

*志願者倍率(倍)＝志願者÷入学定員

*入学定員充足率(%)＝入学者÷入学定員

2 学生数

(1) 在籍者数

令和4年5月1日 現在 (単位：人)

	収容 定員	在籍者数					社会人		充足率
		計	1年	2年	3年	4年	社会人	うち教員	
教育学部	3,456	3,714	906	903	904	1,001			107.5%
学校教員養成課程	1,466	1,543	773	770	—	—			105.3%
幼児教育専攻	1,466	62	31	31	—	—			
義務教育専攻		1,175	590	585	—	—			
高等学校教育専攻		155	76	79	—	—			
特別支援教育専攻		65	33	32	—	—			
養護教育専攻		86	43	43	—	—			
教員養成課程(旧)	1,470	1,624	—	—	771	853			110.5%
初等教育教員養成課程(旧)	910	995	—	—	470	525			109.3%
中等教育教員養成課程(旧)	420	480	—	—	228	252			114.3%
特別支援学校教員養成課程(旧)	60	65	—	—	31	34			108.3%
養護教諭養成課程(旧)	80	84	—	—	42	42			105.0%
教育支援専門職養成課程	520	540	133	133	133	141			103.8%
教育支援専門職養成課程	520	540	133	133	133	141			103.8%
現代学芸課程(旧)	—	7	—	—	—	7			—
現代学芸課程(旧)	—	7	—	—	—	7			—
教育学研究科 (本学分)	312	245	100	133	12		84	66	78.5%
専門職学位課程：教職大学院	240	149	69	80	—	—	48	45	62.1%
教育実践高度化専攻	240	149	69	80	—	—	48	45	62.1%
修士課程	60	75	27	48	—	—	17	5	—
教育支援高度化専攻	60	65	27	38	—	—	10	0	108.3%
発達教育科学専攻(旧)	—	5	—	5	—	—	4	3	—
特別支援教育科学専攻(旧)	—	1	—	1	—	—	1	—	—
養護教育専攻(旧)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学校教育臨床専攻(旧)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
理科教育専攻(旧)	—	3	—	3	—	—	2	2	—
芸術教育専攻(旧)	—	1	—	1	—	—	—	—	—
後期3年博士課程	12	21	4	5	12	—	19	16	175.0%
共同教科開発学専攻 愛知教育大学	12	21	4	5	12	—	19	16	175.0%
教育実践研究科(旧教職大学院)	—	1	—	1	—	—	—	—	—
教職実践専攻(旧)	—	1	—	1	—	—	—	—	—
特別支援教育特別専攻科	30	33	33	—	—	—	10	10	110.0%
特別支援教育専攻	30	33	33	—	—	—	10	10	110.0%

* 本表は外国人留学生を含む。

令和3(2021)年に教育学部を改組し、新たに学校教員養成課程を設置した。

* 収容定員充足率(%) = 在籍者 ÷ 収容定員 (第4期中期目標期間の業務実績評価で用いられる基準：90%以上)

(2) 定員の充足状況

ア 入学定員充足率

令和4年5月1日現在

学部	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	入学定員に対する平均比率
初等教育教員養成課程【旧】	入学者数	475	479	472	—	—	104%
	入学定員	455	455	455	—	—	
	入学定員充足率	104%	105%	104%	—	—	
中等教育教員養成課程【旧】	入学者数	230	225	228	—	—	108%
	入学定員	210	210	210	—	—	
	入学定員充足率	110%	107%	109%	—	—	
特別支援学校教員養成課程【旧】	入学者数	33	32	31	—	—	107%
	入学定員	30	30	30	—	—	
	入学定員充足率	110%	107%	103%	—	—	
養護教諭養成課程【旧】	入学者数	44	42	42	—	—	107%
	入学定員	40	40	40	—	—	
	入学定員充足率	110%	105%	105%	—	—	
学校教員養成課程【新】	入学者数	—	—	—	764	773	105%
	入学定員	—	—	—	729	729	
	入学定員充足率	—	—	—	105%	106%	
教育支援専門職養成課程【新】	入学者数	132	133	134	133	133	102%
	入学定員	130	130	130	130	130	
	入学定員充足率	102%	102%	103%	102%	102%	

令和4年10月1日現在

大学院	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	入学定員に対する平均比率
教育実践研究科（教職大学院）【旧】	入学者数	51	46	—	—	—	97%
	入学定員	50	50	—	—	—	
	入学定員充足率	102%	92%	—	—	—	
教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）【新】	入学者数	—	—	88	72	67	63%
	入学定員	—	—	120	120	120	
	入学定員充足率	—	—	73%	60%	56%	
教育学研究科修士課程【旧】	入学者数	79	77	—	—	—	78%
	入学定員	100	100	—	—	—	
	入学定員充足率	79%	77%	—	—	—	
教育学研究科修士課程【新】	入学者数	—	—	20	39	25	93%
	入学定員	—	—	30	30	30	
	入学定員充足率	—	—	67%	130%	83%	
後期3年のみの博士課程	入学者数	5	7	4	5	4	125%
	入学定員	4	4	4	4	4	
	入学定員充足率	125%	175%	100%	125%	100%	

* 入学定員充足率(%) = 入学者 ÷ 入学定員（入学者に外国人留学生を含む。）

* 入学定員に対する平均比率（%） = 過去5年分の入学定員に対する入学者の比率を平均したもの
（大学機関別認証評価で用いられる基準：70%以上130%未満）

* 後期3年のみの博士課程には、静岡大学分を含まない。

イ 収容定員超過率

令和4年度

令和4年5月1日現在（単位：人、％）

学部・研究科	収容定員	収容数	収容数(B)のうち										超過率算 定の対象 となる在 学者数	定員超過 率
			外国人留 学生数	外国人留学生(C)のうち			休学者数	留年者数	留年者数 (H)のう ち、修業 年限を超 える在籍 期間が2 年以内の 者の数	小・中学 校教員免 許状取得 プログラ ム学生数	長期履修 学生数	長期履修 学生に係 る控除数		
				国費留学 生数	外国政府 派遣留学 生数	大学間交 流協定等 に基づく 留学生等 数								
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	$M=B-(D+E+F+G+I+J+L)$	$N=M\div A\times 100$	
教育学部	3,456	3,714	3	0	0	0	60	82	71	－	－	－	3,583	103.7%
教育学研究科														
専門職学位課程	240	149	0	0	0	0	1	1	1	8	8	3	136	56.7%
修士課程	60	75	24	0	0	0	5	4	2	－	6	3	65	108.3%
後期3年博士課程	12	21	3	1	0	0	6	1	0	－	7	1	13	108.3%
定員超過率（M）が110%を上回る主な理由														

* 「国立大学法人の第4期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」別添2 定員超過率の算定方法により算出する（定員超過率の上限値110%）。

（参考）「令和5年度以降の国立大学の学部における定員超過の抑制について（令和5年2月3日、4文科高第1622号）」の基準定員超過率は110%。

* 長期履修学生に係る控除数（L）は、長期履修学生数から、履修年限が同一の期間である長期履修学生数ごとに修業年限を履修する年限で除した数（小数点第3位切捨て）を乗じて算出した数の合計数（小数点第1位切上げ）を減じた数とする。

* 小・中学校教員免許状取得プログラムの修業年限は3年。小・中学校教員免許状取得プログラム学生数（J）は修業年限3年以内で2年を超えて在籍する学生数。

(3) 休学者数、退学者数、除籍者数、留年者数

(単位：人、%)

学部	R4/5/1現在			R4/4/1 ~ R5/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
教育学部	3,714	100	60	82	2.2%	17	0.5%	3	0.1%
1年	906	—	2	4	0.4%	4	0.4%	0	0.0%
2年	903	—	2	5	0.6%	2	0.2%	0	0.0%
3年	904	—	10	14	1.5%	2	0.2%	0	0.0%
4年	1,001	100	46	59	5.9%	9	0.9%	3	0.3%
学校教員養成課程	1,543	0	3	7	0.5%	5	0.3%	0	0.0%
1年	773	—	2	4	0.5%	4	0.5%	0	0.0%
2年	770	—	1	3	0.4%	1	0.1%	0	0.0%
3年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
教員養成課程(旧)	1,624	83	50	63	3.9%	10	0.6%	3	0.2%
1年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3年	771	—	9	12	1.6%	2	0.3%	0	0.0%
4年	853	83	41	51	6.0%	8	0.9%	3	0.4%
教育支援専門職養成課程	540	10	6	11	2.0%	1	0.2%	0	0.0%
1年	133	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	133	—	1	2	1.5%	1	0.8%	0	0.0%
3年	133	—	1	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
4年	141	10	4	7	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
現代学芸課程(旧)	7	7	1	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4年	7	7	1	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%
休学・退学・除籍の理由				82		17		3	
経済事情				4		1		0	
家庭の事情				4		2		0	
一身上の都合				42		3		0	
私費留学				22		1		0	
傷病				10		0		0	
方針変更				0		10		0	
授業料未納				0		0		3	
死亡又は行方不明				0		0		0	
その他				0		0		0	

(単位：人、%)

大学院	R4/5/1現在			R4/4/1 ~ R5/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
教育学研究科 修士課程	75	6	5	5	6.7%	4	5.3%	0	0.0%
1年	27	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	48	6	5	5	10.4%	4	8.3%	0	0.0%
教育学研究科 専門職学位課程	149	9	1	2	1.3%	3	2.0%	0	0.0%
1年	87	—	0	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%
2年	62	9	1	2	3.2%	2	3.2%	0	0.0%
教育実践研究科	1	1	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2年	1	1	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
休学・退学・除籍の理由				7		7		0	
経済事情				0		0		0	
家庭の事情				3		1		0	
一身上の都合				2		0		0	
私費留学				0		0		0	
傷病				2		0		0	
方針変更				0		6		0	
授業料未納				0		0		0	
死亡又は行方不明				0		0		0	
その他				0		0		0	

(単位：人、%)

大学院 教育学研究科 博士課程	R4/5/1現在			R4/4/1 ~ R5/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
愛知教育大学	21	3	6	6	28.6%	1	4.8%	0	0.0%
1年	4	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2年	5	—	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3年	12	3	6	6	50.0%	1	8.3%	0	0.0%
休学・退学・除籍の理由				6		1		0	
経済事情				0		1		0	
家庭の事情				1		0		0	
一身上の都合				5		0		0	
私費留学				0		0		0	
傷病				0		0		0	
方針変更				0		0		0	
授業料未納				0		0		0	
死亡又は行方不明				0		0		0	
その他				0		0		0	

(単位：人、%)

専攻科	R4/5/1現在			R4/4/1 ~ R5/3/31					
	在学者	留年者	休学者	休学者		退学者		除籍者	
				人数	比率	人数	比率	人数	比率
特別支援教育特別専攻科	33	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

(4) 卒業者数、修了者数

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	卒業・修了月	
						9月	3月
教育学部	891	939	907	880	875	3	872
教員養成課程	663	702	757	751	745	1	744
初等教育教員養成課程	406	425	471	457	467	0	467
中等教育教員養成課程	190	209	210	219	209	1	208
特別支援学校教員養成課程	22	26	34	33	30	0	30
養護教諭養成課程	45	42	42	42	39	0	39
教育支援専門職養成課程	—	—	130	123	129	1	128
教育支援専門職養成課程	—	—	130	123	129	1	128
現代学芸課程	228	237	20	6	1	1	0
現代学芸課程	228	237	20	6	1	1	0
教育学研究科	91	104	79	100	100	2	98
専門職学位課程	—	—	—	67	60	0	60
教育実践高度化専攻	—	—	—	67	60	0	60
修士課程	91	102	75	31	39	2	37
教育支援高度化専攻	—	—	—	18	35	1	34
発達教育科学専攻	15	15	19	7	2	1	1
特別支援教育科学専攻	1	2	2	1	0	—	—
養護教育専攻	3	2	1	1	—	—	—
学校教育臨床専攻	12	12	9	1	—	—	—
国語教育専攻	4	6	5	—	—	—	—
英語教育専攻	4	4	4	—	—	—	—
社会科教育専攻	2	15	5	—	—	—	—
数学教育専攻	3	8	8	—	—	—	—
理科教育専攻	14	13	6	2	2	0	2
芸術教育専攻	18	14	8	1	0	—	—
保健体育専攻	9	7	6	—	—	—	—
家政教育専攻	3	1	0	—	—	—	—
技術教育専攻	3	3	2	—	—	—	—
後期3年博士課程	0	2	4	2	1	0	1
共同教科開発学専攻	0	2	4	2	1	0	1
教育実践研究科 教職実践専攻	36	50	41	8	1	0	1
教職実践基礎領域	21	35	25	8	1	0	1
教職実践応用領域	15	15	16	—	—	—	—
特別支援教育特別専攻科	30	31	29	32	33	0	33
特別支援教育専攻	30	31	29	32	33	0	33

3 教育課程

(1) 単位認定の実施状況

教育学部

① 入学前の既修得単位の認定							
認定者数	1～4 単位	5～9 単位	10～14 単位	15～19 単位	20 単位以上		
2	0	2	0	0	0		
② 大学以外の教育施設等における学修の単位認定							
認定者数	1 単位	2 単位	3 単位	4 単位	英 検	TOEFL	TOEIC
17	13	1	3	0	1	0	16
③ 海外留学中に修得した単位の認定							
認定者数	1～4 単位	5～9 単位	10～14 単位	15～19 単位	20 単位以上		
0	0	0	0	0	0		
④ 単位互換に関する包括協定により修得した単位の認定							
認定者数	1 単位	2 単位	3 単位	4 単位	5単位以上		
2	0	2	0	0	0		

* 海外に留学して履修した授業科目や他大学等において履修した授業科目については、60単位を超えない範囲で本学において履修したものとみなしている（学則第69条～第71条）。

* 特に、「英語コミュニケーション」及び「外国語科目」については、大学以外の教育施設等における学修の単位認定を認めている。

大学院（教育学研究科（専門職学位・修士課程）及び教育実践研究科（教職大学院））

① 他の大学院において履修した授業科目の認定											
教育学研究科（専門職学位）			教育学研究科（修士課程）			教育実践研究科（教職大学院）					
認定者数	1～5 単位	6～10 単位	認定者数	1～5 単位	6～10 単位	認定者数	1～5 単位	6～10 単位			
0	0	0	0	0	0	-	-	-			
② 入学前の既修得単位の認定											
教育学研究科（専門職学位）			教育学研究科（修士課程）			教育実践研究科（教職大学院）					
認定者数	1～5 単位	6～10 単位	認定者数	1～5 単位	6～10 単位	認定者数	1～5 単位	6～10 単位			
0	0	0	0	0	0	-	-	-			
③ 実習科目の履修免除に伴う認定（教職大学院のみ）											
教育実践研究科（教職大学院）						教育学研究科（教職大学院）					
教育実践応用領域				教育実践基礎領域			教育実践高度化専攻				
認定者数	他校種 実習	特別課題 実習	多様な フィールド 実習	認定者数	特別課題 実習	多様な フィールド 実習	認定者数	課題実践 実習	課題実践 実習A	課題実践 実習B	課題実践 実習C
-	-	-	-	-	-	-	25	9	22	23	8

* 他の大学院における授業科目の履修等及び単位認定については、学則第85条で定めている。入学前の既修得単位の認定については、同第86条で定めている。

* 教職大学院においては、入学前の教員実務経験等により、実習科目の一部で履修を免除することができる。（学則第87条第6項、教育学研究科専門職学位課程履修規程第8条）

(2) インターンシップの実施状況

令和4年度インターンシップ実施状況

参加人数 74人

所 属	学年	性別	体験先	受入期間	実働日数
初等教育教員養成課程					
初等教育科学	3	女	豊橋市役所教育政策課	8/15～8/19	5
初等国語	3	女	愛知県庁学事振興課	9/2～9/9	5
初等国語	3	女	愛知県庁多文化共生推進室	8/15～8/31	10
初等国語	3	男	武豊町役場	8/18～8/19	2
初等国語	3	男	半田市役所防災安全課	8/15～9/9	7
初等社会	3	男	愛知県庁愛知県総合教育センター	8/29～9/2	5
初等社会	3	男	愛知県庁スポーツ振興課	8/3～9/22	10
初等社会	3	男	愛知県庁法務文書課	9/5～9/16	10
初等社会	3	男	岡崎市役所子ども育成課・拠点整備課	9/5～9/9	4
初等社会	3	男	刈谷市役所危機管理課	3/9～3/10	2
初等社会	3	男	名古屋市役所昭和区政務部地域力推進室	9/5～10/23	5
初等社会	3	男	みよし市役所人事課	2/7～2/10	4
初等社会	3	男	愛西市役所人事課	8/1、8/3	2
初等理科	3	男	刈谷市役所財務課	3/16～3/17	2
初等理科	3	女	豊田市役所農政企画課	9/11	1
初等理科	3	男	豊橋市役所都市交通課	9/5～9/9	5
初等理科	3	男	みよし市役所スポーツ課	2/21～2/24	3
初等生活	3	女	みよし市役所スポーツ課	9/13～9/16	4
初等美術	3	女	安城市役所文化振興課	9/13～9/25	3
初等美術	3	女	刈谷市役所都市政策部	2/7～2/10	4
初等保健体育	3	女	刈谷市役所スポーツ課	2/2～2/5	4
初等保健体育	3	女	豊川市役所スポーツ課	9/10～9/14	5
初等保健体育	3	女	豊田市役所介護保険課	8/3、8/21、8/31	3
初等保健体育	3	女	豊橋市役所観光プロモーション課	2/16～2/17	2
初等家庭	3	女	安城市役所危機管理課	8/19～8/20	2
初等家庭	3	女	刈谷市役所危機管理課	3/9～3/10	2
初等家庭	3	女	刈谷市役所農政課	2/16～2/24	4
初等家庭	3	女	名古屋市役所熱田区政務部総務課	9/2～9/7	4
初等家庭	3	女	半田市役所議事課	8/29～9/9	10
中等教育教員養成課程					
中等国語書道	3	女	刈谷市役所生涯学習課	2/8～2/9	2
中等数学	3	男	高浜市役所こども未来部	8/8、8/10、8/18	3
中等理科	3	男	愛西市役所スポーツ課	8/4～8/6	3
中等技術	3	女	刈谷市役所情報政策課	2/27	1
特別支援学校教員養成課程					
特別支援	2	女	愛知少年院	2/6～2/8	3
教育支援専門職養成課程					
心理コース	3	男	愛知県庁福祉（児童）相談センター	8/24～8/30	5
心理コース	3	女	刈谷市役所くらし安全課	2/3～2/8	4
心理コース	3	女	刈谷市役所市民協働課	2/13～2/15	3
心理コース	3	女	刈谷市役所長寿課	2/7～2/8	2
心理コース	3	女	みよし市役所協働推進課	2/21～2/24	3
心理コース	3	女	みよし市役所スポーツ課	2/14～2/17	4
福祉コース	3	女	小牧市役所介護保険課	1/30～1/31	2
ガバナンスコース	3	女	愛西市役所健康推進課・人事課	8/29～8/30	2
ガバナンスコース	3	女	愛知県庁愛知県公立大学法人	8/4～8/10	5
ガバナンスコース	3	女	愛知県庁産業立地通商課	8/22～9/7	5
ガバナンスコース	3	女	愛知県庁福祉（児童）相談センター	8/24～8/30	5
ガバナンスコース	3	女	安城市役所社会福祉課	8/2～8/10	4
ガバナンスコース	3	男	大府市役所ウェルネスバレー推進課	9/20～9/30	8

ガバナンスコース	3	女	岡崎市役所商工労政課	8/22～8/26	2
ガバナンスコース	3	男	尾張旭市役所産業課	10/3～10/9	7
ガバナンスコース	3	女	刈谷市役所学校教育課	2/15	1
ガバナンスコース	3	男	刈谷市役所教育総務課	2/15	1
ガバナンスコース	3	男	刈谷市役所国保年金課	2/14～2/15	2
ガバナンスコース	3	男	刈谷市役所次世代育成部	2/13～2/17	5
ガバナンスコース	3	男	刈谷市役所生涯学習課	2/8～2/9	2
ガバナンスコース	3	女	刈谷市役所中央図書館	2/2～2/3	2
ガバナンスコース	3	女	岐阜市役所教育委員会・岐阜市科学館	8/16～8/20	5
ガバナンスコース	3	女	小牧市役所文化・スポーツ課	1/30～1/31	2
ガバナンスコース	3	女	豊田市役所介護保険課	8/3、8/21、8/31	3
ガバナンスコース	3	女	豊田市役所介護保険課	8/3、8/21、8/31	3
ガバナンスコース	3	女	豊田市役所次世代育成課	9/12～9/16	5
ガバナンスコース	3	女	豊田市役所次世代育成課	9/12～9/16	5
ガバナンスコース	3	女	豊橋市役所こども未来館	8/22～8/28	7
ガバナンスコース	3	女	豊橋市役所こども未来館	2/18～2/19	2
ガバナンスコース	3	女	豊橋市役所政策企画課	2/16～2/17	2
ガバナンスコース	3	女	名古屋市役所子ども青少年局・企画経理課	8/2～9/5	8
ガバナンスコース	3	女	半田市役所監査委員事務局	9/26～9/30	5
ガバナンスコース	3	男	みよし市役所教育行政課	8/23～8/26	4
ガバナンスコース	3	女	みよし市役所教育行政課	2/8～2/10	3
ガバナンスコース	3	女	みよし市役所子育て支援課	2/21～2/24	3
ガバナンスコース	3	男	みよし市役所財政課	9/27～9/30	3
ガバナンスコース	3	女	みよし市役所生涯学習推進課	2/1～2/3	3
ガバナンスコース	3	男	みよし市役所スポーツ課	2/1～2/3	3
ガバナンスコース	2	男	文部科学省総合教育政策局	2/13～2/24	9
教育学研究科					
グローバルコース	1	女	(株)アルタ総務部	2/27～3/3	5

* 大学を通じて参加手続したものを集計

(3) 子どもキャンパスプロジェクトの実施状況

令和4年度 実施状況一覧

(単位：人)

プログラム名	対象校種					参加者 定員	実施構成員			
	幼稚園	小学校	中学校	高等 学校	特別 支援			教職員	学生	その他
AUE.A スポーツ教室	○	○		○	○	60	31	1	29	1
アンアンあんこ！～オリジナルどら焼きに挑戦～		○				15	10	2	6	2
子どもまつり		○		○	○	300	68		68	
ジュニアデカスロンin愛教大—いろいろな種目に挑戦—			○			40	48	1	47	
ミニ運動会！		○				20	18		18	
サッカーフェス	○	○				スクール:30 大会:70	6	5		1
宇宙体感・体験プロジェクト		○	○			15	17	2	15	
扇を持って舞ってみよう！能楽の世界へようこそ！		○	○			15	8	1	7	
やってみよう！電動車椅子サッカー体験プロジェクト			○	○		10	9	1	8	
ひとりのできるもん！Cooking＆Sewing		○				8	20	3	17	
プログラミングで遊ぼう学ぼう！		○				劇:20 絵:12	13	6	7	
マジック教室	○	○	○	○	○	30	3	3		
愛教の馬に会いに行こう！		○	○	○		30	5		5	
わくわく科学実験	○	○	○	○	○	20	44	1	43	
キッズオリンピックin愛教大		○				50	46	1	45	
踊るキャンパス～ダンスで広がる笑顔の輪～	○	○	○	○	○	30	16	1	15	
竹でご飯が炊けるかな？ ※雨天時は非常食を食べてみよう！		○	○	○		10	8	1	7	
木とプラスチックを加工するデジタルものづくり体験		○	○			10	16	3	13	
人形劇を観賞しよう	○	○				15	8	1	7	
フィルムで体験「ココロを保存」	○	○	○			20	19		19	
パワーアップ大作戦！～空手で体を動かそう～		○				30	14		14	
附属高校敷地内の竹林整備および竹材の活用法研究				○		20	16	1	15	
バンブーランタンを作ってみよう！		○			○	10	12	1	11	
愛教大 竹プロジェクト		○	○	○		20	4	1	3	
竹を使った楽しくためになるものづくり		○	○			10	6	2	4	
「竹」を核とした総合的な学びの模索 ～社会科（地理）や 技術科と音楽科を融合した 主体的・探求的な活動を通して～		○	○			20	8	8		
竹チップでカブトムシを育てよう！		○				10	3	3		

（４）教科横断探究コース

設置	
令和3年4月	
目的	
教員に求められる資質・能力が多岐にわたることに対応するため、4年間の学部教育で培う教員としての資質に加えて、実践力・コミュニケーション力・探究力を養成することを目的とし、異年齢・異学年集団での協働を通して、教科等を横断してつなげる力をつけ、自ら考え抜く自立した学びを探究する「教科横断探究コース」を設置した。	
特色	
・学部（4年間）から教職大学院（2年間）への進学を見通し、教科のみならず総合的な学習の時間、特別活動、道徳を含む教科等横断的な探究学習を展開する。 ・教科横断型協働学習やゼミナールなど、コース独自の授業が開講されている。	
目指す能力の育成	
・教科等横断的な学習を構想し展開する実践力 ・異学年、他専修の学生と協働するコミュニケーション力 ・新しい教育課題に対する探究力	
コースの編成	
・本コースは学校教員養成課程義務教育専攻の第1学年学生から募集し、第1学年後期から本コースに所属する。 ・教育課程は、1年生で教科横断型協働学習Ⅰ、2年生でゼミナールⅡA、ゼミナールⅡB、教科横断型協働学習Ⅱ、3年生でゼミナールⅢA、ゼミナールⅢB、教科横断型協働学習Ⅲ、4年生でゼミナールⅣA、ゼミナールⅣB、教科横断型協働学習Ⅳを履修する。	

コース進学状況（学部1年次）

進学年度	進学者数
令和3年度	6人
令和4年度	5人

学部から大学院への進学状況

年 度	教育学研究科 進学者	大学院 進学辞退者
令和3年度	－	－
令和4年度	－	－

（５）教員免許取得プログラム

小学校教員免許取得プログラム

設置
令和2年4月
概要
教員養成大学・学部以外では取得が困難な小学校教員免許を持たない大学卒業者の、小学校教員免許取得のニーズに応えるため、大学院の合格（入学）者が、別途申請の上、許可された場合に、大学院で小学校教員免許取得に必要な学部の科目を履修することができるプログラムを設置した。
特色
・通常の大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻（教職大学院）の履修とともに、小学校教員免許状の取得に必要な学部の科目を履修する必要から修業年限を3年とし、単位修得上支障がないように配慮している。 ・このコースの大学院を修了することにより教職修士（教職大学院）の学位と共に、小学校教諭専修免許状又は小学校教諭一種免許状を取得する資格が得られる。

小学校教員免許取得プログラム入学者数

教育学研究科 (単位：人)

年度	入学者数	他大学	本学
令和2年度	11	9	2
令和3年度	9	9	0
令和4年度	4	4	0

※教育実践研究科は、令和2年度入学生から募集停止

中学校教員免許取得プログラム

設置
令和2年4月
概要
現在の学校教育現場では、専門的スキルをもった人材や、多様な経験、職歴を有する人材が求められている。本学では、教員免許（幼稚園・中学校・高等学校）取得者又は取得見込みの者が、大学院で長期在学制度を活用して中学校教諭一種免許状又は二種免許状（いずれか1教科）の取得に必要な科目を履修できるよう、新たなプログラムを開設した。
特色
・通常の大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻（教職大学院）の履修とともに、中学校教員免許状の取得に必要な学部の科目を履修する必要から修業年限を3年とし、単位修得上支障がないように配慮している。 ・このプログラムの大学院を修了することにより、教職修士（教職大学院）の学位と共に、中学校教諭専修免許状（各教科）又は中学校教諭二種免許状（各教科）を取得する資格が得られる。

中学校教員免許取得プログラム入学者数

(単位：人)

年 度	入学者数	他大学	本学
令和2年度	1	1	0
令和3年度	1	1	0
令和4年度	2	2	0

4 学習成果

(1) 教育職員免許状及び保育士の資格取得状況

教育学部、特別支援教育特別専攻科

	卒業 者数	取得 者数	教育職員免許状 取得状況																	保育士		
			小学校				中学校				高等学校		幼稚園			特別支援学校		養護教諭				
			1種	2種	計		1種	2種	計		1種		1種	2種	計		1種		1種			
教育学部	875	740	664	10	674	77.0%	615	56	671	76.7%	551	63.0%	26	154	180	20.6%	28	3.2%	39	4.5%	25	2.9%
教員養成課程	745	740	664	10	674	90.5%	615	56	671	90.1%	551	74.0%	26	154	180	24.2%	28	3.8%	39	5.2%	25	3.4%
初等教育教員養成課程	467	464	464		464	99.4%	389	24	413	88.4%	317	67.9%	26	128	154	33.0%		0.0%		0.0%	25	5.4%
中等教育教員養成課程	209	208	172	10	182	87.1%	207	2	209	100.0%	215	102.9%			0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
特別支援学校教員養成課程	30	29	28		28	93.3%	0	30	30	100.0%	0	0.0%	26		26	86.7%	28	93.3%		0.0%		0.0%
養護教諭養成課程	39	39			0	0.0%	19	0	19	48.7%	19	48.7%			0	0.0%		0.0%	39	100.0%		0.0%
教育支援専門職養成課程	129	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
心理コース	51	0			0	0.0%			0	0.0%		0.0%			0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
福祉コース	20	0			0	0.0%			0	0.0%		0.0%			0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
教育ガバナンスコース	58	0			0	0.0%			0	0.0%		0.0%			0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
現代学芸課程	1	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
現代学芸課程	1				0	0.0%			0	0.0%		0.0%			0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
特別支援教育特別専攻科	33	33	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0	0.0%	33	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
特別支援教育専攻	33	33			0	0.0%			0	0.0%		0.0%			0	0.0%	33	100.0%		0.0%		0.0%

* 一人で複数の免許状（校種、教科）を取得した場合は該当種別にそれぞれ計上するため、卒業者に対する取得割合が100%を超える場合がある。

* 取得者は、小・中・高・幼・特支・養護のいずれかの教育職員免許状取得者の実人数を記載（保育士は除く）

* 卒業者数・取得者数・取得件数は、9月卒業者・3月卒業者を合算した数字である。

* 教員養成4課程は、令和3年度入学生から募集停止している。新規の学校教員養成課程は、令和6年度に完成年度を迎える。

* 現代学芸課程は、平成29年度入学生から募集停止している。

大学院

	修了者数	取得者数	教育職員免許状 取得状況										保育士			
			小学校		中学校		高等学校		幼稚園		特別支援学校				養護教諭	
			専修		専修		専修		専修		専修				専修	
教育学研究科	99	43	18	18.2%	37	37.4%	43	43.4%	3	3.0%	1	1.0%	3	3.0%	0	0.0%
専門職学位課程・教職大学院	60	43	18	30.0%	37	61.7%	43	71.7%	3	5.0%	1	1.7%	3	5.0%	0	0.0%
教育実践高度化専攻	60	43	18	30.0%	37	61.7%	43	71.7%	3	5.0%	1	1.7%	3	5.0%		0.0%
修士課程	39	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教育支援高度化専攻	35	0		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
発達教育科学専攻	2	0		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
特別支援教育科学専攻	0															
理科教育専攻	2	0		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
芸術教育専攻	0															
教育実践研究科	1	1	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教職実践専攻	1	1	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教職実践基礎領域	1	1		0.0%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%		0.0%		0.0%		0.0%

* 一人で複数の免許状（校種、教科）を取得した場合は該当種別にそれぞれ計上するため、修了者に対する取得割合が100%を超える場合がある。

* 取得者は、小・中・高・幼・特支・養護のいずれかの教育職員免許状取得者の実人数を記載（保育士は除く）

* 修士課程の発達教育科学専攻～芸術教育専攻及び教育実践研究科は、令和2年度入学生から募集停止している。

5 学生支援

(1) 相談体制

学生相談体制（相談窓口）

相談内容	担 当
修学相談 授業・成績関係 休学・退学・転学関係 教育実習関係 介護等体験関係	教務企画課
就職・進路相談	キャリア支援課
海外留学・国際交流相談	国際交流センター（国際企画課）
経済・生活相談 授業料免除・徴収猶予関係 奨学金関係 学生寮関係 課外活動・ボランティア活動関係 学生生活全般	学生支援課
健康相談	健康支援センター
ハラスメント相談	学内ハラスメント相談員
障害のある学生への配慮・支援	障害学生支援室（学生支援課）
なんでも相談（どこに相談したらよいか分からない時）	なんでも相談コーナー（学生支援課）

(2) 修学支援

ア 履修指導

取組	担当	実施状況
ガイダンス	教務企画課	【1年生、4年生】年度当初 教育学部 各1回、【全学年】教育単位（専攻等）別 各1回
指導教員制	教育学部	全学年 教育単位（専攻等）別
成績不振者への学習支援・指導	教育学部	G P Aが2.0 以下の学生について、指導教員による修学支援・指導を実施
交換留学制度	国際交流センター	本学と学生交流協定を締結している海外の大学に学生を派遣する制度。毎年学期始めに説明会を実施するとともに年1回募集を行っている。

イ 学習相談

学習相談	担当	実施状況
修学アドバイザーの配置	教務企画課	指導教員が「修学アドバイザー」として、指導学生からの修学相談に応じている。
オフィス・アワーの設定	学生支援委員会	各教員が毎週2時間程度のオフィス・アワーを設定し、学生の相談に応じている。
英語チューター制度	国際交流センター	英語能力の優れた学生チューターが英語の苦手な学生の英語学習をサポートする活動を実施している。第7章の国際交流【留学生支援】参照。

(3) 経済支援

ア 入学科免除

令和4年度 入学科免除実施状況

(単位：人、円)

所 属	入 学 者	免除許可者								計	免除金額 合計
		全 額 免 除	2/3 免 除	半 額 免 除	1/3 免 除	一 部 免 除					
							108 千円	54 千円	37.5 千円		
教育学部	914	42	16	-	13	-	-	-	-	71	16,074,000
1 年次 入学者	906	41	14	-	13	-	-	-	-	68	15,416,000
2 年次 入学者	8	1	2	-	0	-	-	-	-	3	658,000
教育学研究科（専門職学位）	67	0	-	0	-	7	6	1	-	7	702,000
1 年次 入学者	61	0	-	0	-	7	6	1	-	7	702,000
6 年一貫コース	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アドバンスト・サイエンスコース	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学研究科（修士課程）	25	0	-	0	-	12	6	6	-	12	972,000
普通入学	25	0	-	0	-	12	6	6	-	12	972,000
6 年一貫コース	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国費留学生	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
再入学	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学研究科（博士課程）	4	0	-	0	-	1	1	0	-	1	108,000
愛知教育大学	3	0	-	0	-	1	1	0	-	1	108,000
カンボジア協定校留学生	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別支援教育特別専攻科	33	0	-	0	-	2	-	-	2	2	75,000
附属学校園	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0
附属幼稚園	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0
附属高等学校	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0
附属特別支援学校高等部	0	0	-	0	-	-	-	-	-	0	0

* 本表には、大学独自入学科免除制度による免除者数及び特別措置、高等教育修学支援制度による入学科免除者数を含む。

* 本表には、大学独自入学科免除制度による免除額及び特別措置、高等教育修学支援制度による入学科免除額を含む。

* 6 年一貫教員養成コース及びアドバンスト・サイエンスコースの大学院入学者は、大学院への入学ではなく進級と見なすため、入学科は不要となる。

* 再入学者及び国費留学生、カンボジア協定校留学生は、入学科を徴収しない。

* 附属学校園のうち、附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校（小学部・中学部）は入学科を徴収しない。

令和4年度 入学科			
教育学部	282,000円	附属幼稚園	31,300 円
大学院	282,000円	附属高等学校	56,400 円
特別支援教育特別専攻科	58,400円	附属特別支援学校高等部	2,000 円

イ 授業料免除

令和4年度授業料免除実施状況

在籍者：R4/5/1現在

免除者：R4/4/1～R5/3/31実績

(単位：人、円)

所 属	在 籍 者	前 期							後 期							合 計							免除金額 合 計		
		免除許可							免除許可							免除許可									
		全 額 免 除	半 額 免 除	2 / 3 免 除	1 / 3 免 除	家 計 急 変	教 職 特 別 措 置	計	免除金額 小 計	全 額 免 除	半 額 免 除	2 / 3 免 除	1 / 3 免 除	家 計 急 変	教 職 特 別 措 置	計	免除金額 小 計	全 額 免 除	半 額 免 除	2 / 3 免 除	1 / 3 免 除	家 計 急 変		教 職 特 別 措 置	計
教育学部	3,714	188	18	65	37	2	-	310	68,359,150	179	19	76	26	4	-	304	66,915,550	367	37	141	63	6	-	614	135,274,700
1 年	906	41	-	14	13	0	-	68	14,645,200	34	-	21	7	2	-	64	13,752,200	75	-	35	20	2	-	132	28,397,400
2 年	903	38	-	22	13	1	-	74	15,538,200	42	-	24	5	1	-	72	16,282,400	80	-	46	18	2	-	146	31,820,600
3 年	904	37	-	22	9	0	-	68	14,645,200	32	-	23	11	0	-	66	13,618,300	69	-	45	20	0	-	134	28,263,500
4 年	1,001	72	18	7	2	1	-	100	23,530,550	71	19	8	3	1	-	102	23,262,650	143	37	15	5	2	-	202	46,793,200
教育学研究科 (専門職学位)	149	16	2	-	-	-	46	64	9,262,812	17	3	-	-	-	45	65	9,530,712	33	5	-	-	-	91	129	18,793,524
1 年	69	7	1	-	-	-	23	31	4,956,150	7	1	-	-	-	23	31	4,956,150	14	2	-	-	-	46	62	9,912,300
2 年	80	9	1	-	-	-	23	33	4,306,662	10	2	-	-	-	22	34	4,574,562	19	3	-	-	-	45	67	8,881,224
教育学研究科 (修士課程)	75	20	9	-	-	-	8	37	7,121,445	18	11	-	-	-	8	37	6,853,545	38	20	-	-	-	16	74	13,974,990
1 年	27	8	7	-	-	-	1	16	3,080,845	7	6	-	-	-	1	14	2,678,995	15	13	-	-	-	2	30	5,759,840
2 年	48	12	2	-	-	-	7	21	4,040,600	11	5	-	-	-	7	23	4,174,550	23	7	-	-	-	14	44	8,215,150
教育学研究科 (博士課程)	21	2	0	-	-	-	-	2	535,800	2	0	-	-	-	-	2	535,800	4	0	-	-	-	-	4	1,071,600
愛知教育大学 1 年	4	1	0	-	-	-	-	1	267,900	1	0	-	-	-	-	1	267,900	2	0	-	-	-	-	2	535,800
2 年	5	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0
3 年	12	1	0	-	-	-	-	1	267,900	1	0	-	-	-	-	1	267,900	2	0	-	-	-	-	2	535,800
教育実践研究科	1	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0
1 年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 年	1	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0
特別支援教育 特別専攻科	33	3	0	-	-	-	-	3	410,850	2	0	-	-	-	-	2	273,900	5	0	-	-	-	-	5	684,750
合計	3,993	229	29	65	37	2	54	416	85,690,057	218	33	76	26	4	53	410	84,109,507	447	62	141	63	6	107	826	169,799,564
* 本表には、大学独自授業料免除制度による免除者数及び高等教育修学支援制度による授業料免除者数、特別措置免除者数を含む。																									
* 本表には、大学独自授業料免除及び高等教育修学支援制度免除、特別措置免除の併用者が含まれているため、各表の免除者合計数とは異なる。																									
* 本表には、大学独自授業料免除制度による免除額及び高等教育修学支援制度による授業料免除額、特別措置免除額を含む。																									
* 附属学校分については、幼児教育無償化や高等学校等就学支援金制度の導入により、申請者・免除者はほぼ発生しないため、あった場合のみ表に追加することとする。																									
* 本表には、大規模災害等の被災による特別措置の免除者数及び新型コロナウイルス感染症緊急対応措置による授業料免除者を含む。																									

令和4年度 授業料	半期分	年 額		半期分	年 額
教育学部	267,900 円	535,800 円	特別支援教育特別専攻科	136,950 円	273,900 円
大学院【修士課程、教職大学院】					
通常の課程	267,900 円	535,800 円	長期履修3年	178,600 円	357,200 円
小免コース 平成21年度以降 入学	267,900 円	535,800 円	長期履修4年	133,950 円	267,900 円
大学院【博士課程】					
通常の課程	267,900 円	535,800 円	長期履修4年	200,925 円	401,850 円

ウ 奨学金

令和4年度（独）日本学生支援機構 奨学金採用者／奨学生数 状況

在学者：R4/5/1現在（単位：人）

所 属	（留 学 生 を 除 く ） 在 学 者	採用者（令和4年4月1日～令和5年3月31日の実績）													奨学生数（令和5年3月更新時）				
		給付奨学金				第一種（無利息）				第二種（利息付）				合計	給付 奨学 金	第一 種（無 利息）	返 還 免 除	第二 種（利 息付）	合計
		予 約 採 用	在 学 採 用	家 計 急 変	計	予 約 採 用	在 学 採 用	緊 急 採 用	計	予 約 採 用	在 学 採 用	応 急 採 用	計						
教育学部	3,711	45	31	2	78	76	17	0	93	64	25	0	89	260	283	381	-	324	988
1年	906	45	24	2	71	76	12	0	88	64	18	0	82	241	70	86	-	77	233
2年	902	-	4	0	4	-	1	0	1	-	4	0	4	9	76	88	-	77	241
3年	902	-	3	0	3	-	4	0	4	-	2	0	2	9	74	111	-	89	274
4年	1,001	-	0	0	0	-	0	0	0	-	1	0	1	1	63	96	-	81	240
教育学研究科 （専門職学位）	149	-	-	-	-	0	11	0	11	0	3	0	3	14	-	21	2	5	26
1年	69	-	-	-	-	0	9	0	9	0	3	0	3	12	-	10	-	3	13
2年	80	-	-	-	-	-	2	0	2	-	0	0	0	2	-	11	2	2	13
教育学研究科（修士）	40	-	-	-	-	2	0	0	2	0	0	0	0	2	-	7	0	0	7
1年	17	-	-	-	-	2	0	0	2	0	0	0	0	2	-	2	-	0	2
2年	23	-	-	-	-	-	0	0	0	-	0	0	0	0	-	5	0	0	5
教育学研究科（博士）	18	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	1	0	0	1
愛知教育大学 1年	2	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	0
2年	5	-	-	-	-	-	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	-	0	0
3年	11	-	-	-	-	-	0	0	0	-	0	0	0	0	-	1	0	0	1
教育実践研究科	1	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0
1年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2年	1	-	-	-	-	-	0	0	0	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	33	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	0	1	1	-	0	-	1	1
	33	-	-	-	-	0	0	0	0	0	1	0	1	1	-	0	-	1	1

* 第一種と第二種の両方を貸与することもでき（併用貸与）、併用貸与者については、第一種、第二種にそれぞれ計上している。

在学者は、奨学金の対象とならない外国人留学生を除いた人数。

給付型奨学金	給付月額			給付期間
大 学	支援区分	自宅通学	自宅外通学	最長48か月
	第Ⅰ区分	29,200円	66,700円	
	第Ⅱ区分	19,500円	44,500円	
	第Ⅲ区分	9,800円	22,300円	
第一種（無利息）	貸与月額			貸与期間（緊急採用の場合を除く）
大 学	自宅通学者は、20,000円、30,000円、45,000円から選択 自宅外通学者は、20,000円、30,000円、45,000円、51,000円から選択			最長48か月
大学院	修士は50,000円、88,000円から選択 博士は80,000円、122,000円から選択			修士 最長24か月 博士 最長36か月
第二種（利息付）	貸与月額			貸与期間（応急採用の場合を除く）
大 学	2万円から12万円までの、1万円単位金額から選択			最長48か月
大学院	5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択			修士最長24か月、博士最長36か月
予約採用	入学前の申込で、進学前の在学中にて奨学金申請を行うもの。			
在学採用	入学後に大学を通じて奨学金申請を行うもの。			
緊急採用 応急採用	家計の急変（家計支持者が失職・病気・事故・会社倒産・死別又は離別・災害等）で奨学金を緊急に必要とする場合のもの。 家計急変採用は給付、緊急採用は第一種、応急採用は、第二種。			
返還免除	大学院第一種貸与者であって、在学中に特に優れた業績をあげた者として機構が認定した場合に奨学金の全部又は一部の返還が免除される制度。なお、申請にあたっては大学からの推薦が必要となる。			
給付奨学金	返還義務のないもの。支給金額は進学する学校の設置者・支援区分・通学形態により決定される。			

（４）生活支援

健康管理・健康相談

健康支援センター
利用時間
月～金曜日 8:30～17:00
スタッフ・職員構成（８人）
センター長（医師・教授・センター専任１人） 医師（教授１人） 准教授１人 看護師・保健師（常勤１人、非常勤１人） 臨床心理士（非常勤３人） 事務係長（事務・兼任１人） センター業務兼務者（事務・兼任１人）
相談の実績
第８章の健康支援センター参照

ハラスメント相談窓口

利用時間
相談窓口を設置し、常時受け付けている。
職員構成
性別バランスを考慮し、大学及び附属学校（園）の教育職員、事務職員、健康支援センターの保健師、計十数人の相談員で構成
業務内容
ハラスメントに関する相談 通知措置に関する相談 調停又は調査の申し立ての前に行われる手続きに関する相談

障害のある学生に対する支援

障害学生支援室
利用時間
月～金曜日 9:00～16:30
スタッフ・職員構成
室長(兼任) 副室長(兼任) コーディネーター(非常勤2人) 事務補佐員(事務1人)
業務内容
障害に対する社会的障壁の除去等に関する相談受付と関係部署への連絡調整 修学における合理的配慮事項に関する当事者・関係者との面談調整と配慮内容の決定
概要
・聴覚障害学生へのパソコンテイク等による情報保障支援 ・視覚障害学生支援のための情報保障支援 ・視覚障害学生学習チューターの養成 ・肢体不自由学生等への学生寮(バリアフリー室)の提供
聴覚障害学生への支援内容(情報保障支援学生団体「てくてく」の活動も含む)
・授業に対する情報保障ソフトを装備したノートPCを用いて2人1組で行うパソコンテイクの実施 ・式典や授業などに対する情報保障のため、学生団体及び外部団体に手話通訳者を依頼 ・オンライン授業における情報保障体制の整備(UDトークの使用、映像資料の字幕付け・文字起こし作業等)
【情報保障支援学生団体「てくてく」の活動内容】 ・2022年コーディネーター15名、利用学生2名 ・AUEパートナーシップ団体に継続申請し、承認を受けた。 ・主な活動実績 ○基礎的な実績(ノート・パソコンテイク練習会、遠隔テイク練習会、字幕付け及び遠隔テイク講座の開催及び手話を覚えられる企画などを計画し実行) ○岡崎聾学校の生徒に向けた説明会の開催(広報課の依頼による)
視覚障害学生への支援内容(学習チューター制度)
【学習チューターの活動内容】 ・教科書・資料のPDF化、PDF資料の文字情報への変換作業 ・図表やグラフ等、文字情報化されていない資料の読み上げの対面補助 ・図書館等での資料及び文献検索の補助 ・レポート作成時のレイアウト補助 ・必要書類の代筆
その他の支援
・パソコンテイク用ソフトを装備したノートPCを保有 ・式典や授業時、必要に応じて学外団体に手話通訳を依頼

どこに相談したらよいか分からない時

なんでも相談コーナー
利用時間
月～金曜日 9:00～16:30
スタッフ・職員構成
室長(兼任) 副室長(兼任) コーディネーター(非常勤2人) 事務補佐員(事務1人)
業務内容
学生からの相談受付と関係部署への連絡調整 その他学生に係る相談に関すること
相談の実績
42件

6 学生生活

(1) 課外活動の状況

ア 課外活動団体と加入者数

在学者数：3,993人

R4/5/1現在

		体育系団体	文化系団体	計
団体数		52	39	91
加入者数	男	923人	312人	1,235人
	女	989人	701人	1,690人
	計	1,912人	1,013人	2,925人
加入率		47.9%	25.4%	73.3%

* 在学者数及び加入者数は学部、大学院、専攻科の合計

* 加入率 = 加入者数（計）÷ 在学者数

イ AUEパートナーシップ団体（PS団体）

- ・ 本学学生が主体的・積極的に学内外で活動を行い、本学の教育、研究及び社会貢献活動に寄与しているとして、大学が認定した団体
- ・ P S 団体には認定証が授与され、活動拠点として学内のPS団体オフィスが利用や適宜必要物品の支援がある。
- ・ 活動に関する大学との意見交換が行われ（不定期、随時）、諸要望への支援についても検討している。

認定団体一覧

認定年度	団体名
平成29年度	情報保障支援学生団体てくてく
平成29年度	訪問科学実験わくわく
令和元年度	子どもの読書応援団体よみっこ
令和2年度	天文愛好会CORE
令和4年度	学生団体SAGA

(2) 大学祭、子どもまつり開催状況

	開催日	参加者数		
		こども	学生	備考
大学祭	令和4年5月14日（土）～5月15日（日） 5月21日（土）～5月22日（日）	-	2,600人	本祭・スポーツの祭典の合計
子どもまつり	令和4年5月8日（日）	249人	126人	学生数は、参加学生数と運営学生数の合計
秋の祭典	令和4年11月26日（土）～27日（日）	-	1,020人	本祭・スポーツの祭典の合計
冬の子どもまつり	令和4年12月11日（日）	207人	114人	学生数は、参加学生数と運営学生数の合計

7 卒業生・修了者の進路・就職の状況

(1) 進路・就職状況

詳細な所属別就職先等の進路状況は、別添資料「愛知教育大学 大学概要2023-2024」の「卒業生・修了生就職等状況」を参照ください。

各年度 5/1 現在（単位：人）

教育課程	卒業年度 修了年度	卒業生 修了者 a	進学者 b	就職希望者 c = a - b	就職者 d	就職率	
						進学者を 除く d/c	全ての 卒業・修了者 d/a
教育学部	平成30年度	891	69	822	776	94.4%	87.1%
	令和元年度	939	48	891	853	95.7%	90.8%
	令和2年度	907	62	845	784	92.8%	86.4%
	令和3年度	880	54	826	783	94.8%	89.0%
	令和4年度	875	44	831	792	95.3%	90.5%
教員養成課程	平成30年度	663	49	614	580	94.5%	87.5%
	令和元年度	702	30	672	651	96.9%	92.7%
	令和2年度	757	41	716	667	93.2%	88.1%
	令和3年度	751	39	712	677	95.1%	90.1%
	令和4年度	745	28	717	686	95.7%	92.1%
教育支援専門職 養成課程	平成30年度	—	—	—	—	—	—
	令和元年度	—	—	—	—	—	—
	令和2年度	130	20	110	102	92.7%	78.5%
	令和3年度	123	15	108	106	98.1%	86.2%
	令和4年度	129	16	113	106	93.8%	82.2%
現代学芸課程	平成30年度	228	20	208	196	94.2%	86.0%
	令和元年度	237	18	219	202	92.2%	85.2%
	令和2年度	20	1	19	15	78.9%	75.0%
	令和3年度	6	0	6	0	0.0%	0.0%
	令和4年度	1	0	1	0	0.0%	0.0%
教育学研究科 (教育実践高度 化専攻) (教職大学院)	平成30年度	—	—	—	—	—	—
	令和元年度	—	—	—	—	—	—
	令和2年度	—	—	—	—	—	—
	令和3年度	67	1	66	66	100.0%	98.5%
	令和4年度	60	0	60	60	100.0%	100.0%
教育学研究科 (教育支援高度 化専攻) (修士課程)	平成30年度	—	—	—	—	—	—
	令和元年度	—	—	—	—	—	—
	令和2年度	—	—	—	—	—	—
	令和3年度	18	1	17	14	82.4%	77.8%
	令和4年度	35	1	34	25	73.5%	71.4%
教育学研究科 (後期3年 博士課程)	平成30年度	2	0	2	2	100.0%	100.0%
	令和元年度	2	0	2	2	100.0%	100.0%
	令和2年度	4	0	4	4	100.0%	100.0%
	令和3年度	2	0	2	2	100.0%	100.0%
	令和4年度	1	0	1	1	100.0%	100.0%
教育学研究科 (修士課程) (旧専攻)	平成30年度	102	7	95	80	84.2%	78.4%
	令和元年度	76	2	74	63	85.1%	82.9%
	令和2年度	75	2	73	56	76.7%	74.7%
	令和3年度	13	0	13	12	92.3%	92.3%
	令和4年度	4	0	4	3	75.0%	75.0%
教育実践研究科 (教職大学院) (旧研究科)	平成30年度	50	1	49	49	100.0%	98.0%
	令和元年度	51	0	51	50	98.0%	98.0%
	令和2年度	41	0	41	41	100.0%	100.0%
	令和3年度	8	0	8	7	87.5%	87.5%
	令和4年度	1	0	1	1	100.0%	100.0%

* 本表は「大学概要2023-2024」の内容によるものであり、9月卒業・修了者及び外国人留学生を含む。

* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として計上

* 進学者は、教育学部は大学院又は専攻科への進学、大学院は大学院博士課程への進学についてのみ計上

* (旧研究科) (旧専攻) は募集停止した組織を示す。

(2) 教員就職の状況

卒業次年度 9/30 現在 (単位: 人)

教育課程	卒業年度 修了年度	卒業者 修了者 a=d+e+f	就職者					進学者 e	未就職 f	教員 就職率 b/a
			教員		b	教員以外 c	d = b+c			
			正規	臨時						
教育学部	平成30年度	884	267	155	422	353	775	69	40	47.7%
	令和元年度	931	324	139	463	392	855	48	28	49.7%
	令和2年度	764	342	118	460	223	683	42	39	60.2%
	令和3年度	750	332	180	512	166	678	39	33	68.3%
	令和4年度	744	368	144	512	174	686	28	30	68.8%
教員養成課程	平成30年度	659	257	140	397	184	581	49	29	60.2%
	令和元年度	696	310	131	441	212	653	30	13	63.4%
	令和2年度	747	340	117	457	212	669	41	37	61.2%
	令和3年度	745	332	180	512	166	678	39	28	68.7%
	令和4年度	744	368	144	512	174	686	28	30	68.8%
現代学芸課程	平成30年度	225	10	15	25	169	194	20	11	11.1%
	令和元年度	235	14	8	22	180	202	18	15	9.4%
	令和2年度	17	2	1	3	11	14	1	2	17.6%
	令和3年度	5	0	0	0	0	0	0	5	0.0%
	令和4年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
教育学研究科 教育実践高度化専攻 (教職大学院)	平成30年度	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	令和元年度	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	令和2年度	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	令和3年度	67	49	15	64	2	66	1	0	95.5%
	令和4年度	60	43	15	58	2	60	0	0	96.7%
教育学研究科 (後期3年 博士課程)	平成30年度	2	0	0	0	2	2	0	0	0.0%
	令和元年度	1	0	0	0	1	1	0	0	0.0%
	令和2年度	1	0	0	0	1	1	0	0	0.0%
	令和3年度	2	1	0	1	1	2	0	0	50.0%
	令和4年度	1	1	0	1	0	1	0	0	100.0%
教育学研究科 (修士課程)	平成30年度	91	35	14	49	33	82	6	3	53.8%
	令和元年度	71	22	11	33	37	70	1	0	46.5%
	令和2年度	58	29	5	34	22	56	0	2	58.6%
	令和3年度	30	3	3	6	21	27	1	2	20.0%
	令和4年度	37	2	0	2	28	30	2	5	5.4%
教育実践研究科 (教職大学院) (旧研究科)	平成30年度	50	43	5	48	1	49	1	0	96.0%
	令和元年度	51	43	7	50	0	50	0	1	98.0%
	令和2年度	41	36	5	41	0	41	0	0	100.0%
	令和3年度	8	4	4	8	0	8	0	0	100.0%
	令和4年度	1	0	1	1	0	1	0	0	100.0%

* 平成30年度～令和4年度の人数等は、文部科学省「教員養成学部等及び附属学校調査」の内容であり、9月卒業・修了者及び外国人留学生は含まない。なお、教育学研究科（修士課程）について、令和3年度より文科省調査における記載内容の変更があり、新旧両専攻を合わせた形で計上している。

* 教員は、幼、小、中、中等、高、特別支援学校の教員のみとし、大学教員や保育士等は教員以外に計上した。

* 大学院修了生で、現職教員等すでに就業している社会人も就職者として計上した。

* 進学者は、教育学部は大学院又は専攻科への進学者を、大学院は大学院博士課程への進学者を計上した。

* (旧研究科) は募集停止した組織を示す。

* 現代学芸課程は募集停止した組織を示し、また教育支援専門職養成課程は平成29年度改組後の課程で、教員免許が取得できない課程のため、卒業開始年度の令和2年度より記載していない。

8 FD活動（ファカルティ・ディベロップメント活動）

令和4年度実施状況

題目	実施組織	実施内容・方法	参加人数 (人)
全学FD集会（教職大学院）	教育学研究科 専門職学位課程(教職大学院)	実習に関して共通した理解を図ることを目的に、各実習の概略、実習指導当日における実習校での活動・指導例、実習校への初訪問時における具体的な打合せ内容等についての説明を対面により実施し、オンデマンド配信を行った。	35
全学FD研修会「次代を見据えた魅力ある教員養成プログラムの共創」	未来共創プラン【戦略7】教科横断探求プロジェクト	次代を見据えた魅力ある教員養成プログラムについてアイデアを共創することを目的に、教科等横断探究の視点から教育課程と評価指標を開発した経緯について基調提案を行い、調査研究報告ののち、ワークショップを対面により実施した。	26
学務部会中期計画研修会	評価委員会	第4期中期目標・中期計画の達成に向けて、学長のリーダーシップの下、全学体制で取り組む意識を醸成することを目的に、事前にオンデマンドで講義形式の研修を受講した上で、学務部会に関するグループ討議形式の研修を対面により実施した。	84
研究評価部会中期計画研修会	評価委員会	第4期中期目標・中期計画の達成に向けて、学長のリーダーシップの下、全学体制で取り組む意識を醸成することを目的に、事前にオンデマンドで講義形式の研修を受講した上で、研究評価部会に関するグループ討議形式の研修を対面により実施した。	47
未来共創部会中期計画研修会	評価委員会	第4期中期目標・中期計画の達成に向けて、学長のリーダーシップの下、全学体制で取り組む意識を醸成することを目的に、事前にオンデマンドで講義形式の研修を受講した上で、未来共創部会に関するグループ討議形式の研修を対面により実施した。	75
社会貢献部会中期計画研修会	評価委員会	第4期中期目標・中期計画の達成に向けて、学長のリーダーシップの下、全学体制で取り組む意識を醸成することを目的に、事前にオンデマンドで講義形式の研修を受講した上で、社会貢献部会に関するグループ討議形式の研修を対面により実施した。	50
業務・財務部会中期計画研修会	評価委員会	第4期中期目標・中期計画の達成に向けて、学長のリーダーシップの下、全学体制で取り組む意識を醸成することを目的に、事前にオンデマンドで講義形式の研修を受講した上で、業務・財務部会に関するグループ討議形式の研修を対面により実施した。	51
全学FD「学校教育における持続可能な開発のための教育とユネスコスクールの展開」	地域連携センター	ESDの重要性やユネスコスクールの活動について理解し、これからの教育にどのように取り組んでいけばよいか考える機会とすることを目的に、わかりやすく具体例を交え、紹介する講演会を対面により実施した。	10
全学FD「新時代に向けての大学のICT環境の未来—Web3ってなに？私たちはどこへ向かうの？新たな時代に向けた情報環境を考える」	ICT教育基盤センター	ICTを活用した新時代の教育への関わり方を参加者とともに考えることを目的に、10年先のICT環境の未来を展望し、教員養成大学としての充実した教育・研究を行う足がかりとなる話題提供とワークショップを対面により実施した。	18
全学FD講演会「Society5.0変化の時代GIGAスクールにおける学び」	教職キャリアセンター ICT 教育基盤センター	GIGAスクールの現状と、GIGAスクール構想のねらいや目指していることの理解を深め、日々の大学の授業改善や、教員を目指す学生が学校現場で必要とされるICT活用指導力を高める機会にすることを目的に、講演会を対面により実施し、オンデマンド配信を行った。	53
全学FD集会「学校教育と著作権」 オンライン研修会 第1回「学校教育と著作権の基本」 （初等中等教育機関向け）	教職キャリアセンター	著作権の基本を学ぶとともに、地域教育機関との連携・協力による著作権教育の推進を目指すことを目的に、全6回シリーズのオンラインによる研修会を実施し、オンデマンド配信を行った。	85
全学FD集会「学校教育と著作権」 オンライン研修会 第2回「学校教育と著作権の基本」 （高等教育機関向け）	教職キャリアセンター	著作権の基本を学ぶとともに、地域教育機関との連携・協力による著作権教育の推進を目指すことを目的に、全6回シリーズのオンラインによる研修会を実施し、オンデマンド配信を行った。	56
全学FD集会「学校教育と著作権」 オンライン研修会 第3回「児童生徒に対する著作権教育」	教職キャリアセンター	著作権の基本を学ぶとともに、地域教育機関との連携・協力による著作権教育の推進を目指すことを目的に、全6回シリーズのオンラインによる研修会を実施し、オンデマンド配信を行った。	42

全学FD集会「学校教育と著作権」 オンライン研修会 第4回「大学生に対する著作権教育」	教職キャリアセンター	著作権の基本を学ぶとともに、地域教育機関との連携・協力による著作権教育の推進を目指すことを目的に、全6回シリーズのオンラインによる研修会を実施し、オンデマンド配信を行った。	47
全学FD集会「学校教育と著作権」 オンライン研修会 第5回「大学と地域教育機関との連携・協力による著作権教育事業」	教職キャリアセンター	著作権の基本を学ぶとともに、地域教育機関との連携・協力による著作権教育の推進を目指すことを目的に、全6回シリーズのオンラインによる研修会を実施し、オンデマンド配信を行った。	42
全学FD集会「学校教育と著作権」 オンライン研修会 第6回「具体的事例による演習（ケーススタディ）」	教職キャリアセンター	著作権の基本を学ぶとともに、地域教育機関との連携・協力による著作権教育の推進を目指すことを目的に、全6回シリーズのオンラインによる研修会を実施し、オンデマンド配信を行った。	31
全学FD研修会「学生のICT活用指導力向上に向けて」	教職キャリアセンター	教職課程の講義全体を通じた学生のICT活用指導力向上に向け、全学の意識醸成とプロセスを共有することを目的に、事例発表で本学における学生のICT活用指導力に関する現状を共有し、意見交換を対面とオンライン（傍聴のみ）で実施し、オンデマンド配信を行った。	50
全学FD・SD集会「今、教育に求められるものとは～法律家の立場から～」	教育研究創成センター	弁護士や社外役員として企業の組織運営や人材養成に関わる立場と、愛知県教育委員会の教育委員・委員長として行政に携わった経験から、今考えるべき教育課題についての問題提起を目的に、講演会を対面により実施し、オンデマンド配信を行った。	29
授業公開（前期）（後期）	教育研究創成センター	対面実施とオンライン実施の合計12件の学部授業を公開し、その後ディスカッションを実施した。	115

9 未来基金を活用した活動

設立
平成28年9月
未来基金の概要
愛知教育大学は、これからの社会を担う子どもたちの未来を拓くことができる多様な人材の養成に資することを目的とし、次の事業を実施する。 1. 教育研究活動に関する支援事業 2. 修学に関する支援事業 3. 国際交流の推進に関する支援事業 4. 教育研究環境に関する整備事業 5. その他特に必要と認める事業
直近の取組（令和4年度以降）
平成28年9月に設立した「愛知教育大学未来基金」は、従来の「愛知教育大学教育研究基金(平成17年10月設立)」を見直し、新たに創設した「AUE修学支援基金」と「教育研究基金」の2種類で構成していた。『教育研究基金』は、従来の教育研究基金を引き継ぎ、学生表彰、留学生の交流支援、課外活動支援等幅広く学生等を支援している。『AUE修学支援基金』は、経済的に修学が困難な学生を対象に奨学金事業、留学支援事業を行っている。なお、『AUE修学支援基金』は、寄附金に対する税制上の優遇措置として、所得控除に加えて税額控除が選択できるようになっている。令和3年度からは、特定目的の事業を実施するため、使途を限定した『プロジェクト等使途限定基金』の整備をし、令和4年度からは、新たに未来基金リサイクル募金を導入し、4種類の構成となった。 創基150周年記念事業への募金活動の実施 本学が令和5年に創基150周年を迎えるにあたり、教育研究基金に『愛知教育大学創基150周年記念事業』を設置して、令和4年度と令和5年度に募金活動を行い、創基150周年記念事業を実施する。 令和4年度のその他の取組として ・給与からの控除寄附システムの導入 これまで本学教職員は、郵便振替・銀行振替・財務課窓口にて未来基金へ寄附していたが、利便性も考慮して、希望する教職員の給与から控除するシステムを整備し、希望者からの給与控除を開始した。 ・未来基金リサイクル募金の導入 新たな寄附受け入れの方法として、読み終えた本・DVD・ブランド品等の不用品による募金を開始した。 ・クレジットカード決済等の導入 新たな寄附手続きの方法として、インターネットでの申し込み・クレジットカード決済等による寄附を可能にした。
https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html

教育研究基金					
学生表彰、課外活動、留学生の交流等、幅広く学生支援を行うものです。					
収入		(単位：円)	支出（主な事業内容）		(単位：円)
前年度繰越		49,517,449	課外活動等支援	1件	200,000
前年度現物寄附 繰越高		3,500	愛知教育大学学生表彰規程第2条（表彰の基準）該当学生等への報奨金	4件	100,000
基金受入額		23,056,900	優秀学生に対する学長表彰	0件	0
企業団体	2件	1,007,900	大学院生の学会発表に伴う交通費の補助	0件	0
個人	211件	22,049,000	その他修学に関する支援事業	17件	170,000
運用益		6,012	交流協定大学からの留学生受け入れ事業	34件	2,000,000
			交流協定大学への留学希望学生に対する留学支援事業	25件	1,250,000
			交流協定大学等の協力による海外学校体験事業	17件	1,230,000
			その他国際交流の推進に関する支援事業	0件	0
			教育研究環境に関する整備事業	0件	0
			職員表彰	2件	20,000
			附属学校教員学費補填	8件	617,900
			銘板・事務費等		2,248,475
			振込手数料等		88,276
合計		72,583,861	合計		7,924,651

* 教育研究基金のうち、創基150周年記念事業寄附収入 6,334,000円（企業団体1件、個人84件）を含む。

AUE修学支援基金					
経済的な理由で修学に困難がある学生に対し支援を行うことにより、意欲と能力のある学生が希望する教育を受けられるよう支援するものです。用途が限定されており、具体的には、本学独自の返済不要な「愛知教育大学奨学金ひらく」の支給、学生の海外での多文化体験活動の支援に活用している。					
収入		(単位：円)	支出（主な事業内容）		(単位：円)
前年度繰越		11,557,700	学資支援奨学金	4件	400,000
基金受入額		4,502,500	緊急支援奨学金	2件	300,000
企業団体	0件		多文化体験活動	11件	740,000
個人	436件	4,502,500	振込手数料		48,922
運用益		0			
合計		16,060,200	合計		1,488,922

第5章 研究活動

1 学長裁量経費等の採択状況

ア 教職実践力向上重点研究費

教職実践力向上重点研究費は、教育改革や機能強化に資する大学の目指す方向性に沿った教職実践力向上等のための研究費である。学校現場等で有効に活用できる実践的・実証的な研究や地域固有の課題解決に資する研究あるいは取組、附属学校をはじめとする学校や教育委員会、企業等と連携した研究あるいは取組で、中期目標・中期計画や未来共創プランの達成に資する成果が期待できるもの、教員養成あるいは教育支援の質の向上につながる優れた研究成果が期待できるもの等について、学内公募により優れたプロジェクトを選定、経費配分する。公募分野は、1 教育改善分野、2 連携推進分野、3 研究発展分野がある。

(単位：千円)

公募分野	研究課題名	学系・講座	研究代表者	採択額
1 教育改善分野	働き方改革に対する「ローカルな実践」の実現可能性に関する実証的研究	教育科学系 学校教育講座	片山 悠樹	664
1 教育改善分野	神戸市における訪問教師の実践特性	教育科学系 福祉講座	輪倉 一広	201
1 教育改善分野	成年年齢の引き下げに関連する消費者教育・金融経済教育の課題研究	教育科学系 教育ガバナンス講座	西尾 圭一郎	122
1 教育改善分野	本学「理科初等教育内容」及び「生物学実験」の授業用テキストの作製・出版	自然科学系 理科教育講座	島田 知彦	396
1 教育改善分野	働き方改革につながる教育支援ソフトの開発と評価	創造科学系 技術教育講座	磯部 征尊	500
2 連携推進分野	大学と附属高校の連携による「共創的探究活動指導力」育成プログラムの開発	理事	杉浦 慶一郎	683
2 連携推進分野	知的障害特別支援学校におけるICTを活用した「協働的な学び」を促進させるための授業改善に関する実践研究	教育科学系 特別支援教育講座	小倉 靖範	822
2 連携推進分野	附属学校園における定期テスト等のICTの活用	附属岡崎中学校	手島 英樹	548
3 研究発展分野	学校の実情に合わせた心理教育プログラムの実施と社会的目標構造の認知が小学生の学校適応感に及ぼす効果の検討－児童の「強み」介入による短期縦断的研究－	教育科学系 心理講座	鈴木 伸子	809
3 研究発展分野	児童の問題解決学習を促進するプログラミング的思考の育成方法の検討	自然科学系 情報教育講座	齋藤ひとみ	383
3 研究発展分野	相対論的磁気流体宇宙ジェットで探るブラックホール影領域の解明	自然科学系 理科教育講座	高橋 真聡	280
3 研究発展分野	小学校体育科の「学び直しの充実」を支援する指導資料の作成と活用に関する基礎研究	創造科学系 保健体育講座	鈴木 一成	520
合計				5,928

イ 教員養成高度化推進設備等経費

教員養成高度化推進設備等経費は、大学及び附属学校における教育上必要であり、かつ教員養成の高度化もしくは教育支援専門職養成に資する教育活動を推進する設備を充実するための経費である。

(単位：千円)

設備名	学系・講座	代表者	採択額
プロジェクター設備一式	創造科学系 保健体育講座	上原三十三	1,000
製氷機ウォータークーラー	創造科学系 保健体育講座ほか	上原三十三	1,405
電子黒板、大型ディスプレイ	創造科学系 家政教育講座	青木香保里	1,000
放送室設備更新	附属名古屋中学校	石川 恭	4,001
モバイルプロジェクター	附属岡崎小学校	沓名正樹	440
どこでも放送室（ライブストリーミングBOX）	附属岡崎小学校	沓名正樹	384
高輝度プロジェクター、短焦点プロジェクター、書籍	附属特別支援学校	鈴木則明	1,667
合計			9,897

ウ 科研費獲得サポート重点研究費

科研費獲得サポート重点研究費は、教員養成あるいは教育支援の質の向上につながる研究成果が見込める研究チームを学内研究者で組織し、その成果・業績を今後の科研費獲得につなげるための研究費である。

(単位：千円)

研究課題名	学系・講座	代表者	採択額
スクールソーシャルワーカーの就職に影響を与える要因－養成校への調査	教育科学系 福祉講座	厨子 健一	219
神経発達障害に関わる認知機能の構造についての研究	教育科学系 心理講座	原 幸一	150
人間と親和性の高いソフトロボット用形状記憶合金/ポリマー複合材の開発	創造科学系 技術教育講座	北村 一浩	292
食農ものづくりと人づくり－愛教大キャンパスの自然環境を活用した農作物の栽培と品質評価－	創造科学系 家政教育講座	筒井 和美	500
合計			1,161

2 外部研究資金獲得状況

(1) 科学研究費助成事業

研究種目	申請・内定状況								資金獲得状況			
	新規				継続				新規/継続 合計			
	申請数	内定数	内定金額(円)		申請数	内定数	内定金額(円)		採択数	採択金額(円)		
			直接経費	間接経費			直接経費	間接経費		合計	直接経費	間接経費
科学研究費	78	21	49,800,000	14,940,000	44	44	33,900,000	10,170,000	64	104,390,000	80,300,000	24,090,000
特別推進研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (S)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基盤研究 (B)	5	0	0	0	2	2	7,000,000	2,100,000	2	7,670,000	5,900,000	1,770,000
基盤研究 (C)	64	18	45,900,000	13,770,000	37	37	23,900,000	7,170,000	56	91,390,000	70,300,000	21,090,000
挑戦的研究 (開拓)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究 (萌芽)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究 (B)	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究	2	0	0	0	5	5	3,000,000	900,000	6	5,330,000	4,100,000	1,230,000
研究活動スタート支援	4	3	3,900,000	1,170,000	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究成果公開促進費	3	2	720,000	0	0	0	0	0	2	720,000	720,000	0
研究成果公開発表	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際情報発信強化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学術図書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
データベース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひらめき☆ときめきサイエンス	3	2	720,000	0	0	0	0	0	2	720,000	720,000	0
国際共同研究加速基金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化 (A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化 (B)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帰国発展研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特設分野研究基金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* 当該年度の科学研究費助成事業に係る年間の実績を示す。なお、申請は、前年度に行われるが、「研究活動スタート支援」「国際共同研究強化(A)(B)」「帰国発展研究」は当該年度に申請する。

研究代表者として申請した研究課題のみ示し、研究分担者として参加する課題は含まない。また、最終年度に期間延長した課題も件数に含めない。

申請件数・内定件数・内定金額は本学から申請したものに対して内定のあった件数・金額を示し、採択件数・採択金額は人事異動等を反映した後に本学に配当された金額を示す。

(交付申請時の金額。基金分の前倒し・育休等に伴う延長による金額変更は反映しないが、育休等に伴う延長は件数には含める。)

(2) 受託研究、共同研究、受託事業

令和4年度受託研究費受入状況

(単位：千円)

No.	受託先・事業名	件名（研究題目）	研究者名	契約金額*			研究対象	競争的
				合 計	直接経費	間接経費		
受託研究費				総計	1,548	1,191	357	
国・地方公共団体				合計	1,248	960	288	
1	豊明市	ナガバノイシモチソウ群落の多様性及びクローン構造の解析	渡邊 幹男	150	115	35	○	
2	刈谷市	小堤西池における遺伝子解析	渡邊 幹男	600	462	138	○	
3	知立市	知立の松並木遺伝子解析調査	渡邊 幹男	498	383	115	○	
その他				合計	300	231	69	
4	公益財団法人河川財団	「全国河川・水教育大学間ネットワーク」事業における河川・水教育推進業務	大鹿 聖公	300	231	69	○	

* 契約金額は当該年度に支給した金額

令和4年度共同研究費受入状況 該当なし

令和4年度受託事業費受入状況

(単位：千円)

No.	受託先・事業名	件名（研究題目）	事業担当	契約金額*			研究対象	競争的
				合 計	直接経費	間接経費		
受託事業費				総計	17,993	16,854	1,139	
国・地方公共団体				合計	15,818	14,679	1,139	
1	文部科学省総合教育政策局	多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究	日本語教育支援センター	8,629	8,110	519		
2	文部科学省総合教育政策局	令和4年度学校図書館司書教諭講習	地域連携課	652	652	0		
3	【三市合計】 知立市 刈谷市 豊田市	外国人児童生徒のための学習支援（三市負担）	地域連携課	3,000	2,727	273		
				1,000	909	91		
				1,000	909	91		
				1,000	909	91		
4	文部科学省生涯学習政策局	令和4年度社会教育主事講習	地域連携課	2,563	2,409	154		
5	愛知県(愛知県教育委員会)	あいちSTEM能力育成事業 知の探究講座	学術研究支援課	231	210	21		
6	安城市	文化財悉皆調査	学術研究支援課	743	571	172		
その他				合計	2,175	2,175	0	
7	一般財団法人 三菱みらい育成財団	愛教大SEHプロジェクト（附属高等学校）	附属学校課	1,449	1,449	0		
8	社会福祉法人 刈谷市社会福祉協議会	附属高等学校の社会福祉教育指定校活動事業	附属学校課	55	55	0		
9	公益財団法人ちゅうでん教育振興財団	第22回ちゅうでん教育振興助成	附属学校課	200	200	0		
10	愛知学長懇話会	高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ2022	総務課	100	100	0		
11	一般社団法人国立大学協会	「大学改革シンポジウム」 学校・メディア・大学で共創する教育の未来	学術研究支援課	371	371	0		

* 契約金額は当該年度に支給した金額

(3) 寄附金

令和4年度研究活動に係る寄附金受入状況

(単位：千円)

No.	寄附金名称等	寄付者等	受入者等	寄附金額
総計				3,270
1	NMRの測定に関する研究助成	愛知県立半田高等学校 教諭 小澤 堯 ほか	自然科学系	180
2	パナソニック教育財団 「共同研究」助成金	公益財団法人パナソニック教育財団 理事長 小野元之	自然科学系	500
3	湿地性植物の遺伝子解析に関する研究	グリーンフロント研究所株式会社 代表取締役 小串 重治	教育科学系	300
4	新規燃料電池用触媒担持カーボン合成法の探索及び拡散層に関する研究	トヨタ紡織株式会社ユニット部品開発部 部長 山下 与史也	自然科学系	290
5	公益財団法人幸財団 2022年度第11回人文・社会科学系学術研究助成	創造科学系 技術教育講座 磯部 征尊	創造科学系	1,000
6	公益財団法人幸財団2022年度第11回人文・社会科学系学術研究助成	人文社会科学系 外国語教育講座 平沼 公子	教育科学系	1,000

3 研究成果の公表とその現状

(1) 研究者総覧システム

正式公開	2009年9月
公開内容	本学全教員のプロフィール、研究業績、教育業績、社会活動及び管理運営実績情報等
URL	https://souran.aichi-edu.ac.jp/

(2) 学術情報リポジトリ

正式公開	2009年1月
概要	本学における教育・研究活動により創造された教育・研究成果及び本学が所蔵する学術情報資料を、電子的な形式で恒久的に蓄積・保存し、ネットワークを通じて学内外に無償で発信・提供することにより、本学の教育・研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を果たすもの
公開内容	紀要、論文、学長裁量経費や大学教育研究重点配分経費の成果報告書、学位論文の抄録、教員インタビュー等
URL	https://aue.repo.nii.ac.jp/
論文登録数	345件（令和4年度累計）
ダウンロード数	732,746件（令和4年度累計）

(3) 愛知教育大学出版会

設立	2005年6月
設立の経緯	愛知教育大学出版会は、2005年（平成17年）に研究成果を社会へ還元するという、大学の社会的使命を実現する有効な手段の一つとして設立された。以来、急激な時代の変容のなかで現代的な教育課題を始め、対応が困難な教育問題が次々と生起している社会的状況をふまえ、これまでに蓄積された研究の成果や実践的な教育理論や方法が活用されるように、出版活動をとおして教育界を始め広く社会に発信を続けている。
形態	法人の内部組織。国立大学法人愛知教育大学が、自らの責任において主体的に出版会の運営にあたる。
販売方法	愛知教育大学生協同組合及びAmazon（平成23年度に法人登録及び商品登録）
URL	https://www.auepres.aichi-edu.ac.jp/

(4) アカデミックカフェの実施

概要	地域から頼られる大学を目標に、市民や学生がお茶とお菓子を楽しみながら大学教員と最先端の学問や研究について気軽に語り合うもの。高度な専門知識に関する市民からの素朴な質問やユニークな意見に対して、研究者として大学教員が分かりやすく説明し、大学に対して親しみを感じてもらう場として、また、生涯教育の場としても活用されるよう心がけて実施している。		
令和4年度実績	第26回	日時	令和4年7月28日（木）17:30～19:00
		講師	下村 美刈 特別教授（愛知教育大学 心理講座）／ 名誉教授
		演題	「子どもと家族のトラウマケア」
		参加人数	53人
	第27回	日時	令和4年12月15日（木）17:30～19:00
		講師	大鹿 聖公 教授（愛知教育大学 理科教育講座）／ 地域連携センター長
		演題	「身近なところからみんなで始めるSDGs～持続可能な社会を生き抜くために～」
		参加人数	28人

第6章 地域連携・社会貢献

1 非正規学生の受入状況

当該年度4/1～3/31（単位：人）

年間受入人数	合計	教育学部	教育学研究科 (修士課程)	教育学研究科 (専門職学位課程)	左記以外 (所属なし)
一般	9	5	1	0	3
研究生	1	1	0	0	0
科目等履修生	5	4	1	0	0
大学院特別研究学生	0	0	0	0	0
特別聴講学生	0	0	0	0	0
内地留学生	3	0	0	0	3
うち特殊教育内地留学生	0	0	0	0	0
うち現職教員派遣内地留学生	3	0	0	0	3
外国人留学生	35	27	8	0	0
研究生	12	9	3	0	0
科目等履修生	0	0	0	0	0
大学院特別研究学生	0	0	0	0	0
特別聴講学生	18	18	0	0	0
教員研修留学生	5	0	5	0	0

2 公開講座

令和4年度開設状況

公開講座規程上の種類	開設講座数	実施講座数	受講者数
一般公開講座	23 講座	21 講座	134 人
現職教育公開講座	15 講座	9 講座	57 人
免許法認定公開講座	13 講座	12 講座	442 人
本学主催 小計	51 講座	42 講座	633 人
連携公開講座	18 講座	18 講座	577 人
各市との連携講座 小計	18 講座	18 講座	577 人
合計	69 講座	60 講座	1,210 人

3 教員研修

令和4年度教員派遣実績（愛知県総合教育センター）

（単位：人）

区分	研修・講座名	派遣延べ人数
(1) キャリア・アップ研修 ア 初任者研修	特別支援学校初任者研修	1
	新規採用養護教諭研修	1
	中学校初任者研修	1
イ 少経験者研修	小学校2年目教員研修	3
ウ 中堅教諭等資質向上研修	小学校中堅教諭資質向上研修	35
	中学校中堅教諭資質向上研修	11
	高等学校中堅教諭資質向上研修	18
	特別支援学校中堅教諭資質向上研修	3
	中堅栄養教諭資質向上研修	2
(2) リーダー研修	外国人児童生徒教育講座	1
	教科情報における文部科学省教材活用講座	4
	小中学校社会体験型教員研修	1
(3) スキル・アップ研修	特別支援教育講座	1
	いじめ・不登校など今日的課題に対応する教育相談講座	1
	教育相談コーディネーター養成講座	1
	特別支援学校におけるセンター的機能強化講座	1
	ICT活用実践講座	4
	学級・学年づくりに生かす教育相談講座	1
合 計		90

4 相談事業

(1) こころの支援研究部門

相談件数	件数	備考
新規 受理件数	44件	(令和3年度 41 件)
昨年度からの引き継ぎ件数	61件	-
合 計	105件	
面接 延べ回	926回	(内訳) 大学院生826回、研究協力員 92 回、講座教員 14 回

* 面接は、複数のスタッフが関わることもあるため、面接延べ回数と内訳の合計は一致しない。

ア 相談内容別

相談内容	件数	比率
不登校・登校渋り	39件	37.1%
対人関係	12件	11.4%
家族関係	2件	1.9%
場面緘黙・緘黙傾向	7件	6.7%
発達に関する相談	14件	13.3%
情緒不安定	1件	1.0%
非行・怠学・生活の乱れ	1件	1.0%
自分自身について	7件	6.7%
いじめ	0件	0.0%
育児不安	1件	1.0%
虐待	0件	0.0%
引きこもり	1件	1.0%
家庭内暴力	1件	1.0%
対人不安・対人恐怖	3件	2.9%
その他の不安・恐怖	3件	2.9%
パニック	1件	1.0%
トラウマ	0件	0.0%
強迫傾向	0件	0.0%
摂食障害	0件	0.0%
心身症	0件	0.0%
うつ	1件	1.0%
将来への不安	0件	0.0%
その他	11件	10.5%
合 計	105件	

イ 相談者年齢別

年齢区分	人数	比率
乳幼児	5人	4.8%
小学生	22人	21.0%
中学生	8人	7.6%
高校生	7人	6.7%
大学生	1人	1.0%
学生以外未成年	1人	1.0%
20代（学生以外）	4人	3.8%
30代（学生以外）	9人	8.6%
40代（学生以外）	36人	34.3%
50代（学生以外）	10人	9.5%
60代以上（学生以外）	2人	1.9%
合 計	105人	

ウ 面接形態別

面接形態	件数	比率
個人面接（子どものみ、保護者のみのカウンセリング）	18件	17.1%
並行面接（子どもと保護者と並行して行うカウンセリング）	87件	82.9%
家族面接（家族が来訪し、家族面接となる場合）	0件	0.0%
その他（心理検査など）	0件	0.0%
合 計	105件	

(2) そだちの支援研究部門

相談件数	件数
新規 受理件数	12件
昨年度からの引き継ぎ件数	40件
合 計	52件

ア 相談内訳別

相談内容	件数	比率
発達障害	51件	98.1%
ビジョントレーニング	1件	1.9%
合 計	52件	

イ 相談者年齢別

年 齢 区 分	人 数	比 率
乳幼児（就学前）	10人	19.3%
児童（小学生）	26人	50.0%
生徒（中学生）	12人	23.1%
生徒（高校生）	2人	3.8%
乳幼児、児童、生徒を除く未成年	0人	0.0%
成人	2人	3.8%
合 計	52人	

ウ 面接形態別

面 接 形 態	件数	比率
親単独面接	5件	9.6%
親子並行面接	46件	88.5%
個人面接	1件	1.9%
合 計	52件	

エ 月別面接回数

実施月	回数 (対面)	回数 (遠隔)	小計
4月	45回	1回	46回
5月	81回	1回	82回
6月	72回	0回	72回
7月	91回	2回	93回
8月	38回	0回	38回
9月	69回	1回	70回
10月	80回	1回	81回
11月	84回	0回	84回
12月	81回	1回	82回
1月	73回	1回	74回
2月	100回	1回	101回
3月	72回	0回	72回
合 計	886回	9回	895回

5 ボランティア活動

令和5年3月31日時点

	募集先	事業名	ボランティア 学生数
(2) 一般 (学習支援関係)	日進市教育委員会	学校教育支援学生サポーター配置 事業	1人
(3) 一般 (その他)	こども夢の商店街実行委員会 事務局	こどもサポーター募集事業	15人

* 外国人児童支援ボランティアの近隣市への学生派遣状況については、第8章 1 日本語教育支援センター（1）外国人児童生徒学習支援への学生派遣を参照

6 教育機関等との連携・協定

本学ウェブサイト参照

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/kyotei.html>

第7章 国際交流

1 留学生の受入状況

(1) 外国人留学生在籍者

(単位：人)

所属・学生区分別	R4/ 5/ 1 現在									R4/ 4/ 1 ~ R5/ 3/31								
	国費			私費			合計			国費			私費			合計		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
総計	4	4	8	13	35	48	17	39	56	5	4	9	15	42	57	20	46	66
教育学部	1	0	1	3	5	8	4	5	9	1	0	1	3	8	11	4	8	12
正規学生	0	0	0	2	1	3	2	1	3	0	0	0	2	1	3	2	1	3
1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1
3年	0	0	0	1	1	2	1	1	2	0	0	0	1	1	2	1	1	2
4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非正規学生	1	0	1	1	4	5	2	4	6	1	0	1	1	7	8	2	7	9
研究生	1	0	1	1	4	5	2	4	6	1	0	1	1	7	8	2	7	9
科目等履修生	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0
大学院教育学研究科	1	1	2	7	21	28	8	22	30	2	1	3	7	21	28	9	22	31
正規学生	1	0	1	7	20	27	8	20	28	1	0	1	7	20	27	8	20	28
修士課程	0	0	0	6	19	25	6	19	25	0	0	0	6	19	25	6	19	25
1年	0	0	0	3	9	12	3	9	12	0	0	0	3	9	12	3	9	12
2年	0	0	0	3	10	13	3	10	13	0	0	0	3	10	13	3	10	13
後期3年博士課程	1	0	1	1	1	2	2	1	3	1	0	1	1	1	2	2	1	3
1年	1	0	1	0	1	1	1	1	2	1	0	1	0	1	1	1	1	2
2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1
非正規学生	0	1	1	0	1	1	0	2	2	1	1	2	0	1	1	1	2	3
研究生	0	1	1	0	1	1	0	2	2	1	1	2	0	1	1	1	2	3
科目等履修生	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0
特別研究学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	3	5	3	9	12	5	12	17	2	3	5	5	13	18	7	16	23
特別聴講学生	0	0	0	3	9	12	3	9	12	0	0	0	5	13	18	5	13	18
教員研修留学生	2	3	5	—	—	—	2	3	5	2	3	5	—	—	—	2	3	5

(単位：人)

国籍別	R4/ 5/ 1 現在									R4/ 4/ 1 ~ R5/ 3/31								
	国費			私費			合計			国費			私費			合計		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
総計	4	4	8	13	35	48	17	39	56	5	4	9	15	42	57	20	46	66
アジア	2	1	3	12	34	46	14	35	49	3	1	4	13	41	54	16	42	58
ネパール				1	1		1	1					1	1		1	1	
バングラデシュ	1		1				1		1	1		1				1		1
タイ													1	1		1	1	
マレーシア				1	1		1	1					1	1		1	1	
インドネシア				1	3	4	1	3	4	1		1	1	4	5	2	4	6
韓国				2	2		2	2					2	2		2	2	
モンゴル				1	1		1	1					1	1		1	1	
ベトナム				1	1		1	1					1	1		1	1	
中国				9	22	31	9	22	31				10	26	36	10	26	36
カンボジア	1	1	2				1	1	2	1	1	2				1	1	2
台湾				2	3	5	2	3	5				2	4	6	2	4	6
アフリカ	2	0	2	0	0	0	2	0	2	2	0	2	0	0	0	2	0	2
チュニジア	1		1				1		1	1		1				1		1
ボツワナ	1		1				1		1	1		1				1		1
オセアニア	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1
トンガ		1	1					1	1		1	1					1	1
中南米	0	1	1	1	1	2	1	2	3	0	1	1	1	1	2	1	2	3
エルサルバドル		1	1					1	1		1	1					1	1
ブラジル				1	1	2	1	1	2				1	1	2	1	1	2
ヨーロッパ	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	2
ドイツ													1		1	1		1
キルギス		1	1					1	1		1	1					1	1

(2) 留学生支援

外国人留学生チューターの配置実績

学習 チューター	36人	留学生の専攻に関係する学生
日本語 チューター	31人	日本語能力を確認し、日本語チューターが必要な留学生にのみ日本語チューターを配置

2 在学生の海外留学

海外派遣実績

当該年度 4/1～3/31 の実績 (単位：人)

国・地域	派遣先大学	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		2017	2018	2019	2020	2021	2022
米国	ボールステイト大学						
英国	ニューマン大学	3	1	2		1	
ドイツ	フライブルク教育大学	2	2	2		1	1
香港	香港教育大学	2				1	1
台湾	台湾師範大学		1				1
韓国	晋州教育大学校		1				
インドネシア	国立ジョグジャカルタ大学					1	
合計		7	5	4	0	4	3

3 国際学術交流協定締結校

(1) 締結状況

令和5年3月31日 現在

国際学術交流協定締結校		協定内容		締結年月
合計 27校		学術交流	学生交流	
アジア	19 校			
タイ	AUE・ラチャパット・コンソーシアム (9 校)	○	○	1996年 5 月 (2004年改訂)
インドネシア	国立スラバヤ大学	○	○	2005年 3 月 (2012年改訂)
	国立ジョグジャカルタ大学	○	○	2009年11月 (2014年改訂)
香港	香港教育大学	○	○	2008年 5 月 (2015年改訂)
韓国	国立晋州教育大学校	○	○	1997年 5 月 (2007年改訂)
	国立光州教育大学校	○	○	2011年6月
	国立京仁教育大学校	○	○	2016年10月
モンゴル	モンゴル国立教育大学	○	○	2015年3月
ベトナム	ハノイ教育大学	○	○	2003年10月
中国	南京師範大学	○	○	1988年11月 (2011年改訂)
	東北師範大学	○	○	2010年4月
	湖南師範大学	○	○	2012年3月
	陝西師範大学	○	○	2019年11月
	北京師範大学	○	○	2019年11月
カンボジア	国立教育研究所	○	○	2014年7月
台湾	国立彰化師範大学	○	○	2004年5月
	国立聯合大学	○	○	2006年11月
	国立台湾師範大学	○	○	2011年8月
	国立台北教育大学	○	○	2012年3月
中東	1 校			
イラン	ファルハンギアン教育大学	○	-	2017年7月
北米	3 校			
アメリカ合衆国	ボールドステイト大学	○	○	1988年 5 月 (2000年改訂)
	ニューヨーク州立大学フレドニア校	○	○	1988年 6 月 (2014年改訂)
	インディアナ州立大学	○	○	2021年3月
中南米	1 校			
ブラジル	サンパウロ大学	○	○	2013年1月
ヨーロッパ	3 校			
英国	ニューマン大学	○	○	2003年 3 月 (2023年改訂)
ドイツ	フライブルク教育大学	○	○	2006年3月
ロシア	モスクワ教育大学	○	○	1994年 3 月 (2003年改訂)

* 協定内容 学術交流：学術交流に関する協定(学生交流を含む) 学生交流：学生交流計画に関する協定

* アフリカ、オセアニアには国際学術交流協定締結校なし。

* アメリカ合衆国のインディアナ州立大学について、協定内容(学生交流)を修正した。

(2) 単位互換

令和4年度単位認定の状況

(単位：人)

国際学術交流協定締結校	認定者数	備 考
国立晋州教育大学校	0	2013年 9 月調印
国立ジョグジャカルタ大学	0	2019年 8 月締結

(3) 研究者等の受入状況

国際学術交流協定締結校からの招へい教職員受入実績

当該年度 4/1～3/31 の実績 (単位: 人)

	平成29年度 2017			平成30年度 2018			令和元年度 2019			令和2年度 2020			令和3年度 2021			令和4年度 2022		
	教員	事務職員	計	教員	事務職員	計	教員	事務職員	計	教員	事務職員	計	教員	事務職員	計	教員	事務職員	計
計	2	1	3	1	1	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1
中国							1	1										
韓国																		
台湾				1		1												
インドネシア	1		1															
タイ	1		1		1	1												
アメリカ		1	1															
ベトナム							1	1										
モンゴル							1	1								1		1

4 大学間交流行事

令和4年度 大学間交流受入行事

受入年月	行事等	受入人数
2022年10月	国立ジョグジャカルタ大学（インドネシア）との学生交流オンラインプログラム	学生15人
11月	モンゴル国立教育大学からのショートステイプログラム	学生12人、教員4人

令和4年度 大学間交流派遣行事

派遣年月	行事等	派遣人数
2022年9月	フライブルク教育大学（ドイツ）へのショートビジットプログラム	学生3人、教員2人
9月	国立晋州教育大学校（韓国）へのショートビジットプログラム	学生3人、教員2人
10月	インディアナ州立大学（アメリカ）への交流プログラム	学生1人、教員2人
2023年1月	国立教育研究所（カンボジア）への健康教育支援プロジェクト	学生6人、教職員7人
2月	香港教育大学（香港）へのショートビジットプログラム	学生6人、教員1人
2月	国立教育研究所（カンボジア）へのショートビジットプログラム	学生5人、教員1人
2月	国立スラバヤ大学（インドネシア）へのショートビジットプログラム	学生8人、教員1人

5 外国人教員の採用状況

外国人教員（本務教員）在籍状況

令和4年5月1日 現在 (単位: 人)

国 籍	教 授	准教授	講 師	合 計
カナダ		1		1
韓国		1 (1)		1 (1)
ドイツ	1			1
合 計	1	2 (1)		3 (1)

* ()は女性の人数で内数

外国人教員（兼務教員）在籍状況

令和4年5月1日 現在 (単位: 人)

国 籍	合 計	分 野
オーストラリア	1	英語
アメリカ合衆国	1	英語
イギリス	1	英語
中国	3 (2)	中国語／中国語／社会教育演習
ブラジル	2 (2)	ポルトガル語／ポルトガル語
フランス	1 (1)	フランス語
モンゴル	1 (1)	教育課程論
合 計	10 (6)	

* ()は女性の人数で内数

第 8 章 附属施設の概要

1 附属図書館

ア 施設規模

令和 4 年 5 月 1 日現在

各フロア集計	延床面積	閲覧座席数	収納可能冊数	情報コンセント	
				有線ポート	無線LAN
合計	5,861 m ²	411 席	766,300 冊	105	
1 階	1,933 m ²	0 席	523,900 冊	0	無
書庫	1,526 m ²		523,900		
その他	407 m ²				
2 階	1,945 m ²	221 席	68,900 冊	21	有
閲覧スペース	152 m ²	28	8,200		
学修スペース	509 m ²	193		21	
書庫	132 m ²		60,700		
事務室	194 m ²				
その他	958 m ²				
3 階	1,928 m ²	190 席	173,500 冊	84	有
閲覧スペース	1,440 m ²	154	173,500	84	
学修スペース	107 m ²	36			
その他	381 m ²				
屋上	55 m ²	0 席	0 冊	0	無
塔屋	55 m ²	0	0	0	

イ 蔵書状況及び受入状況

蔵書数は令和 5 年 3 月 31 日現在、受入数は当該年度累計

項目名	蔵書数	受入数
図書	615,498 冊	4,427 冊
和書	489,395 冊	4,207 冊
洋書	126,103 冊	220 冊
雑誌	10,635 種	507 種
和雑誌	8,779 種	461 種
洋雑誌	1,856 種	46 種
電子ジャーナル契約	5,319 タイトル	
うち外国書	1,541 タイトル	
視聴覚資料	2,618 点	
学術情報リポジトリ登録件数	8,576 件	

ウ 開館状況

当該年度累計

	開館日数	開館時間数
合計	289 日	2,972 h
平日		
通常	66 日	528 h
延長	158 日	2,054 h
土日祝日	65 日	390 h
休館日数	76 日	-

通常開館 : 平日 月～金 9:00～17:00

延長開館 : 平日 月～金 9:00～22:00

休日 土・日・祝日 11:00～17:00

* 休業期間中又は行事等により、開館日時の変更あり。

エ 利用状況

(当該年度累計)

	利用者別				合計
	教職員	学生	学内者	学外者	
入館者数	-	-	116,160 人	3,612	119,772 人
平 日	-	-	109,828 人	2,929	112,757 人
土日祝	-	-	6,332 人	683	7,015 人
貸出冊数	5,353 冊	28,695 冊	34,048 冊	988	35,036 冊
平 日	4,866 冊	25,208 冊	30,074 冊	767	30,841 冊
土日祝	487 冊	3,487 冊	3,974 冊	221	4,195 冊
参考業務	1,406 件	2,042 件	3,448 件	1,321	4,769 件
相互利用件数	1,066 件	223 件	1,289 件	883	2,172 件
相互貸出	256 件	10 件	266 件	576	842 件
受付	-	-	-	576	576 件
依頼	256 件	10 件	266 件	-	266 件
文献複写	810 件	213 件	1,023 件	307	1,330 件
学内受付	154 件	0 件	154 件	0	154 件
学外受付	-	-	-	307	307 件
依頼	656 件	213 件	869 件	-	869 件
レファレンス件数	286 件	1,803 件	2,089 件	317	2,406 件
所在調査	57 件	442 件	499 件	78	577 件
事項調査	42 件	23 件	65 件	22	87 件
利用指導	187 件	1,338 件	1,525 件	217	1,742 件
その他件数	54 件	16 件	70 件	121	191 件
謝絶、紹介状受付件数等	54 件	16 件	70 件	121	191 件
学術情報リポジトリ					732,746 件
ダウンロード件数					732,746 件

*ダウンロード件数：検索サイト（Google、Yahoo等）による巡回アクセス数は含まない。

オ 多目的スペース使用状況

使用期間	タイトル	主 催 者	使用目的
4月15日～6月1日	「本嫌いをなしにする 74 冊」	図書館運営室	展示
4月27日	「混声合唱団新歓演奏会」	混声合唱団	コンサート
7月6日	「第8回デジタル教科書研修会」(日本文教出版 図工/美術)	教務企画課	研修会
7月7日～7月31日	「愛知教育大学教員の著者図書展示」	図書館運営室	展示
7月20日	「混声合唱団学内演奏会」	混声合唱団	コンサート
11月26日～11月27日	「個人グループElectone Live in AUE」	学生（社会専修）	コンサート
11月9日～12月7日	「美術科作品展『群翔展』」	学生（美術専修）	展示
1月11日～1月25日	「風景写生展」	美術教育講座	成果発表
2月2日～2月10日	「美術専修・専攻卒業制作/大学院修了作品展」	美術教育講座	成果発表
2月11日～2月24日	「第41回彫刻展」	美術教育講座	成果発表

2 教職キャリアセンター

運営	第1回教職キャリアセンター委員会（令和4年5月9日～13日）
	第2回教職キャリアセンター委員会（令和4年6月10日）
	第3回教職キャリアセンター委員会（令和4年8月22日～26日）
	第4回教職キャリアセンター委員会（令和5年1月17日）
発行物	愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第8号（令和5年3月29日発行）論文掲載数30件
	公開：愛知教育大学学術情報リポジトリ https://aue.repo.nii.ac.jp/

(1) 教科教育学研究部門

取組	例会	
	5月例会（令和4年5月25日）	【テーマ決定】「資質・能力の育成と教科固有の見方・考え方」
	6月例会（令和4年6月22日）	【発表者】生活科教育講座 加納誠司
	10月例会（令和4年10月26日）	【発表者】外国語教育講座 犬塚章夫、数学科教育講座 高須亮平
	11月例会（令和4年11月30日）	【発表者】美術教育講座 中村僚志、教職実践グループ 神門大知
	1月例会（令和5年1月25日）	【シンポジスト】刈谷市立刈谷南中学校 伊倉 剛 先生 安城市立桜林小学校 伊吹拓実 先生 【コーディネータ】生活科教育講座 加納誠司
	大学・附属学校共同研究会	
	大学・附属学校共同研究会代表者会議（令和4年5月25日）	
	8月 15分科会で大学教員と附属学校教員が共同研究を実施	
	環境整備	
発行物	SCOPEⅢ第13号（令和5年3月1日発行）論文掲載数15件	
	特集「資質・能力の育成と教科固有の見方・考え方」	
	公開：愛知教育大学教職キャリアセンターサイト https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/scope3/ 県内全小中学校等に配布	
	大学附属共同研究論文集共創第1号（令和5年3月31日発行）論文掲載数21件	
	関連：愛知教育大学未来共創プラン 戦略6 大学・附属学校園連携推進プロジェクト	
	公開：愛知教育大学学術情報リポジトリ https://aue.repo.nii.ac.jp/ 愛知教育大学未来共創プラン https://www.aichi-edu.ac.jp/cocreate/	

(2) 教育支援専門職研究部門

取組	「チーム学校」理解を促す授業教材の打ち合わせ	
	令和4年4月18日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和4年6月6日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和4年8月25日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和4年9月26日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和4年10月24日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和4年12月5日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年1月16日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年2月13日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
	令和5年3月13日	教材作成デザイン、原稿作成、撮影と録画、編集などの教材開発作業
発行物	教材を用いた学生の理解度促進の検証	
	心理講座3年 42人に対して授業を実施、検証	
	教育支援専門職研究部門報告書 平成29年度～令和3年度	
	公開：愛知教育大学教職キャリアセンターサイト https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/report/ 「チーム学校」を理解するために－困難を抱える子供たちの支援について－基礎編 公開：愛知教育大学教職キャリアセンターサイト https://tc.aichi-edu.ac.jp/database/teamgakkou/ オンデマンド教材は学内のみ視聴可	

(3) ICT活用等普及推進統括部門

取組	部門会議（各活動リーダーによる審議・報告等）	
	第1回 部門会議（令和4年4月20日）	
	第2回 部門会議（令和4年6月3日）	
	第3回 部門会議（令和4年7月15日）	
	第4回 部門会議（令和4年10月3日）	
	第5回 部門会議（令和4年11月10日）	
	第6回 部門会議（令和4年12月23日）	
	第7回 部門会議（令和5年3月30日）	
	クロアミーティング（客員教授・客員准教授を含む情報交換等）	
	毎週水曜開催	
	教員養成の教育課程に関連する事項	
	教員養成版ICT活用指導力チェックリストの開発	
	各教科の指導法、デジタル教科書、附属のスタジオ化による連携	
	特別支援におけるICT活用	
	ICT に特化した科目の開発	
	ICT 活用指導力のパスポート化	
	教育課程外の支援に関連する事項	
	こらぼ（旧AL ルーム）の運営、学生ICT 支援員の育成	
	【体制】学生ICT支援員:15人 こらぼら（こらぼボランティア）:15人 【実績】学生ICT支援員・こらぼら向け勉強会:10時限、授業支援等:21時限、デジタル教科書体験会支援:76時限、学生ICT支援員講師の勉強会:67回、機器貸出し:272回、機器類メンテナンス:毎月数時間程度	
	学外連携に関連する事項	
研修会	教員養成大学や教育委員会との連携による全国展開	
	企業連携	
	著作権法関係	
	学生のICT活用指導力向上に関する研修会 ※全学FD研修会	
	令和4年5月16日	Society5.0変化の時代 GIGAスクールにおける学び
	令和5年3月6日	学生のICT活用指導力向上に向けて－教科教育における課題と取組を中心に－
	オンライン研修会「学校教育と著作権」※全学FD研修会	
	令和4年10月31日	第1回 学校教育と著作権の基本（初等中等教育機関向け）
	令和4年11月28日	第2回 学校教育と著作権の基本（高等教育機関向け）
	令和4年12月23日	第3回 児童生徒に対する著作権教育
	令和5年1月30日	第4回 大学生に対する著作権教育
	令和5年2月24日	第5回 大学と地域教育機関との連携・協力による著作権教育事業
	令和5年3月27日	第6回 具体的事例による演習（ケーススタディ）
	体験型勉強会	
	令和4年7月11日	第1回 Google workspace for education（classroom他）体験型勉強会
	令和4年8月5日	第2回 Google workspace for education（classroom他）体験型勉強会
	令和4年9月28日	事例で学ぶNetモラル・学校情報セキュリティー体験型勉強会
	令和4年11月8-30日	デジタル教科書体験会
	学習者用・指導者用デジタル教科書体験型研修会	
	令和4年4月27日	第5回 株式会社新興出版社啓林館（算数、数学）
	令和4年5月11日	第6回 光村図書出版株式会社（国語）
	令和4年6月15日	第7回 教育出版株式会社（音楽）
	令和4年7月6日	第8回 日本文教出版株式会社（図工、美術）
	令和4年9月7日	第9回 株式会社教育芸術社（音楽）
	岡崎市教育委員会初任者研修 オンデマンド教材	
	令和5年1月11日	現職教員向けICT活動指導力向上講座（スモールステップ編）

(4) 教員研修部門

取組	部門打ち合わせ	
	月1回程度実施	
	愛知教育大学教員研修連携協議会（愛知県総合教育センター/名古屋市教育センター）	
	第1回 愛知教育大学教員研修連携協議会（令和4年5月30日）	
	第2回 愛知教育大学教員研修連携協議会（令和4年10月3日）	
	第3回 愛知教育大学教員研修連携協議会（令和5年3月9日）	
研修会	令和4年度オンデマンドによるスクールリーダー研修会	
	令和4年7月20日～	グーグルクラスルームを使用したオンデマンド研修
	8月31日	対象者:小・中・高・特別支援学校の管理職および教育委員会関係者
	令和4年度スクールリーダー研修会	
	令和4年12月10日	会場:名古屋国際会議場
		対象者:小・中・高・特別支援学校の管理職および教育委員会関係者
	令和4年度GIGA スクールに関する自主研修会	
	令和5年2月22日	会場:JP タワー名古屋ホール&カンファレンス
		対象者:学校教員、教育委員会、自治体職員、教員を目指す学生
	令和4年度iPadを活用した自主研修会	
	令和4年9月13日	3Mを目指した誰でも夢中になれる ICT 活用
		～すぐやってみたい・すぐやらせてみたい 誰もが夢中になるICT活用～
		会場:JP タワー名古屋ホール&カンファレンス
		対象者:学校教員、教育委員会、自治体職員、教員を目指す学生

3 教育研究創成センター

運営	第1回教育研究創成センター（令和5年3月29日）
----	--------------------------

(1) 実践教育研究部門

令和4年9月30日	日本教育大学協会全国教育実習研究部門第36回研究協議会（オンライン）出席
-----------	--------------------------------------

(2) FD開発部門

ア 全学FD講演会等

(単位：人)

実施日	題名	実施組織	教員	事務職員
5月25日	全学FD講演会「Society5.0変化の時代 GIGAスクールにおける学び」講師：中川哲客員教授	教職キャリアセンター ICT教育基盤センター	35	18
5月30日	全学FD集会（教職大学院）	教育学研究科 専門職学位課程 （教職大学院）	35	0
9月12日	学務部会中期計画研修会	評価委員会	48	36
9月12日	研究評価部会中期計画研修会	評価委員会	35	12
9月14日	未来共創部会中期計画研修会	評価委員会	44	31
9月22日	社会貢献部会中期計画研修会	評価委員会	28	22
9月22日	業務・財務部会中期計画研修会	評価委員会	17	34
10月31日	全学FD集会「学校教育と著作権」オンライン研修会 第1回 「学校教育と著作権の基本」（初等中等教育機関向け）講師：大和淳客員教授	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	72	13
11月28日	全学FD集会「学校教育と著作権」オンライン研修会 第2回 「学校教育と著作権の基本」（高等教育機関向け）講師：大和淳客員教授	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	45	11
12月23日	全学FD集会「学校教育と著作権」オンライン研修会 第3回 「児童生徒に対する著作権教育」講師：大和淳客員教授	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	32	10
1月6日	全学FD・SD集会「今、教育に求められるものとは～法律家の立場から～」講師：池田桂子氏（池田総合法律事務所・池田特許事務所 弁護士・弁理士）	教育研究創成センター FD開発部門	26	3
1月25日	全学FD「学校教育における持続可能な開発のための教育とユネスコスクールの展開」講師：大鹿聖公教授	地域連携センター	6	4
1月30日	全学FD集会「学校教育と著作権」オンライン研修会 第4回 「大学生に対する著作権教育」講師：大和淳客員教授	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	40	7
2月1日	全学FD「新時代に向けての大学のICT 環境の未来—Web3 についてなに？私たちはどこへ向かうの？新たな時代に向けた情報環境を考える」講師：江島徹郎教授 砂川誠司講師	ICT教育基盤センター	15	3
2月8日	全学FD研修会「次代を見据えた魅力ある教員養成プログラムの共創」講師：江口慎一氏（西尾市主幹教員・西尾市立佐久島しおさい学校教諭）	未来共創プラン【戦略7】 教科横断探求プロジェクト	21	5
2月24日	全学FD集会「学校教育と著作権」オンライン研修会 第5回 「大学と地域教育機関との連携・協力による著作権教育事業」講師：大和淳客員教授	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	36	6
3月6日	全学FD研修会「学生のICT活用指導力向上に向けて」講師：ICT活用等普及推進統括部門担当教員	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	39	11
3月27日	全学FD集会「学校教育と著作権」オンライン研修会 第6回 「具体的事例による演習（ケーススタディ）」講師：大和淳客員教授	教職キャリアセンター ICT活用等普及推進統括部門	23	8
参加者数は延べ数で、教員には非常勤講師を含む。		参加者数合計	597	234

イ 授業公開

(単位: 人)

公開日	授業名	授業者	教員	事務職員
対面実施				
6月20日(月) 4限	大気・水圏科学	田口 正和	8	
6月23日(木) 2限	教育・学校心理学Ⅱ	安藤 久美子	12	
6月24日(金) 3限	心理演習	高橋 靖子	5	
6月24日(金) 3限	教科の目標・評価と授業研究 (言語・社会科学系)	松井 孝彦	11	
6月24日(金) 3限	コンピュータシステム論	福井 真二	2	
11月28日(月) 4限	手話の基礎	大塚 とよみ	9	
11月28日(月) 5限	倫理思想史概説	宮村 悠介	5	
11月29日(火) 4限	英語史Ⅱ	小塚 良孝	5	1
11月29日(火) 5限	音声学	田口 達也	4	
11月30日(水) 2限	特別活動の理論と方法	石田 靖彦	6	
12月2日(金) 3限	初等生活科教育内容A	西野 雄一郎	8	
オンライン実施				
11月28日(月)～12月2日 (金)	初等情報教育	梅田 恭子	39	
参加者数合計			114	1

ウ 授業改善のためのアンケート、自己評価報告書

前期(7月11日～8月5日)

アンケート結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/questionnaire/ar4_1/自己点検評価結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/selfassessment/r4_1/

後期(1月24日～2月15日)

アンケート結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/questionnaire/ar4_2/自己点検評価結果 https://sousei.aichi-edu.ac.jp/publication/selfassessment/r4_2/

4 教育臨床総合センター

第6章 地域連携・社会貢献の「相談事業」を参照

5 国際交流センター

第7章 国際交流を参照

6 地域連携センター

(1) 委員委嘱及び講師派遣依頼

機関	件数	内訳（件数）					
		講師派遣				委員委嘱	その他
		教員対象	小中高生	一般	その他		
教育委員会	43	20	5	8	1	7	2
学校	99	54	43	0	2	0	0
教育センター	6	6	0	0	0	0	0
行政機関 (上記除く)	24	0	0	11	5	7	1
企業	4	0	1	1	0	0	2
その他	43	20	3	11	7	0	2
計	219	100	52	31	15	14	7

(2) 協定の締結状況

本学ウェブサイト参照

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/kyotei.html>

(3) 公開講座

第6章 地域連携・社会貢献の「公開講座」を参照

(4) 高校訪問授業

区分	派遣数	実施月						
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
県内公立	23	5	5	1	0	8	3	1
県内私立	0	0	0	0	0	0	0	0
県外	2	0	0	0	1	0	1	0

(5) その他の実施イベント

地域連携フォーラム2022

実施日	テーマ	場所	参加者数
令和4年6月25日	地域と考える未来共創～SDGs実現のために～	刈谷市産業振興センター 7階 小ホール	67人

医教連携フォーラム

実施日	テーマ	場所	参加者数
令和4年12月24日	医教連携によって開発した食物アレルギー等 緊急時対応プログラムの実践 —そなえる&ふせぐ 安心な学校づくり—	岡崎市図書館交流プラザ りぶ ら 3階 会議室301	13人

ユネスコスクール指導者研修会

実施日	テーマ	場所	参加者数
令和4年10月8日	—	Aichi Sky Expo 愛知県国際展 会場 会議室 L6	9人

(6) 発行物

区分	タイトル	発行年月
広報誌	ちいきの大学第20号	令和5年3月

7 科学・ものづくり教育推進センター

(1) 科学ものづくりフェスタ

実施日	実践名・実践場所	対象	来場者数（人）	参加学生数（人）	学外ブース数
令和4年11月19日	科学・ものづくりフェスタ@愛教大（大学）	幼・小・中・高・一般	約1300	164	7

(2) 訪問科学実験

実施日	実践名・実践場所	対象	参加者数：子ども（人）	参加者数：保護者（人）	参加学生数（人）	区分
	計 45回				344	
令和4年4月23日	東浦町 森岡子ども会	小1～6	130	15～20	15	その他
4月24日	夢と学びの科学体験館	未就学児～小6	150	100	19	科学館
4月26日	附属名古屋小学校2年生遠足	小2	80	0	4	本学
4月30日	でんきの科学館	未就学児～大人	多数	多数	5	科学館
5月1日	でんきの科学館	未就学児～大人	多数	多数	4	科学館
5月3日	でんきの科学館	未就学児～大人	多数	多数	4	科学館
5月5日	生命の海科学館	小1～6	20	10	5	科学館
5月8日	子どもまつり（大学）	幼・小	多数	若干名	9	本学
5月14日	大学祭（大学）	大学生	多数	0	8	本学
5月21日	生命の海科学館	全年齢対象	10	10	5	科学館
5月22日	科学ボランティア養成講座（名古屋栄ビルディング）	なし	0	0	4	その他
6月4日	みる・はかる・未来へつなぐ科学機器展（名古屋国際会議場）	幼・小・中	多数	多数	6	その他
6月15日	刈谷市立朝日小学校	小5	119	0	11	学校
6月22日	刈谷市立住吉小学校	小6	114	0	14	学校
7月6日	刈谷市立富士松北小学校	小6	61	0	10	学校
8月13日	生命の海科学館	小1～6	20	20	5	科学館
8月15日	夢と学びの科学体験館	未就学児～小4	150	多数	12	科学館
8月19日	豊明市役所 生涯学習課	小1～6	30	12	11	その他
8月24日	豊川市立一宮保育園	年長・年中児	69	0	6	その他
8月25日	千代田市民センター地区まちづくり推進協議会	小6	50	17	9	その他
8月27日	知立市教育委員会生涯学習スポーツ課	小1～6	17	0	7	その他
8月28日	北部生涯学習センター 1 DAY講座	小1～6	20	若干名	10	その他
9月3日	大府市立森岡公民館	小学生	15	0	5	その他
9月10日	メタウォーター下水道科学館なごや	小1～6	80	多数	7	科学館
10月8日	科学ボランティア養成講座（名古屋栄ビルディング）	なし	0	0	1	その他
10月8日	刈谷市生活創意工夫展	幼・小・中	多数	多数	4	その他
10月9日	刈谷市生活創意工夫展	幼・小・中	多数	多数	4	その他
10月29日	新屋子育てクラブ	小1～6	59	26	9	その他
11月6日	ミライク刈谷	未就学児～小6	22	10	5	その他
11月20日	子どもキャンパスプロジェクト	幼・小	20	10	6	本学
11月23日	城北小学校	小1～6	100	多数	20	学校
11月26日	(株)デンソー主催「デンソー夢卵(ムーラン)」	小・中	675	多数	9	その他
11月27日	(株)デンソー主催「デンソー夢卵(ムーラン)」	小・中	675	多数	11	その他
11月30日	刈谷市立平成小学校	小6	65	0	6	学校
12月7日	刈谷市立日高小学校	小6	77	0	6	学校
12月11日	子どもまつり（大学）	幼・小	140	70	7	その他
12月11日	井ヶ谷地区の子ども会クリスマス会	小1～6	100	多数	6	その他
12月14日	刈谷市立かりがね小学校	小6	163	0	10	学校
令和5年1月13日	名古屋市立貴船小学校	小6	113	60	7	学校
1月21日	科学の祭典（科学ボランティア養成講座、こども未来館ここここ）	未就学児～小6	多数	多数	5	その他
1月22日	科学の祭典（科学ボランティア養成講座、こども未来館ここここ）	未就学児～小6	多数	多数	5	その他
1月25日	刈谷市立衣浦小学校	小5	86	0	6	学校
2月22日	刈谷市立小垣江小学校	小5	105	0	9	学校
3月16日	依佐美清涼保育園	年長・年中児	60	2	5	その他
3月19日	上ノ山子供会	小1～6	23	9	8	その他

(3) ものづくり教室

実施日	実施会場	内容	対象	参加者数 (人)
計 5回				44
令和4年4月23日	愛知教育大学	木でつくる身近なもののづくり～マスクケース・スライド式小箱・輪投げなど～	小3～中3	5
5月21日	愛知教育大学	形状記憶合金で熱エンジンをつくろう	小3～中3	8
6月18日	愛知教育大学	フルフル発電機をつくろう	小3～中3	6
6月25日	愛知教育大学	金属を溶かしてタグをつくろう	小3～中3	9
令和5年1月23日	愛西市文化会館	「あいさい土曜キラリ☆学習」 ・金属を溶かしてタグを作ろう ・フルフル発電機を作ろう ・形状記憶合金で熱エンジンを作ろう ・3Dペンでオリジナルしおりを作ろう	小学生	16

(4) その他の実施イベント

令和4年8月22日 理科観察実験指導力向上セミナーを実施

8 健康支援センター

令和4年度健康支援センター利用者数

累計（単位：人）

区 分	傷 病	内 科	外 科	そ の 他	休 養 室 利 用	健 康 相 談	身 体 的	精 神 的	そ の 他	健 康 診 断	定 期 健 診	ク ラ ブ 健 診	医 療 機 関 紹 介	診 断 書 発 行	そ の 他 来 所 者	計
学生	151	54	94	3	40	1,309	488	610	211	3,831	3,800	31	12	18	2,991	8,352
男	37	9	28	0	5	400	221	115	64	1,627	1,607	20	4	7	1,252	3,332
女	114	45	66	3	35	909	267	495	147	2,204	2,193	11	8	11	1,739	5,020
大学職員	22	11	10	1	6	321	60	46	215	0	0	0	2	0	549	900
その他	9	4	5	0	1	45	1	1	43	0	0	0	0	0	243	298
合計	182	69	109	4	47	1,675	549	657	469	3,831	3,800	31	14	18	3,783	9,550

* 学生は、正規学生（学部、大学院、専攻科）及び非正規学生（研究生、科目等履修生等）の合計

* 大学職員は、理事等、大学教員、附属学校教員、事務職員、非常勤講師、非常勤職員の合計

* その他は、保護者、学外者等の合計

* クラブ健診は、競技会参加のための事前健康健診をクラブ・サークルの依頼で行った場合などが該当

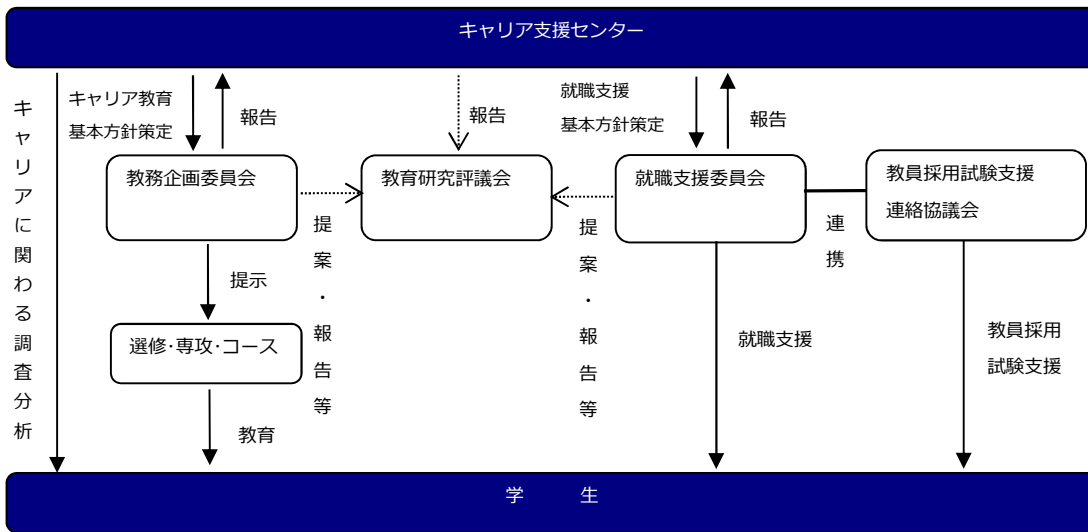
9 ICT教育基盤センター

講習会等の実施状況

講習会・タイトル	対象	講師	参加者数
情報セキュリティ講習会			
「事務職員のための業務におけるパソコン活用について」	新任事務職員	情報企画室職員	9人
「学内ネットワークなどの利用方法について」	新任教員	情報企画室職員	8人
個人情報保護・情報セキュリティセミナー			
「事例で学ぶ学校情報セキュリティ」	教職員（附属学校教員含む）	eラーニング形式のためなし （教材作成は広島県教科用図書販売株式会社）	271人
基礎講習			
「情報教育入門」	教育学部1年	担当教員	906人

10 キャリア支援センター

(1) 支援体制



(2) 支援プログラム

キャリア形成支援プログラム 令和4年度

		1年生	2年生	3年生	4年生
大学の支援体制	教育	キャリアデザインⅠ (前期：必修)	キャリアデザインⅡ (後期：必修)	主免実習 養護実習 基礎免実習	隣接校種実習 副免実習 特別支援教育実習
		学校体験活動入門	学校体験活動Ⅰ	学校体験活動Ⅱ・自然体験活動・多文化体験活動 ・企業体験活動から1科目選択	就職実践演習
	ガイダンス等	キャリアデザインガイダンス	各課程ガイダンス インターンシップガイダンス	教員就職ガイダンス 企業・公務員就職ガイダンス インターンシップガイダンス	再チャレンジガイダンス
		個別相談			対策講座、セミナー

・卒業後支援について：卒業生に対しても必要に応じ窓口相談等を行う。

また、地域の教育機関からの非常勤講師募集等の情報を集約し、適宜情報提供する。

11 日本語教育支援センター

(1) 外国人児童生徒学習支援への学生派遣

事業名	支援場所				支援児童 生徒数	ボランティア 派遣学生数
	市町村	小学校	中学校	その他		
小中学校等での個別支援	刈谷市	6校	3校		27人	32人
	豊田市	9校	4校		26人	30人
	知立市	2校	1校		19人	25人
集団支援（マスマス教室）	知立市立知立東小学校				87人	延べ245人 (実施回数12回)
土曜親子日本語教室	愛知教育大学				215人	延べ222人 (実施回数14回)

*令和4年度の学部生・大学院生のボランティア登録者数：273人

(2) センター主催研修会

令和4年度センター主催研修会

実施日	研修会名	対象	参加者
令和4年4月22日 令和4年5月20日	国際教室担当初任者のための学習会	初めて国際教室を担当する教員	38人
令和4年10月8日 令和4年10月15日	「基礎から学ぼう」シリーズ全4講座	教員	162人
令和4年12月24日 令和5年1月21日 令和5年1月22日	子どもたちへの日本語指導 ワークショップ	教員	67人

(3) 委員委嘱及び講師派遣依頼

令和4年度委員委嘱及び講師派遣依頼

依頼区分	実績等
講師派遣依頼	11件
教育委員会	7件
学校	1件（小学校）
その他	3件（日本語教育学会）

(4) 教材一覧

区分	タイトル	発行年月
ワークブック	ことばとおぼえるひらがなワーク	2009年3月
	ことばとおぼえるカタカナワーク	2009年3月
	ことばとおぼえるひらがなワーク 絵カード	2010年3月
	ことばをふやす漢字ワーク	2011年3月
	たのしくおぼえることばワーク	2012年3月
教科教材	ことばとまなぶ算数文章題(2年生)	2010年1月
	ことばとまなぶ算数文章題(3年生)	2010年1月
	外国人児童のための小学校社会科教材	2012年3月
保護者支援教材	幼稚園・保育園ガイドブック（ポルトガル語）	2013年3月
	幼稚園・保育園ガイドブック（中国語）	2013年3月
	幼稚園・保育園ガイドブック（タガログ語）	2013年7月
	幼稚園・保育園ガイドブック（スペイン語）	2013年7月
	幼稚園・保育園ガイドブック（英語）	2013年8月
	幼稚園・保育園ガイドブック（ベトナム語）	2020年3月
	小学校ガイドブック（ポルトガル語）	2015年3月

	小学校ガイドブック（スペイン語）	2015年3月
	小学校ガイドブック（中国語）	2015年11月
	小学校ガイドブック（英語）	2015年12月
	小学校ガイドブック（タガログ語）	2016年2月
	小学校ガイドブック（ベトナム語）	2019年3月
	中学校ガイドブック（ポルトガル語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（タガログ語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（中国語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（英語）	2018年3月
	中学校ガイドブック（スペイン語）	2019年2月
	中学校ガイドブック（ベトナム語）	2021年3月
多文化共生	多文化共生についてあらためて考えよう（日本語）	2022年3月
	多文化共生についてあらためて考えよう（ポルトガル語）	2022年3月
	多文化共生についてあらためて考えよう（タガログ語）	2022年12月
	多文化共生についてあらためて考えよう（ベトナム語）	2022年12月
	多文化共生についてあらためて考えよう（スペイン語）	2023年1月
その他	ちょっと見てみりん！「でら役立つ私たちのアイデア」 ー外国人児童生徒支援ボランティア学生の活動報告集ー	2007年3月
	ことばをふやす もじにしたしむ 保育園・幼稚園でできる活動集	2018年3月

（５）その他の実施イベント

・勉強会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和4年7月13日	「外国語としての『にほんご』～かくされたルールをみてみよう～」	第二共通棟 412教室	9人
令和4年10月28日	個別支援勉強会「リソースカフェ」	国際教育棟 指導者研修室	8人
令和5年1月30日	「子どもを知ろう～もし、自分が外国にルーツをもつ園児の先生になったら～」	教育未来館 多目的ホール	25人
令和5年2月22日	マスマス教室勉強会「～日本語支援が必要な子どもに支援するときのポイントを考えよう～」	オンライン	12人
令和4年5月11日 令和4年8月4日 令和5年1月23日	「土曜親子日本語教室 大人クラス」勉強会	国際教育棟 指導者研修室	22人

・講演会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和4年11月25日	多文化共生社会を支えるために Part2 ～自分にできること 自分だけではできないこと～	教育未来館 多目的ホール	55人

・委託事業【多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究】成果報告会

実施日	タイトル	場所	参加者数
令和4年12月17日	文部科学省委託事業「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」事業報告会（フォーラム）	次世代教育イノベーション棟 カキツバタホール	64人

12 インクルーシブ教育推進センター

本センターは、県内外の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等の教育機関と連携し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を推進している。そのために、情報収集及び情報発信、教員向けの研修を実施し、地域の教育機関等と連携を図り、必要に応じて支援を行っている。

インクルーシブ教育推進のため、教育相談、共生教育推進、特別支援教育に関する相談・情報提供を引き続き行った。令和4年度は、令和3年度に引き続き、教員の力量向上を目指し、特別支援学級担当者への指導・支援を重点目標にして取り組んだ。教員研修では、附属特別支援学校で授業参観をする折に、子どもへの指導方法や支援方法などを紹介した。また、中堅教諭等資質向上研修や、みよし市教育委員会指導主事研修においても多くの教員を受け入れ、特別支援教育について研修を行った。

また、夏休み中には、TASUC（株）（挑戦する子どもたちとその家族のための総合的な療育アプローチができる支援体制を築く連合組織）の篠原大一先生を講師として招き、センター主催の公開セミナーを実施した。コロナ禍のため、岡崎市民会館とオンラインの両方を使っての開催とし、計51人の参加があった。

【活動状況】

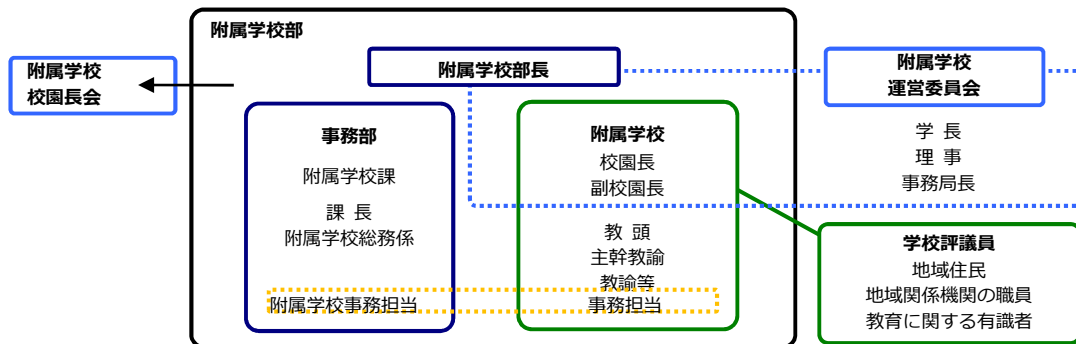
(単位：回)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
特別支援学校授業研究会・研究部会等	21	23	23	24
教育相談	10	10	16	28
コンサルテーション学習会	3	3	3	2
父母教師会会議	4	4	4	4
愛知県特別支援教育研修委員会	-	-	-	-
特別支援教育に携わる教員の参観・研修会	10	11	18	21
特別支援学校在校児童の園との情報交換会	-	-	-	-
在学児童生徒の居住地校との交流会	9	-	3	7
特別教育推進部会学習会	7	7	11	10

第9章 附属学校

1 附属学校の活動状況

附属学校部の組織図



附属学校規模

令和4年5月1日現在

学校名	学級数	児童・生徒等 収容定員	教員定員							
			校長	副校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	合計
附属幼稚園	6	140	1	0	0	1	6	1	0	9
附属名古屋小学校	19 (2)	605 (30)	1	0	1	1	28	1	1	33
附属岡崎小学校	18	570	1	0	1	1	22	1	0	26
附属名古屋中学校	12 (3)	432 (45)	0	1	1	1	27	1	0	31
附属岡崎中学校	12	432	0	1	1	1	22	1	0	26
附属高等学校	13	440	1	0	1	1	27	1	0	31
附属特別支援学校	9	60	1	0	1	1	25	1	1	30
合 計	89 (5)	2,679 (75)	5	2	6	7	157	7	2	186

* 教諭には、大学教員が兼務する校長は除く。

* ()は帰国児童生徒学級に係る学級数、人数を外数で示す。帰国児童生徒学級の1クラス定員は、小学校・中学校とも15人

* 小学校は平成30年度入学まで1学級35人定員、令和元年度入学より1学級30人定員

* 中学校は平成29年度入学まで1学級40人定員、平成30年度入学より1学級36人定員

* 高等学校は令和2年度入学まで1学級40人定員、令和3年度入学より1学級30人定員

* 附属幼稚園は3歳児40人、4・5歳児50人定員で、いずれも2学級

* 附属名古屋小学校の一般学級は3学級で構成されているが、6年のみ4学級

* 附属特別支援学校は小学部・中学部・高等部で構成され、障害種別はいずれも知的障害。小学部は2学年で1学級の複式学級

(1) 附属幼稚園

ア 教育目標

一人一人を大切にする保育環境の中で、自己肯定感を育むことを大切にしながら、生活や遊びの様々な体験を通して、豊かな感性・ものごとに取り組む意欲と行動力をはじめとする、自然や社会と関わって生きていくための基礎的な力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことを目標とする。

3歳児 安心して自分の思いを出し、先生や友達と一緒に生活する楽しさを味わえるようにする。

4歳児 気の合う友達と思いを出し合って、一緒に遊びや生活を進める楽しさを味わえるようにする。

5歳児 仲間とのかかわりの中で、共通の目的をもって取り組み、満足感や充実感を味わうとともに、自信をもって行動できるようにする。

イ 令和5年度入園児選抜状況〈令和4年度実施〉

[出願資格] 入学時に幼稚園へ入園する年齢に達する見込みの幼児
園が指定する小学校区に保護者と居住する者
保護者等が付き添って、徒歩又は公共交通機関で登降園できる幼児

[選抜方法] 第1次：面接及びグループ遊び 第2次：抽選

(単位：人)

	入学 定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属幼稚園	50	64	62	55	1.13	52
3歳児	40	51	49	43	1.14	40
4歳児	10	13	13	12	1.08	12

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

ウ 在籍者数(令和4年5月1日現在) (単位：人)

	学級数	在 籍 者		
		男	女	計
附属幼稚園	6	79	59	138
3歳児	2	27	11	38
4歳児	2	25	25	50
5歳児	2	27	23	50

エ 園児の転出入等 (単位：人)

	転・編入 学	転・退学
3～5歳児	3	4

オ 卒園児の進路〈令和5年3月卒園児〉

卒園児合計 50人：附属名古屋小学校 50人

カ 研究活動

研究発表会： 令和4年11月2日(水)に、新型コロナウイルス感染防止のため参加者の人数制限をしつつ、公開保育・保育を語る会を実施。保育を語る会の中では、研究成果について園からの報告、共同研究者である大学教員からの講話、学長による講演会も行った。

年度末にホームページにて研究成果の報告書を公開。

主 題：「あれ?」「そうだ! やってみよう」学びがにつながる園生活〈3年次〉

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	16人	愛知教育大学実習生 15人、愛知教育大学大学院実習生 1人
「学校体験活動入門」	31人	
「学校体験活動Ⅰ」	3人	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

特記事項なし

ケ 自己評価及び学校関係者評価**保護者への学校評価アンケートからの自己評価と改善の取組**

学校評価アンケートを保護者へ依頼し、本園の教育目標や子どもの成長、教育内容への理解、安全管理等について、成果と次年度への課題を明らかにしている。そして、それらを基に、職員会議等で次年度の充実に向けて方策を検討している。

令和4年度も、アンケートのどの項目についても肯定的な回答をいただいた。結果からは、本園の教育に対して、多くの保護者の方から理解が得られていることが分かった。一部の方から得た意見や要望については、吟味した上で次年度の計画等へ反映させるようにした。

これらの評価活動及び結果については、学校評議員会でも報告し、評議員の方からご意見をいただいている。このようにさまざまな意見を吸い上げ、取り入れることで、子どもたちにとってよりよい保育が行えるよう今後も努めていきたい。

(2) 附属名古屋小学校

ア 教育目標

- ・健康で 心の豊かな子
- ・まことを求め 正しいことを守る子
- ・よく考え 実践する子
- ・人を敬い 助け合う子

イ 令和5年度入学者選抜状況〈令和4年度実施〉

一般学級	[出願資格]	入学時に小学校へ入学する年齢に達する見込みの者 学校が指定する小学校区に居住する者
	[選抜方法]	第1次：調査 第2次：抽選
帰国児童学級	[出願資格]	日本国籍を有する者 本人の海外生活が2年以上、かつ、帰国後1年以内の者 在留国で現地校又は国際学校に通学していた者 当該学年の年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者
	[選抜方法]	筆答を含む現状調査及び保護者を含む面接

一般学級 (単位：人)

	入学 定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属名古屋小学校	90	180	180	90	2.00	90
一般外部	-	130	130	40	3.25	40
連絡進学	-	50	50	50	1.00	50

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和4年度の学級編成は、3学級編成が1・2・3・4・5年、4学級編成が6年。

令和4年度入学定員：30人×3学級＝90人

帰国児童学級(4月入学時) (単位：人)

	収容定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属名古屋小学校	30	4	4	4	1.00	4
4学年	-	-	-	-	-	-
5学年	15	1	1	1	1.00	1
6学年	15	3	3	3	1.00	3

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 収容定員に満たない人数を募集

ウ 在籍者数 (令和4年5月1日現在)

(単位：人)

	学級数	在 籍 者		
		男	女	計
附属名古屋小学校	19 (2)	299 (3)	283 (4)	582 (7)
1学年	3	45	45	90
2学年	3	44	44	88
3学年	3	45	44	89
4学年	3	42	45	87
5学年	3 (1)	48	50 (1)	98 (1)
6学年	4 (1)	75 (3)	55 (3)	130 (6)

* ()は帰国児童学級に係る学級数、人数を外数で示す。

エ 児童の転出入等 (単位：人)

	転・編入 学	転・退学
一般学級	7	11
帰国児童学級	11	0

オ 卒業生の進路〈令和5年3月卒業生〉

卒業生合計140人：附属名古屋中学校 91人、県内公立中学校 1人、県内私立中学校 40人、県外中学校 8人

カ 研究活動

令和4年度実践研究発表会を令和4年5月31日(火)に開催した。新型コロナウイルス感染予防と、より多くの方に参観いただくために、オンライン配信も併用して授業公開を行った。

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	127人	愛知教育大学実習生 127人、他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	64人	
「学校体験活動Ⅰ」	0	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

平成14年度に韓国の晋州教育大学附設初等学校との間で国際交流に関する協定を締結し、以来お互いの文化を理解・尊重し合える国際性豊かな子どもの育成を目指し、児童の作品交流や現地の学生による訪問授業などを実施してきた。平成30年度には後援会が主体となって、児童の相互の訪問活動も実施した。

今年度は、晋州教育大学附設初等学校から大学生を受け入れ、4年生で授業を行い、児童と給食の時間に交流を図った。

また、海外からの視察も積極的に受け入れ、授業に限らず日本の学校教育活動の一例として、本校の様子を海外の教育関係者に紹介している。

ケ その他の活動

本校はPTA活動が盛んに行われている。数年来、新型コロナウイルスの流行を鑑み、PTA活動の自粛を行わざるを得ない状況が続いていたが、従来の活動を見直しながら、新たな活動の形を見出してきた。今年度は、重点項目として立ち上げた安全委員会を中心に、すべてのPTA委員の協力の下、交通マナーをきちんと守れるように年間を通した下校指導を実施した。また、学年行事として児童の興味・関心に合った講師の方を招き、講演会を行った。なお、参加者は児童のみとして、保護者の方はオンライン配信にて様子を視聴できるようにした。

コ 自己評価及び学校関係者評価

本校の教育活動を見直すための自己評価活動を全職員対象で実施している。評価の集計や成果・課題として挙げられた内容を基に、次年度への課題や改善点を共有することで、よりよい教育の実現を目指している。

また、児童や保護者にもアンケート調査を実施している。結果からは、児童が本校での学校生活におおむね満足していることや、本校の教育活動に対し、多くの保護者の方から理解が得られていることが分かった。一部の方から得た意見や要望については、吟味した上で次年度の計画等へ反映させるようにした。

これらの評価活動及び結果については、学校評議員会でも報告し、評議員の方からご意見をいただいている。このようにさまざまな意見を吸い上げ、取り入れることで、子どもたちにとってよりよい学校となるよう今後も努めていきたい。

(3) 附属岡崎小学校**ア 教育目標**

- ・生活の中から問題を見つけ、自ら生活を切り拓いていくことのできる児童の育成
- ・経験や体験を重視し、事実をもとに問題の解決を図ろうとする児童の育成
- ・友だちの気持ちを思いやり、互いに磨き合おうとする児童の育成

イ 令和5年度入学選抜状況〈令和4年度実施〉

一般学級 [出願資格] 入学時に小学校へ入学する年齢に達する見込みの者
岡崎市内に保護者とともに居住する者
[選抜方法] 第1次：面接、教育テスト、行動観察 第2次：抽選
(単位：人)

	入学 定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属岡崎小学校	90	143	133	90	1.48	90
一般外部		143	133	90	1.48	90

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和4年度入学定員：30人×3学級=90人

ウ 在籍者数(令和4年5月1日現在) (単位：人)

	学級数	在 籍 者		
		男	女	計
附属岡崎小学校	18	282	276	558
1 学年	3	46	44	90
2 学年	3	43	44	87
3 学年	3	45	43	88
4 学年	3	44	45	89
5 学年	3	52	51	103
6 学年	3	52	49	101

エ 児童の転出入等 (単位：人)

	転・編入 学	転・退学
一般学級	5	3

オ 卒業生の進路〈令和5年3月卒業生〉

卒業生合計 102人：附属岡崎中学校 96人、県内公立中学校 2人、県内私立中学校 4人

カ 研究活動

研究発表会：令和4年11月17日(木)・18日(金) 参加者 582人
主 題：豊かに生きる(5年次/研究期間5年)

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	95人	愛知教育大学実習生 95人 他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	30人	
「学校体験活動Ⅰ」	0人	
「学校体験活動Ⅱ」	5人	

ク 国際交流

ボールステイト大学附属パリス校(USAインディアナ州)と1997年に国際学術交流協定を締結し、以降、子どもたちが相互に訪問し、交流を深めている。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大により直接の交流は途絶えていたが、令和5年度の交流再開に向け準備・計画を進めた。令和5年度には、10月20日～10月26日の期間で4年ぶりに本校の代表児童12名、引率教員3名が、パリス校へ訪問することを計画している。

ケ 自己評価及び学校関係者評価

令和元年度以降は、より信頼される学校、開かれた学校、魅力ある学校づくりの推進という視点で行った評価項目を継続しつつ、WEBを用いた方法に変更して実施した。令和4年度の結果をもとに分析をしたところ、次の2点が課題となり、教育活動の更なる見直しを図るために対策を考えた。

・基礎的な知識・技能の定着について

教師については、「そう思う」の割合が高くなっている一方で、「あまりそう思わない」の割合も高くなっている。算数タイムや授業（特に個人追究）のなかで、しっかりと基礎的な知識・技能の定着を図っているはずだが、実感がもてていないのかもしれない。すべての教師が自信をもって言えるように、教師間で連携をとりながら授業の充実をさせていきたい。また、保護者については、全体のプラス評価としては令和3年度より下がっているものの、「そう思う」の割合は20ポイント近く増加している。本校が個人追究を主とした授業に力を入れつつ、生活していくうえで大切な資質・能力を育む取り組みをしていることを理解している保護者が増えたと考えている。そのことを、学級通信や個別懇談会などを利用してもっと発信・周知していけるとよい。

・ICT機器の適切な使い方について

教師についてはプラス評価が20ポイント近く下がり、B評価となった。一人一台タブレットが整備され、学校・学級としてのルール作りや、使い方に関連した授業などを積極的に行っていた令和3年度に比べ、令和4年度は昨年度学んだことをベースに、子どもたち自身にICT機器の使い方を考えさせるようにした。そのため、教師については、ICT機器の適切な使用のための取り組みはしているのだが、そういった取り組みをしているという実感が薄らいでいると考えられる。児童・保護者についても、タブレットの使用が当たり前になってきているなかで、慣れがあることによって、様々な問題が生じることもある。これらの問題に教師、児童、保護者が真剣に向き合いながら解決していけるよう、今後取り組んでいく。

令和4年度の学校評議員会において、「年度当初にアンケートの質問項目と昨年度の結果を示すことで、教師が意識しながら取り組むことができるのではないか」という意見をいただいた。これを受けて、次年度からは4月の職員会議で前年度のアンケート結果と今年度の質問項目(案)を全教職員に提示することとした。また、令和3年度に「学校と家庭の連携」について指摘があった。令和4年度は、ホームページ担当の校務主任が各学年担当に声をかけるだけでなく自ら更新するように努め、ホームページや学級だよりで家庭・地域へ情報発信することができた。

(4) 附属名古屋中学校

ア 教育目標

人格の完成を目指し、平和国家・民主社会の形成者として、心身共に健全な人間を育成する。

- ・創造の精神を尊び、真理をかぎりなく求める人間
- ・自己の言行に責任をもち、信実を貫く人間(信実とは信義・誠実の意味である)
- ・美を愛し、豊かな心情を育てる人間
- ・心身を鍛え、たくましい実行力を身に付ける人間
- ・奉仕の精神を重んじ、働くことに喜びを見いだす人間

イ 令和5年度入学者選抜状況〈令和4年度実施〉

一般学級	[出願資格]	入学時に中学校へ入学する年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間が1時間程度の者
	[選抜方法]	適性検査(国語・算数)・調査書に基づき、総合的に判定する
帰国生徒学級	[出願資格]	保護者の海外勤務に伴う在外生活経験年数が継続して3年以上、かつ、帰国後1年以内で日本国籍を有する者 在留国で現地校又は国際学校に継続して3年以上通学していた者 当該学年の年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間に無理のない者
	[選抜方法]	1年生：国語、算数、面接(本人及び保護者) 2・3年生：国語、数学、英語、面接(本人及び保護者)

一般学級

(単位：人)

	入学 定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属名古屋中学校	144	262	255	144	1.77	144
一般外部	-	182	175	64	2.73	64
連絡進学	-	80	80	80	1.00	80

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和4年度入学定員：36人×4学級＝144人

帰国生徒学級(4月入学時)

(単位：人)

	収容定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属名古屋中学校	45	15	15	15	1.00	15
1学年 一般外部	15	4	4	4	1.00	4
1学年 連絡進学		11	11	11	1.00	11
2学年	15	0	0	0	-	0
3学年	15	0	0	0	-	0

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 2・3学年は、収容定員に満たない人数を募集

ウ 在籍者数(令和4年5月1日現在)

(単位：人)

	学級数		在 籍 者			
			男	女	計	
附属名古屋中学校	12	(3)	188	(19)	240	(17)
1学年	4	(1)	56	(2)	87	(5)
2学年	4	(1)	68	(8)	74	(7)
3学年	4	(1)	64	(9)	79	(5)
					143	(14)

* ()は帰国生徒学級に係る学級数、人数を外数で示す。

エ 生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入 学	転・退学
一般学級	0	7
帰国生徒学級	4	2

オ 卒業生の進路〈令和5年3月卒業生〉

卒業生合計 156人：附属高等学校 8人、県内公立高校 80人、県内私立高校 43人、県外公立学校 1人、
県外私立高校 14人、他の国立大学附属高校 4人、その他 6人(高等専門学校 2人、
通信制高校 3人、海外 1人)

カ 研究活動

研究発表会：令和4年9月22日(木)に開催

主 題：深い学びをデザインする授業づくり(1年次/研究期間3年)

副 題：主体性を発揮させることを通して

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	83人	愛知教育大学実習生 83人 他大学実習生 0人
「学校体験活動入門」	72人	
「学校体験活動Ⅰ」	0	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

平成25年度から名古屋大学の留学生との交流会を実施している。帰国生徒学級の1年生が、1年生の一般学級から参加者を募り、ゲームやクイズなどを留学生と楽しむ機会となっている。帰国学級生徒は、企画・運営をし、通訳を担うことで、身に付けた語学力を発揮する場となっている。

また、1年に3回外国語補充として、名古屋大学の留学生と自己紹介やフリートーキングの時間を設け、帰国学級生徒が海外で身に付けた語学力の保持・伸長を図っている。

ケ その他の活動

・地域に愛される生徒・学校になるために、「さわやかスクールロードSSR」に所属し、地域のクリーンキャンペーンに希望者が参加した。

・同じく、地域に愛される生徒・学校になるために、地域の老人ホームを訪問し、オンラインで合唱を披露したり、合唱の様子を録画したDVDを渡したりする活動を実施した。

コ 自己評価及び学校関係者評価

自己評価

行事後や前・後期の節目に校内の反省・意見を集約し、見解と今後の取組についてまとめ、全教員で共有した。12月には育友会役員・委員を対象に保護者アンケートを行い、集計結果と自己評価結果を2月の育友会役員・委員総会で報告した。本年度の重点努力目標を踏まえた上で、令和4年度も令和3年度同様20項目、5段階評価でアンケートを実施した。ほとんどの項目で5段階評価の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた数値が80～90%以上となっており、昨年度同様の高い評価をいただいた。これは、本校が心掛けている子供達の自主性を大切にした教師と子供が共に創り上げる授業、行事や日々の活動について保護者からの理解が得られていると思われる。ただ、「附中は、いじめや問題行動に対して真剣に対応してくれる」「附中は、生徒の悩みや心の問題についての相談・サポート体制が充実している」の項目については、教員と保護者で捉え方に差異があり、保護者の20%近くが「どちらともいえない」「あてはまらない」と回答している。（ただし「あまり」も含めて「あてはまらない」は共に数%）教員は真剣に対応しているつもりでも、生徒が学校では話せない悩みや不満を抱えたままとなっており、家庭で吐露していることや生徒・保護者が納得できる状況にまで至っていないことがあると考えられる。生徒達も評価が高い安心力の中で、「仲間」「尊重」の項目が他と比べて低いことから、いじめにつながるような行動をさせない教室風土の醸成に教員は努めるとともに、起きてしまった場合においても生徒情報を共有し、これまで通りにチームで対応していくことが必要である。

学校関係者評価

2月の学校評議員会の折に、保護者アンケートと教職員アンケートの集計結果を踏まえた自己評価について報告し、学校関係者(学校評議員で構成)から学校運営全般について意見を聴取している。

- ・コメントの多さや評価の得点の高さから保護者の関心の高さをうかがうことができる。
- ・テストの在り方について、単元テストの導入により、様々な尺度で見えていくことができそうだ。新学習指導要領で今までと評価する点が変わってきている。何が大切なことなのかを説明していく必要がある。
- ・私服登校について、制服には制服のよさがあるため、残す物と残さない物をはっきりさせて議論していくとよい。
- ・生徒に考えさせる授業ができている。これがこの学校のよさでもあるため、続けていってもらいたい。
- ・いじめ問題については、聞く耳をしっかりとをもって声を吸い上げていくことが大事。スマホの発達により、相手の嫌がる顔に気付かないまま会話が進んでいる。遊びやふれあいの機会を持ち、顔を合わせる必要ではないか。

学校関係者の意見を踏まえた改善策

- ・評価のための評価にならないように、また、附属名古屋中学校の良さを一層伸ばすためにアンケートの内容や対象を見直し、実効性のある学校評価のあり方についての研究を進めていく。また、生徒の声も聞き三者が満足できる学校づくりに努めていく。
- ・「公共のマナー」に関しては、発想をかえて、社会のマナーを学ぶ機会があるととらえ、地域と連携して積極的に育てていけるとよい。また、教員もきめ細かく生徒の様子を見ていきたい。
- ・「いじめや問題行動に対する対応」「生徒の悩みや心の問題の対応」については、これまでの丁寧な対応を今後も続けていくことはもちろん、特別の教科道德の授業の充実を図り、教育相談を充実させることや多くの教員で見守りを強化していくなど未然防止の取組にもしっかりと取り組んでいきたい。また、学校で行っている取組やスクールカウンセラーを中心とした相談活動の機会があることも、積極的に発信していきたい。
- ・「学年に応じた適切な進路指導や職業に関する指導」については、キャリア教育の視点を大切にしながら、子供達一人一人が確かな自己実現に向かうことができるような取組を考えていきたい。

評価結果等の公表方法

2月の育友会役員・委員総会で報告し、その後学校ホームページで公開している。今後、よりよい公表のあり方について検討していきたい。

(5) 附属岡崎中学校**ア 教育目標**

われらの学園

- ・学問と勤労を愛する学園
- ・自由と規律を重んじる学園
- ・楽しく 協力しあう学園
- ・健康で 明るい学園
- ・人と物をだいにする学園

イ 令和5年度入学者選抜状況〈令和4年度実施〉

一般学級	[出願資格]	入学時に中学校へ入学する年齢に達する見込みの者 保護者とともに居住し、通学時間が1時間以内の者
	[選抜方法]	学力検査(国語、社会、算数、理科)、面接、調査書に基づき、総合的に判定する

(単位：人)

	入学 定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属岡崎中学校	144	237	235	144	1.63	143
一般外部	-	141	139	48	2.90	47
連絡進学	-	96	96	96	1.00	96

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和4年度入学定員：36人×4学級＝144人

ウ 在籍者数(令和4年5月1日現在)(単位：人)

	学級数	在 籍 者		
		男	女	計
附属岡崎中学校	12	218	214	432
1学年	4	71	74	145
2学年	4	74	70	144
3学年	4	73	70	143

エ 生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入 学	転・退学
一般学級	4	2

オ 卒業生の進路〈令和5年3月卒業生〉

卒業生合計 143人：附属高等学校 1人、県内公立高校 86人、県内私立高校 41人、県外公立高校 1人、
県外私立高校 7人、他の国立大学附属高校 1人、高等専門学校 3人、
インターナショナルスクール2人、家事従事 1人

カ 研究活動

授業研究会：令和4年9月27日(火)
主 題：躍動(2年次／研究期間5年)
副 題：志をもって歩み続ける子ども

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	69名	愛知教育大学実習生 67人 他大学実習生 2人
「学校体験活動入門」	30人	
「学校体験活動Ⅰ」	0人	
「学校体験活動Ⅱ」	0人	

ク 国際交流

平成17年度からマレーシアの私立校スリ・クアラランプール・セカンダリー・スクールとの交流が続いている。相互交流を基本とし、親善訪問団を受け入れ、海外派遣訪問を実施してきた。7月末から8月にかけて、海外派遣訪問を行い交流を深めている。さらに、11月末から12月初旬にかけて、親善訪問団としてスリ・クアラランプール・セカンダリー・スクールの生徒と教員の訪問を受け、生徒会の運営による全校でのウェルカムセレモニーや教室での交流を行っている。また、岡崎市に住んでいる留学生を授業に招待して交流を深めている。 ※令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施していない。

ケ その他の活動

Lifework

子どもが9教科の枠にとらわれず、興味や関心をもったことを個人で追究していく個人テーマ学習を、総合的な学習の時間を中心にLifeworkと称して行っている。Lifeworkは、学校の内外を問わず子どもが主体的に進めていく活動であるため、9教科で育んだ「志を原動力として、学びを生かした行動をすること」を教科の枠を超え、発揮する場となっている。

コ 自己評価及び学校関係者評価

学校の評価活動として、教員の自己評価に加え、保護者と生徒を対象に無記名のアンケート調査を2022年11月下旬に行った。概要は次のとおりである。

【生徒】

◇行事・生徒会活動

③「学校の行事（体育大会・文化祭など）は楽しく、積極的に参加している」98.1%（1.1%増）

・例年よい結果を収めている項目であり、Aの回答が4.5%増であった。コロナ禍においても、学校・学年で工夫を重ねた成果といえる。今後も、本校の強みとして、例年通りではなく、新しい試みを取り入れたい。

④「生徒会活動は活発で、積極的に参加している」83.5%（4.2%増）

・こちらも例年よい結果を収めている項目であり、昨年度の値を更新した。Cの回答が5.2%減ったことが大きい。校則の見直しや行事の企画・運営など、生徒会役員が主体的に取り組む姿を見せていることに加え、ICTを活用した連絡・アンケート調査と活動への迅速な反映によって、一人一人が生徒会活動に参加している実感が湧いたことも要因だと考えられる。今後もICTを活用しつつ、対面での交流を大切にして活動を進める。

◇授業

⑥「授業や行事などの中で、学校以外の人から学ぶ機会がある」82.1%（昨年度に比べ4.5%減）

・昨年度よりも減少した。学年行事において、外部講師招聘よりも校内での話し合いや調整、ブレ活動に励んだためだと考えられる。また、現在の本校の研究が「全く新しい知見を学ぶ」ことよりも「自他を見つめる」ことを目指している点も一因と考えられる。視野を広げられるよう、外に学ぶ機会も大切にしたい。

⑬「道徳や教科の授業を通し、命の大切さを学ぶことができる」89.0%（7.9%増）

・道徳の教科化に伴い、今まで以上に注力した成果といえる。今後も教育活動全体を通して取り組みを進める。

◇日常生活

⑮「学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる」88.3%（6%増）

⑯「私たちの意見や悩みをよく聞いてくれる先生がいる」82.8%（2.1%減）

・⑯が昨年度より減少した一方、⑮が増加した。子どもが主体的に解決できるように、教師が裏方に徹したことが要因だと考える。今後も、子ども自身の問題解決能力を高めるとともに、不安や悩みを気軽に相談しやすい温かい雰囲気づくりに努める。

⑤「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」79.2%（6.2%減）

・平成26年度以降最高値であった昨年度から大きく減った。今年度、愛知県の高校入試の制度・日程が大きく変わったことが要因である。今年度の知見を生かした情報発信と進路指導によって改善を試みる。

⑦「学校はいろいろな施設や設備が整っている」66.8%（14.1%減）

・昨年度の平成26年度以降最高値から、最低値に転じた。大規模改修等による制約はなかったことから、日常において不満を感じる部分が増えたと考えられる。特に、調査・報告・連絡にChromebookが活用される機会が増えたため、関係の要望が増加したことが大きいと考える。要不要を見定め、環境の改善を進める。

【保護者】

◇教育方針・指導・環境

③「学校は生徒の将来に必要な知識や技能を身につける教育活動を行っている」95.7%（4.6%増）

⑥「学校は子どもの心を育てる教育をしている（いじめ、心の不安への対応がなされている）」93.6%（3.6%増）

⑨「学校の部活動は、子どもの健全育成のための機能をはたしている」62.3%（10.8%増）

・③⑥⑨は年々数値が向上し、今回最高値である。本校の教育方針と、実際の営みが認められていると考える。ただし、⑨については、以前よりも教員の介入度が高いため、同好会的活動に戻し、生徒の自主的な活動を促す必要がある。さらに、全国的に地域移行が進むため、本校においても、部活動の在り方を模索する。

◇保護者との連携

⑫「学校は保護者に必要な情報を適切に伝えている」94.3%（1.9%減）

⑬「保護者は子どものことで気軽に学校に相談できる」90.3%（6.4%増）

⑮「保護者の要望は学校によく聞き入れられ、反映されている」91.6%（3.1%増）

⑳「学校は各家庭に信頼感と安心感を十分に与えている」94.9%（変化なし）

・⑫が昨年度より減少したが、⑬⑮は本年度大きく上がった。各担任の日ごろの対応の成果といえる。悩みや要望を聴くだけでなく、情報の発信が求められている。本校webサイトを通じて、日々の様子を発信していきたい。今年度については、愛知県の高校入試制度の変化も一因（生徒質問⑤）だと考える。なお、㉑については、Aの回答が11.9%増えていることから、現在の対応を基盤として改善に取り組む。

(6) 附属高等学校

ア 教育目標

- ・あたたかい人間になろう
- ・たくましい人間になろう
- ・おおらかな人間になろう

イ 令和5年度入学選抜状況〈令和4年度実施〉

一般選抜

- [出願資格] 愛知県内の中学校を卒業(見込みを含む)し、入学後、愛知県内に保護者とともに居住し、自宅から通学する者
- [選抜方法] 書類審査及び学力検査(国語、数学、英語(リスニング含)、理科、社会)

推薦選抜

- [出願資格] 愛知県内の公立中学校を卒業する見込みの者で、一般選抜の出願資格を満たし、中学校長が推薦する者
- [選抜方法] 書類審査、作文、面接

海外帰国生徒選抜

- [出願資格] 海外の学校生活が2年以上であり、帰国後2年以内での者で、中学校を卒業(見込みを含む)し、入学後、愛知県内に保護者と共に居住し、自宅から通学する者
- [選抜方法] 書類審査及び学力検査(国語、数学、英語(リスニング含む)、理科、社会)、面接

附属中学校連絡入学選抜

- [出願資格] 愛知教育大学の附属中学校を卒業する見込みの者で、中学校長が推薦する者
- [選抜方法] 書類審査、学びの記録、面接

(単位：人)

	入学定員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
附属高等学校	120	177	177	120	1.48	120
一般選抜	-	120	120	70	1.71	70
推薦選抜	-	48	48	41	1.17	41
海外帰国生徒選抜	-	0	0	0		0
附属中学校連絡入学選抜	-	9	9	9	1.00	9

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

* 令和4年度入学定員：30人×4学級=120人

ウ 在籍者数(令和4年5月1日現在) (単位：人)

	学級数	在 籍 者		
		男	女	計
附属高等学校	13	167	267	434
1 学年	4	56	64	120
2 学年	4	38	78	116
3 学年	5	73	125	198

エ 生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入学	転・退学
一般学級	0	3

オ 卒業生の進路〈令和5年3月卒業生〉

卒業生合計 196人：国立大学 34人、公立大学 8人、県内私立大学 119人、県外私立大学 11人、短期大学 7人、専門学校 8人、就職 2人、その他 7人

カ 研究活動

研究発表会： 令和4年11月9日（水）に第40回高校教育シンポジウム「これからの時代を生きるための資質・能力の育成—探究力とICT—」1年次を実施した。第1学年及び第2学年の4限・5限の授業を公開。その後、第1分科会として国語科、第2分科会として数学科、第3分科会として総合探究「附高ゼミ」の概要発表・公開授業の協議を実施。各分科会において質疑応答、情報交換を行う研究協議会を開催した。92名の参加があった。

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	（内訳）
教育実習	49人	愛知教育大学実習生 34人、愛知教育大学大学院実習生 11人、他大学実習生（本校卒業生） 4人
「学校体験活動入門」	0人	
「学校体験活動Ⅰ」	1人	
「学校体験活動Ⅱ」	0人	

ク 国際交流

2008年に大韓民国ソウル市の建国大学校師範大学附属高等学校と国際学術交流協定を締結した。これは、1988年の海外修学旅行に始まる訪問活動により、1990年から交流先の教員が毎年来校し、相互交流が続いたことから締結したものである。しかし、新型インフルエンザの世界的大流行の影響から、2009年以降の交流活動は途絶えており、現在に至っている。

一方、平成26年度からオーストラリアのメルボルンにある男女共学の私立学校 Ivanhoe Grammar School との交流事業を始めた。平成30年度は本校からは1年生及び2年生の3人を夏季休業中の17日間派遣した。また、ホームステイ先のホストスチューデント3人が2019年1月に派遣生徒宅でホームステイを行いながら、本校を訪問し、授業を通して研修を行った。令和元年度以降については Ivanhoe Grammar School の都合により交流事業ができないことになった。

新たな国際交流事業に向け校務部を中心に検討を進め、愛知教育大学の外国人留学生との交流を開始した。令和2年度はコロナ禍であったが、12月に交流活動を実施することができた。書道部の活動に参加してもらい、マスク越しながら積極的に会話を交わし、留学生との交流を深めた。令和3年度は、Let's talk in Englishと題して留学生、日本人学生とテーマについて話し合い交流することができた。令和4年度は、サスティナ部・茶道部が留学生と茶道をとおして交流を持つことができた。

ケ その他の活動

高大連携事業

附属高校が大学の敷地内にあるというメリットを活かし、大学と協働ですすめている「高大接続」についての研究事業である。将来教職を志望する者を対象に、多角的に学問の面白さに触れさせる観点から、まず、2年生の希望者が大学教員による講義「スクール」を20講座受講する。3年生では、2年次に20講座を受講した者の中から、大学で志望する専門分野とそれ以外の2分野を加えて、大学教員による講義「チャレンジ」を受講する。これは、小学校教員の養成を主とする大学の幅広い研究分野を体験した後、自分が望む専門分野を中心に大学の学びを意識しながら学習を進めるものであるが、将来、教職を目指すために教員養成大学へ進学するための準備段階となる。令和4年度は、「スクール」に50人、「チャレンジ」には14人が参加した。

本年度から附高ゼミを開始している。附高ゼミは総合的な探究の時間と高大連携事業の核とすべく本年度より始めたものである。生徒は自らの興味・関心に応じて8つのコースの中から所属ゼミを選び、大学の教員や大学院生などの助言を受けながら探究活動に取り組んでいる。

愛知教育大学研究室訪問

例年、第1学年が愛知教育大学の研究室を訪問し、大学での講義や実験等を直接体験する取組を行っている。幅広い分野の研究に触れることで、生徒の興味・関心を引き出し、物事を深く考える姿勢を養うことを目的としている。令和4年度については24の研究室に分かれて訪問した。

ボランティア活動

平成14年度から、「共生の心を育む」ことを目的として、ボランティア活動を行ってきた。内容は、地域の資源回収、ゴミ拾い、福祉施設での手伝いや社会福祉協議会と連携した活動などである。令和4年度は、例年参加している地域の資源回収等については感染拡大防止のため参加しなかったが、オオキンケイギク駆除活動ボランティアには、10人が参加した。

ユネスコスクール

「平和教育」「国際理解・貢献」「地域理解・貢献」の3つの柱を作り、2年生の沖縄への修学旅行での世界遺産についての理解と平和学習、オーストラリアのメルボルンにある Ivanhoe Grammar School との交流活動、そして、地域の資源回収活動や資源保護活動を行った。これらの活動が評価され、2014年からユネスコスクールとして認定され、ESDに関わる活動の推進を図っている。

ICT活用

iPadについては平成27年度に45台配備され、普通教室において一人一台のタブレットを使って授業を行うことが可能となり、様々な授業にiPadを取り入れて活用している。令和4年度入学生より、入学生全員がiPadを購入してSkyMenuサービスを導入した。授業での活用はもちろん、毎日の連絡事項、家庭学習の補助など様々な場面で活用している。今後も、iPadは教具の一部という考えで、活用を推進していくとともに、活用方法についても研究していきたい。

平成30年度にはすべての普通教室にビデオプロジェクターが設置され、写真や動画などの映像教材の提示をはじめ、電子黒板として利用するなど様々な場面での活用が進んでいる。さらに全教員に対してiPadを貸与し、授業や生徒面談などの日頃の様々な指導に活用している。

コ 自己評価及び学校関係者評価

教職員の自己点検評価

本年度の教職員の目標到達度評価は、教育目標や学習指導など大半の項目で高い数値を示し、本校教職員が学校の教育目標を理解して、熱心に教育活動を展開していることがわかる。ただ、生徒指導面では基本的な生活習慣は確立されているが、いじめの予防、早期発見、早期対応に関しては昨年よりも取り組めていない、十分でない、との意見があった。いじめなどを疑われる事案から登校できなくなる生徒がみられたり、保護者との対応で十分な理解が得られなかった事案などが原因と思われる。施設設備面での充実、iPadやプロジェクターを中心としたICT機器など教材教具の整備が進み、学習指導への活用と授業研究がより一層の進んでいる。今後も、生徒の主体性を重視した活動を活発化させるとともに、本校の課題である地域社会との連携をいかに活性化させていくかが検討していきたい。

保護者による学校評価

平成27年度から保護者による学校評価アンケートを実施した。単純な比較は難しいが、学習指導、生徒指導に対する評価はおおむね良好であった。また、毎年の懸念事項であった本校の教育活動方針が年々認知度が上昇している。本年度、ホームページをリニューアルさせ、積極的に情報発信し、授業公開を再開するなど地道な取り組みが実を結びつつあるのを感じている。今後も、生徒、保護者が本校で学んでよかったと思えるような教育活動を展開して、学校からの情報発信を活発に行っていきたい。

学校評議員による学校評価

生徒指導面、進路指導面共に年々よくなってきており、学校全般的に落ち着いた雰囲気为学校になってきている。ただ、不登校傾向の生徒が増加していることに対して、心配される意見も寄せられ、今後とも生徒の実態把握を充実させて欲しい、との意見があった。

また、教室内の設備が充実してきたことに対して、高い関心を寄せられ、更なる充実と活用についてのご質問やご意見をいただいた。

令和3年度より1学年30人4クラスになったことについて、少人数指導に期待するご意見を多数いただいた。地域の学校としての立場と国立附属としての立場を十分に考慮した上で、今度どのような学校にしていけるのか、どんな特徴を出していけるのか、学校として大きな岐路に差し掛かってきているとの認識を新たにすることができた。

(7) 附属特別支援学校

ア 教育目標

子どもの発達に応じ、基礎的生活能力及び態度を養い、情操を高め、一人一人が可能性を十分発揮して、社会で自立できる力を育てる。

イ 令和5年度入学者選抜状況〈令和4年度実施〉

- [出願資格] ・主たる障害が知的障害で、本校の教育を受けることが望ましいと考えられる者
 ・保護者の付添い又は一人で通学が安全にできる者
 ・本校の使命や教育方針を理解し、賛同する保護者の子である者

小学部 令和5年4月に学齢に達する者

中学部 令和5年3月に小学校又は特別支援学校小学部卒業見込みの者
 令和5年3月に中学校又は特別支援学校中学部1年生修了見込みの者

高等部 中学校又は特別支援学校中学部を卒業、あるいは令和5年3月に卒業見込みの者

[選抜方法] 次の結果をもとに、総合的に判断し、決定する。

- ・行動観察等
- ・社会生活能力や家庭状況についての面接(保護者及び本人)
- ・医師の問診(精神科)

(単位：人)

	入学 定員	志願者	受験者	合格者	合格 倍率	入学者
附属特別支援学校	17	31	31	19	1.63	19
小学部	3	6	6	3	2.00	3
中学部	6	10	10	6	1.67	6
一般外部		9	9	5	1.80	5
連絡進学		1	1	1	1.00	1
高等部	8	15	15	10	1.50	10
一般外部		10	10	5	2.00	5
連絡進学		5	5	5	1.00	5

* 合格倍率 = 受験者計 ÷ 合格者計 (小数点第3位 四捨五入)

ウ 在籍者数 (令和4年5月1日現在) (単位：人)

	学級数	在 籍 者		
		男	女	計
附属特別支援学校	9	34	22	56
小学部	3	10	4	14
1 学年	1	3	0	3
2 学年	1	3	1	4
3 学年	1	1	1	2
4 学年	1	1	1	2
5 学年	1	2	0	2
6 学年	1	0	1	1
中学部	3	6	5	11
1 学年	1	2	1	3
2 学年	1	1	2	3
3 学年	1	3	2	5
高等部	3	18	13	31
1 学年	1	5	4	9
2 学年	1	7	4	11
3 学年	1	6	5	11

エ 児童・生徒の転出入等 (単位：人)

	転・編入 学	転・退学
小学部	0	0
中学部	0	0
高等部	0	0

オ 卒業生の進路〈令和5年3月卒業生〉

小学部卒業生 合計 1人： 本校中学部 1人
 中学部卒業生 合計 5人： 本校高等部 5人
 高等部卒業生 合計11人： 就職 1人、進学1人、その他9人（障害者支援施設 9人）

カ 研究活動

研究発表会： 令和4年11月11日(金)

主 題： 学びを生活に生かす子どもの姿を求めて(3年次／研究期間5年)

副 題： 子どもの学んだことをつなぐための評価

キ 教育実習及び学校体験活動の受入

	受入人数	(内訳)
教育実習	19人	愛知教育大学実習生 19人
「学校体験活動入門」	35人	
「学校体験活動Ⅰ」	0	
「学校体験活動Ⅱ」	0	

ク 国際交流

特記事項なし

ケ その他の活動

共生社会につながる教育の重要性をふまえ、岡崎地区三附属学校の異校種交流を目的とした、三附属共生教育を継続して行っている。令和4年度は、附属岡崎小学校とは、サツマイモの栽培、収穫を通じた交流を行った。つるさし、イモ堀りを一緒に行うことができた。また、イモ堀りの順番を待つ時間を利用し、ボウリングや的当てなどのゲームをして遊ぶことができた。収穫祭では、本校の児童生徒が焼いたイモを附属岡崎小学校に届け、秋の味覚を味わった。さらに、児童生徒が書いた手紙を各部の代表が附属岡崎小学校に届けた。附属岡崎小学校からは、寄せ書きが書かれた模造紙と手紙が送られてきた。附属岡崎中学校とは、高等部が交流を行った。例年は附属岡崎中学校の文化祭のバザーで、高等部の生徒が作業製品の販売に出向いて行っている。令和4年度は、代表生徒が実際に現地に行って作業製品の紹介を行った。次年度からは、直接会って交流することに加え、コロナ禍で行った非接触の交流も続けていくことで、交流の機会を増やしていきたい。

コ 自己評価及び学校関係者評価

本校では、よりよい学校づくりのため、保護者、学校評議員、教職員による学校評価アンケートを2023年1月に実施した。評価結果の概要と今後の方針は、次のとおりである。

【改善項目1】 一人一人を大切にする指導について

＜目標値＞

設問②：子どもの長期的な目標、短期的な目標をそれぞれ明確にし、一貫した指導が行われている。

	＜R3年度＞	→	＜R4年度＞	→	＜R5年度目標値＞
学校評議員	100.0%	→	100.0%	→	100.0%
保護者	84.3%	→	79.2%	→	85.0%
本校職員	92.9%	→	85.7%	→	93.0%

＜改善策＞

- ・ 各家庭に配付した、個別の教育支援計画・指導計画等を綴じるファイルをもとに、指導の系統性を保護者にわかりやすく示す。
- ・ 年度当初の家庭訪問や個別懇談で、長期目標や短期目標設定に到った児童生徒の様子や教師の思い、前年度からの引継ぎ等を保護者に伝えるとともに、保護者の意見も踏まえて個別の指導計画を作成する。また、各学期末の個別懇談で、保護者と目標への取り組みを振り返るとともに、長期目標に基づいた次学期の目標（短期目標）と具体的な手だてを示す。
- ・ 連絡帳等を通して、日頃から児童生徒の様子を保護者に伝える。
- ・ 一人一人の目標設定図（課題関連図）を学部の職員で作成することで、長期目標、短期目標を部内のすべての教員が把握し、教育活動全般で取り組む。

【改善項目2】 学校と家庭、その他関係諸機関との積極的な連携について

＜目標値＞

設問⑭：他の附属学校と連携、協働して共生教育を推進している。

	＜R3年度＞	→	＜R4年度＞	→	＜R5年度目標値＞
学校評議員	100.0%	→	100.0%	→	100.0%
保護者	62.7%	→	63.5%	→	66.0%
本校職員	71.4%	→	89.3%	→	92.0%

＜改善策＞

- ・ 4月の保護者会で、どのような活動が共生教育かを保護者に伝える。
- ・ 共生教育の在り方を検討する際には、対面での活動を基本としつつ、今後も無理なく活動を継続していくことができるように、オンライン等で行うなどの方法も柔軟に検討する。
- ・ 活動が充実したものになるよう、本校の児童生徒への事前学習や事後学習を適切に実施していくとともに、必要に応じて、相手校への事前・事後学習に本校の職員が参加する。
- ・ 共生教育として取り組んでいる内容を、学部通信やホームページ、メールマガジン等を活用したり、学校行事と連動させたり、登下校時での会話で話題に上げたりすることで、保護者や地域に発信する。

2 今年度の取組状況

(1) 教育課題、研究活動

ア 教育課題への取組・活動

国レベルの拠点校、地域のモデル校に向けて、国の教育研究開発学校等の公募に関する各種情報を収集し、各附属学校に周知・提供した。

附属高等学校では、探究活動を教育活動の柱として設定し、3年間を通しての探究活動で「人生を切り拓く探究力」の育成を目指している。この取り組みの一つとして「愛教大SEHプロジェクト～人生を切り拓く探究力の育成を目指した探究活動「附高ゼミ」の実施～」が令和4年度三菱みらい育成財団の助成事業として採択され、より一層充実した教育活動が展開された。

また、附属小・中学校から令和3年度に申請した文部科学省の「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」が採択となった。各校の授業や家庭学習においてデジタル教科書の活用を進め、教員と生徒それぞれを対象とした調査が実施・検証され、デジタル教科書のよりよい在り方を検討する一助となった。

事業名	参加校	教科等	
令和4年度三菱みらい育成財団助成事業	附属高等学校	探究活動	
学びの保障・充実のための学習者用 デジタル教科書実証事業	附属名古屋小学校	英語	
	附属岡崎小学校	英語	理科
	附属名古屋中学校	英語	理科
	附属岡崎中学校	英語	国語

成果の還元としては、全附属学校園で教育研究発表会が開催された。オンラインと集合形式を併用するなど、感染症対策を取ったうえでの開催となった。

また、附属学校教員が地元の学校で行う研究会や研修会に出向き、継続的に指導・助言を行った。

このほか、附属岡崎小学校の教員が、長年にわたる教育研究の成果を認められ、令和4年度文部科学大臣優秀教職員として表彰された。平成22年度以降、13年連続で附属学校教員が表彰されており、附属学校教員の教育研究推進への大きな励みとなっている。

イ ESDに関するユネスコスクール活動

県内ユネスコスクールの交流及び学校間のネットワーク作りの支援を目的として、「愛知県ユネスコスクール指導者研修会」を10月8日(土)に開催した。同研修会では、発表者として附属名古屋小学校及び附属高等学校が各校のESDの取組について実践発表を行った。

また、附属高等学校では、サステイナ部がエコ活動の一環として、大学の竹プロジェクトと連携して事業を行った。大学で開かれた「科学・ものづくりフェスタ」に出展し、「感光ビーズ・プレスレット」や「UVレジン（樹脂）・キーホルダー」の作成ブースに38人の生徒が参加した。

ウ 科学研究費助成事業（奨励研究）の採択状況

（申請：令和3年度）

区 分	申請状況			採択状況		
	件数 (a)	教員数 (b)	申請率 (a/b)	件数 (c)	採択率 (c/a)	内定額 (千円)
附属幼稚園	0	9	0%	0	-	-
附属名古屋小学校	0	32	0%	0	-	-
附属岡崎小学校	10	25	40%	0	0%	-
附属名古屋中学校	1	31	3%	0	0%	-
附属岡崎中学校	5	26	19%	0	0%	-
附属高等学校	7	34	21%	2	29%	920
附属特別支援学校	7	30	23%	0	0%	-
	30	187	16%	2	7%	920

* 教員数は、令和3年5月1日現在の現員数で、大学教員が兼務している校長を除く。

（2）連携事業

ア 地域、教育委員会との連携による活動

附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなるための実証研究の改善サイクル構築のために、附属学校園の研究等が公立学校に活用されたかどうかを調査するアンケートを実施し、アンケート結果の分析・考察及びそれらに基づいた改善策を総括論文として整理し、公表した。

また、附属学校園の研究会等に参加した幼稚園、保育園、小中高等学校等の教員を対象に追跡調査を行うための対象者の選定を行うとともに、附属学校園の研究等を幼稚園、保育園、小中高等学校等に活用する実践を実施した。

その他、各種研修会、研究大会に附属学校教員が指導的立場で参加したり、県内教育研究員を受け入れて授業や論文執筆の指導をしたりするなど、地域の現職教員のスキルアップのための研修を行い、授業実践の充実に寄与した。

イ 各地区の改革プランの推進

名古屋地区では、これまでの成果の検証を踏まえ、附属名古屋小学校・附属名古屋中学校の帰国児童・生徒学級同士の交流や体育の合同授業、附属幼稚園と附属名古屋中学校において体育科の授業で相互交流を行った。また、附属名古屋小学校6年生の児童と保護者が中学校の授業を参観する機会を設けるとともに、学校祭を対面やオンデマンドで見られるようにし、合唱祭をオンラインで見ることができるようにするなど連携を行った。また、「『新しい生活様式』を軸とした異年齢交流の創造」をテーマにICTを取り入れた交流活動の実現に向けて検討を行った。さらに、令和2年度から検討している国際（帰国）学級の在り方について、国際学級検討ワーキンググループを設置し、定期的に合同会議を行い、設置に向けた具体的な提案を行った。

岡崎地区では、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育充実のために、附属3校による共生教育推進を継続して行い、障害のある子どもへの理解を深め、健常者と障害のある子が共に認め合う心を育成した。令和3年度以降は対面での交流ができるようになり、附属岡崎小学校と附属特別支援学校では5月にサツマイモの苗植え、10月にはイモ掘りと収穫祭を一緒に行った。また、附属岡崎小学校では、愛知教育大学特別支援教育講座の学生による計画で、附属特別支援学校との招待交流や、学生の学習支援ボランティアを実施した。

附属岡崎中学校と附属特別支援学校は、作業学習で作成した製品を通じた交流を計画し、附属岡崎中学校の文化祭バザーで生徒たちが作った作業製品を販売するなど相互交流・理解を深めた。

刈谷地区では、愛教大SEHプロジェクトとして、探究活動を教育活動の一つの柱として設定し、3年間を通しての探究活動で「人生を切り拓く探究力」の育成を目指している。1年生では、探究基礎講座を実施して探究活動に必要な知識や技能の習得を目指した活動を行う。そして2年生の10月から3年生の10月にかけて実施する「附高ゼミ」で大学教員や大学院生から助言を受けながら探究活動を行い、「探究力の向上」を3年間かけて目指している。

理科課題研究において、大学のアドバンスト・サイエンスコースの学生を受け入れ、課題研究の充実を図るとともに、学生の実地経験を増やすなどして、大学学生・附属高等学校生徒に勉学面で相乗効果をあげた。

国際交流センター主催の「Let's talk in English」へ附属高等学校生徒が参加し、大学の留学生との交流を深め、特に茶道体験を通して日本文化の紹介や活発なコミュニケーションを取り合い、異文化と触れ合うことのできる貴重な機会とした。

（3）教職員の安全対策向上を図る取組状況

8月3日(水)に附属学校の安全対策に関する研修会を実施し、本学情報教育講座福井教授による「児童生徒の情報モラル教育」、立正大学文学部小宮信夫教授による「陥りがちな安全対策とその解決策」の講演が行われた。附属学校園教職員を中心に194人が参加した。

第10章 施設・設備

1 施設整備の状況

(1) 教育研究活動に必要な施設・設備の状況

ア 土地面積、校舎面積

令和4年5月1日現在

土地面積	大学キャンパス	設置基準※1
校舎敷地面積	202,772m ²	-
運動場用地	106,346m ²	-
校地面積 計	309,118m ²	37,660m ²
その他 敷地面積	130,161m ²	
合 計	439,279m ²	

※1 大学設置基準第37条により必要とされる土地面積

令和4年5月1日現在

校舎面積	大学キャンパス	設置基準※2
必置施設校舎	63,325m ²	-
なるべく設置校舎	567m ²	-
校舎面積 計	63,892m ²	14,760m ²
その他 建物面積	21,920m ²	
合 計	85,812m ²	

※2 大学設置基準第37条の2により必要とされる校舎面積

イ 講義室等

令和4年5月1日現在

大学設置基準 36条1項2号 施設				大学設置基準 36条4項 施設	
教員研究室	教 室			なるべく施設	
	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
260室	77室	116室	231室	12室	11室

ウ 体育施設

令和5年3月31日現在

運動施設等	面 積 (m ²)	主な用途	施設 開放	貸出 (件)	使用料 (円)
第一体育館	1,400	バスケットボールコート2面設置可能	○	12	129,324
第二体育館	1,199	バレーボールコート2面設置可能	○	1	13,608
体育館附属棟	773	卓球台10台設置可能	-	-	-
武道場	575	柔道場1面、剣道場1面	-	-	-
トレーニングセンター棟	463	トレーニング	○	11	114,400
陸上競技場	-	400m8レーン、100m9レーン、全天候型	○	3	45,500
野球場	-	野球場1面	○	19	230,000
サッカー場・ラグビー場	-	サッカー場2面、ラグビー場1面	○	11	73,000
ハンドボール場	-	ハンドボール場2面	-	-	-
水泳プール	-	50m9コース	-	-	-
テニスコート	-	全天候2面、クレイ10面	○	0	0

(2) 耐震化等の整備状況

ア 耐震化の整備状況

主な改修施設	令和元年度末	
	総面積	耐震化率
大学	85,812㎡	100.0%
附属学校	43,289㎡	100.0%
附属幼稚園	913㎡	100.0%
附属名古屋小学校	7,232㎡	100.0%
附属岡崎小学校	7,014㎡	100.0%
附属名古屋中学校	7,569㎡	100.0%
附属岡崎中学校	6,546㎡	100.0%
附属高等学校	9,143㎡	100.0%
附属特別支援学校	4,716㎡	100.0%

本学の耐震化率については、以下の基準により耐震性能を満たす建物の割合（建物面積）を示している。

- ・昭和57年以降「新耐震基準」に基づき建設された建物
- ・昭和56年以前の「旧耐震基準」に基づき建設された建物で、耐震診断により耐震性が確認出来た建物
- ・耐震補強工事の実施により耐震性が確保された建物

イ 障害者支援設備 整備状況

令和5年3月31日現在

区分	達成率※3					
	身障者 トイレ	エレベーター ／車椅子用階 段昇降機／車 椅子用段差解 消機	スロープ	自動ドア	専用 駐車場	視覚障害者誘 導用ブロック
大 学	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	65.0%	85.7%
附属学校	100.0%	25.0%	42.9%	42.9%	-	0.0%
合 計	100.0%	85.7%	85.2%	84.6%	65.0%	57.1%

※3 達成率 大学：設置済建物数 ÷ 設置対象建物数 附属学校：設置済学校数 ÷ 設置対象学校数

(3) 自主的学習環境スペースの整備状況

令和5年3月31日現在

棟名	目的・用途		室名・設備状況	利用状況
第一共通棟	学習	休息	2F リフレッシュスペース	丸テーブル・椅子
	学習	休息	3F リフレッシュスペース	丸テーブル・椅子
		休息	1F 中庭ウッドデッキ	屋外テーブル・椅子
教育未来館	学習		教職大学院第1学生自習室	机、椅子、PC、プリンタ、無線LAN、ホワイトボード
	学習		教職大学院第2学生自習室	机、椅子、PC、プリンタ、無線LAN、ホワイトボード
	学習	休息	2F ホール	丸テーブル
附属図書館	学習		2F 閲覧スペース 28席 2F 学修スペース 193席 3F 閲覧スペース 154席 3F 学修スペース 36席	無線LAN 開館時間 月～金 9:00～22:00 or 9:00～17:00 土日祝 11:00～17:00
	学習	休息	2F 玄関入口ラウンジ	無線LAN、テーブル・椅子 飲食・ミーティング可能
		休息	玄関前広場	屋外テーブル・椅子
ICT教育基盤センター	学習		2F 第1PCルーム	PC 50台、無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～21:00 (授業外自習)
	学習		3F 第2PCルーム	無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～21:00 (授業外自習)
	学習		3F 第3PCルーム	PC 30台、無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～21:00 (授業外自習)
	学習		3F 第4PCルーム	無線LAN、ホワイトボード、机、椅子、プロジェクター、スクリーン 利用時間 8:30～21:00 (授業外自習)
大学会館	課外活動	休息	1F ホール	開館時間 9:00～20:00
第一福利施設		休息	くつろぎラウンジ	テーブル・椅子
教育交流館	学習		1F ラーニングcommonsⅢ	テーブル、椅子、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン
教育・人文棟	学習		1F コモンスペース	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN
自然科学棟	学習		1F ラーニングcommons、 コモンスペース 2F ラーニングcommons レッスンスタディールーム 5F コモンスペース	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN
美術・技術・家政棟	学習		1F ラーニングcommons 2F ラーニングcommons 3F ラーニングcommons 4F ラーニングcommons	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN ワークブース(2Fのみ)
養護・幼児棟	学習		1F ラーニングcommons	テーブル、椅子、ホワイトボード、無線LAN

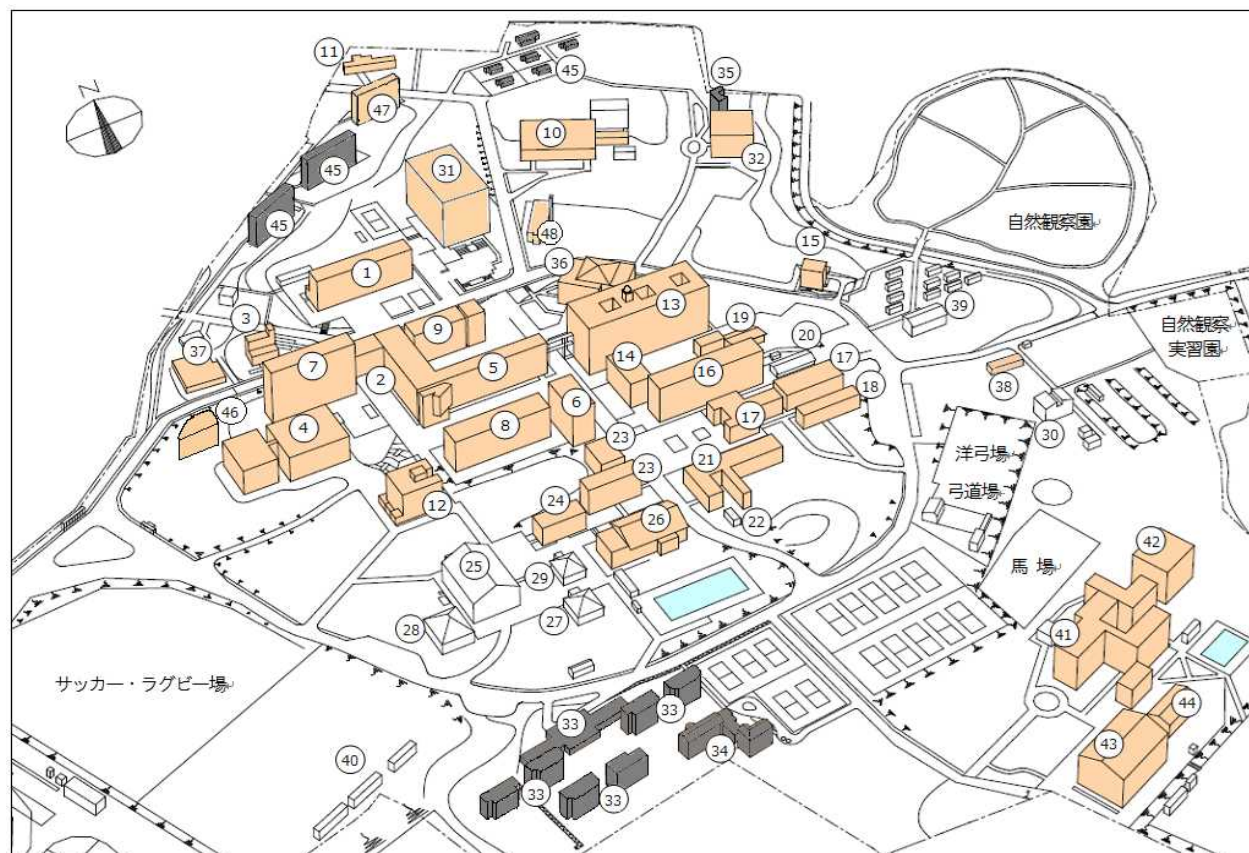
* 大学会館は、当面、特別支援教育棟等の工事に伴う教員研究室の代替、什器類の退避のため全面的に利用されており、学生へは和室2室のみ貸出している。

(4) ICT環境の整備状況

ア 学内情報ネットワークの状況

学内情報ネットワーク接続エリア配置図

令和5年3月31日現在



接続エリア

民間回線

1 本部棟	14 共同演習棟	27 武道場	39 文科系サークル棟
2 学生サポートセンター	15 共同実験実習棟	28 トレーニングセンター棟	40 運動系クラブハウス
3 健康支援センター	16 美術・技術・家政棟	29 体育館附属棟	41 附属高等学校校舎
4 附属図書館	17 美術・技術実習棟	30 教育実験実習棟	42 " 特別教室
5 第一共通棟	18 ものづくり実習棟	31 講堂	43 " 体育館
6 第二共通棟	19 技術第一実習棟	32 大学会館	44 " 武道場
7 教育・人文棟	20 技術第二実習棟	33 学生寮	45 職員住宅
8 教育支援棟I	21 音楽棟	34 国際交流会館	46 教育未来館
9 教育交流館	22 音楽練習棟	35 非常勤講師宿泊棟 (井ヶ谷荘)	47 国際教育棟
10 特別支援教育棟	23 養護・幼児棟	36 第一福利施設	48 次世代教育イノベーション棟
11 心理教育相談棟	24 保健体育棟	37 第二福利施設	
12 教育支援棟II	25 第一体育館	38 AUEセミナーハウス	
13 自然科学棟	26 第二体育館		

無線LANアクセスエリア

令和5年3月31日現在

棟名	室名
1 本部棟	1 F 打合せ室
	3 F 第一会議室
	第二会議室
	第三会議室
	第五会議室
4 附属図書館	2 F 本館、新館
	2 F ホール
	2 F 自由閲覧室
	3 F 本館、新館
5 第一共通棟	1-3 F 各教室
	2-3 F リフレッシュスペース
6 第二共通棟	1-3 F 各教室
7 教育・人文棟	1-2 F 講義室
	3-5 F オープンラボ
8 教育支援棟I	1 F 演習室(101、117)
9 教育交流館	1 F アクティブラーニングスペース
	2 F ALルーム
	第1 PCルーム
	3 F 第2 PCルーム
	第3 PCルーム
10 特別支援教育棟	第4 PCルーム
	1-2 F 廊下
	1 F 教員実験室、研究室スペース
	小ブレイルーム、大ブレイルーム
	多目的スペース、共通講義室511
13 自然科学棟	3 F 院生室、第4 演習室
	1-5 F リフレッシュスペース
	1 F コモンスペース、ミーティングルーム
	サイエンスアクティビティルーム
	科学・ものづくり教育推進センター訪問科学実験室
	2 F 化学系実験実習室、理科室(233、234)
	3 F 生態系実験実習室
	4 F 地学系実験実習室、物理系実験実習室
	5 F オープンスペース
	演習室(511、512、515、516、518)
14 共同演習棟	2-3 F 演習室
16 美術・技術・家政棟	1-4 F ラーニングコモンズ
	1 F ギャラリー
	2-4 F リフレッシュスペース
	2 F 美術共同実習室Ⅰ、美術共同実習室Ⅱ
	共同実習室Ⅰ、共同実習室Ⅱ
	共同実習室Ⅲ、共同演習室(233)
	3 F 共同演習室(337)
	4 F 共同演習室(437)

棟名	室名
17 美術・技術実習棟	1 F 専門領域実習室(ガラス)
	2 F リフレッシュスペース
	図画工作実習室Ⅰ
	図画工作実習室Ⅱ
	専門領域実習室(美術史)
	専門領域実習室(美術共同)
	専門領域実習室(デザインⅠ)
21 音楽棟	絵画実習室、共同演習室
	1 F 音楽教育専門実習室
	オープンラウンジ
	演奏室、合奏実習室、玄関ホール
23 養護・幼児棟	2 F 音楽教育専門実習室
	リフレッシュスペース、院生室
	1 F ラウンジ、コモンスペース
	ラーニングコモンズ、共同演習室Ⅰ
	共同教材開発室2、幼児保育実習室
	2 F リフレッシュスペース
	幼児教育専門演習室
	幼児教育専門講義室
	養護教育実験実習室
	共同演習室Ⅱ
24 保健体育棟	3 F リフレッシュルーム
	1 F 保健体育講義室1
	大学院生室、多目的スタジオ
	2 F オープンラウンジ
	保健体育講義室2
	保健体育専門演習室1
	保健体育専門演習室2
31 講堂	3 F リフレッシュスペース
37 第二福利施設	ステージ、ホール
38 AUEセミナーハウス	2 F セミナー室
	1 F セミナー室1、セミナー室2
46 教育未来館	2 F セミナー室5
	1-3 F オープンコーナー
	1 F プロジェクト研究室、会議室
	2 F 第一学生自習室
	第二学生自習室
	多目的指導室、講義室2 A
	3 F 共同大学院研究スペース
47 国際教育棟	多目的ホール、講義室3 A
	講義室3 B、講義室3 C
	1 F 外国人児童生徒支援リソースルーム
	2 F ラーニングコモンズ
48 次世代教育イノベーション棟	指導者研修室、演習室1
	3 F 和室、和ダイニング、演習室2
	1 F AUEカキツパタホール

イ 学務ネット

「学務ネット」は教務情報を集約し、学生への連絡周知や修学支援を行うためのウェブシステムであり、2007年に導入され、いくつかの機能強化・改善を行って、現在の運用に至っている。

学務ネットの主な機能

機 能 一 覧	
1 掲 示	授業関連情報、休講情報、お知らせ情報が確認できる。
2 学籍情報照会	自身の氏名、生年月日、住所、電話番号、携帯番号、本籍地、指導教員の氏名などが確認できる。
3 履修登録	指定された期間内に、各学期で履修する授業を登録することができる。
4 学生時間割表	履修登録した自身の時間割表を閲覧できる。
5 教員時間割表	授業時間割に登録してある教員の時間割表を閲覧できる。
6 ファイル共有	学務ネットのマニュアル、授業時間割表、オフィス・アワー等の情報を閲覧できる。
7 シラバス照会	シラバス検索・閲覧ができる。
8 成績照会	自身の成績を閲覧できる。
9 授業アンケート実施	授業アンケートへの回答ができる。

ウ まなびネット

「まなびネット」は、moodle(ムードル)を利用した授業運営と学生への修学支援を目的としたウェブシステムで、「学務ネット」と同じく、学生及び教職員は、ユーザ認証により学内外から「まなびネット」にアクセスすることができる。教材や資料、動画の掲載、レポート課題を課すことや課題の提出・回収、小テストの実施、採点及びコメントをすることができる。

2 中期的視点における施設整備計画

以下の別添資料を参照

- ・愛知教育大学 キャンパスマスタープラン2022
- ・愛知教育大学 インフラ長寿命化計画（行動計画）（令和3年度～令和7年度）
- ・愛知教育大学 インフラ長寿命化計画（個別施設計画 2022）

3 その他の施設・設備

ア 講堂

	主な設備		主な用途
施設内容	(1階)	ステージ、ホール、ロビー、映写室、会議室	式典、講演会、演奏会等
	(中2階)	音響室、調光室	
	(2階)	ホール、ロビー、休憩室、サイドスポット室	
収容定員	ホール 1218席（1階936席、2階282席） / 会議室 24席		

イ 大学会館

	主な設備		主な用途
施設内容	大集会室 (2階)	舞台・音響・照明等、机、椅子	講演会、演奏会等
	学生支援スペース (2階)	机、椅子	諸会議、研究会、学習会等
	和室 (2階)	炉 (15畳2間)	茶道、舞踊、諸会議、研究会、学習等
収容定員	大集会室 300人 / 学生支援スペース 72人 / 和室 48人		

ウ 福祉施設

	主な設備
第一福祉施設	購買、書籍、旅行サービス、食堂、生協本部
第二福祉施設	食堂

エ 課外活動施設等

	主な設備	主な用途
体育系クラブハウス	21室	クラブ・サークル活動における集会等
文化系クラブハウス	36室	クラブ・サークル活動における集会等
文化系サークル棟	共同制作室 (180㎡)、練習室(大)(60㎡)、練習室(小)(8㎡)	クラブ・サークル活動における印刷、集会、練習等
弓道場	射場(91㎡)、的場からの(安土)まで28m	弓道の練習及び大会会場、集会等
洋弓場	倉庫(10㎡)一面芝生、的場からの的まで最大90m	洋弓の練習及び大会会場、集会等
馬場	厩舎(74㎡)(馬4頭収容可)、部室(10㎡)、馬用の洗場	馬術の練習及び馬の飼育、集会等

オ AUEセミナーハウス

所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 (愛知教育大学キャンパス内)
施設内容	セミナー室1、セミナー室4 (15.83㎡)、セミナー室2、セミナー室5 (14.91㎡)、セミナー室3、セミナー室6 (20.79㎡)、キッチン、洗面・WC、シャワー室、脱衣室
収容定員	40人

カ 井ヶ谷荘

所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 (愛知教育大学キャンパス内)
施設内容	宿泊室：和室 (10畳) 定員3人2室、洋室 (9㎡) 定員1人3室 その他：談話室、浴室、便所、洗面所
宿泊定員	5人 (コロナ対応のため)
使用料	1人1泊 2,500円 (1階和室を2名以下で使用时は1人1泊3,500円)

令和4年度の利用状況

	延べ利用者数	利用率	施設稼働率
AUEセミナーハウス	14,539人	91.9%	109.5%
井ヶ谷荘	110人	11.9%	6.7%

* 利用率 = 利用日数 ÷ 利用可能日数 × 100

* 施設稼働率 = 延べ利用者数 ÷ (収容定員 × 利用可能日数) × 100

キ 学生寮

学生寮入居状況

令和4年5月1日現在

区 分	施設規模		入居状況		利用率	
	部屋数 a	収容定員 b	入居部屋数 A	入居者数 B	部屋利用率 A / a	定員充足率 B / b
合計	192 室	192 人	192 室	182 人	100.0%	94.8%
男子寮	64 室	64 人	64 室	59 人	100.0%	92.2%
A棟	32 室	32 人	32 室	31 人	100.0%	96.9%
B棟	32 室	32 人	32 室	28 人	100.0%	87.5%
女子寮	128 室	128 人	128 室	123 人	100.0%	96.1%
C棟	32 室	32 人	32 室	31 人	100.0%	96.9%
D棟	32 室	32 人	32 室	30 人	100.0%	93.8%
E棟	32 室	32 人	32 室	32 人	100.0%	100.0%
F棟	32 室	32 人	32 室	30 人	100.0%	93.8%

	A棟	B棟	C棟	D棟	E棟	F棟
構造 / 間取り	全棟共通： 鉄筋 4 階建 / 洋間 14㎡（約 8.5畳） 設備部分含。					
建築年	1970年 （2013年改修）	1969年 （2014年改修）	1969年 （2015年改修）	1969年 （2013年改修）	1970年 （2014年改修）	2012年
居住可能学生	男子	男子	女子	女子	女子	女子
寮費（1人部屋）	22,010 円	22,010 円	22,010 円	22,010 円	22,010 円	22,010 円

* 全棟1人部屋

* 寮費には、共益費、光熱水料等を含む。ただし、NHK受信料、インターネット使用料は除く。

ク 国際交流会館

国際交流会館入居状況

令和4年5月1日現在

区 分	施設規模		入居状況		利用率	
	部屋数 a	収容定員 b	入居部屋数 A	入居者数 B	部屋利用率 A / a	定員充足率 B / b
合計	30 室	42 人	23 室	25 人	76.7%	59.5%
単身棟	24 室	24 人	19 室	19 人	79.2%	79.2%
留学生	20 室	20 人	17 室	17 人	85.0%	85.0%
研究者	2 室	2 人	0 室	0 人	0.0%	0.0%
日本人チューター	2 室	2 人	2 室	2 人	100.0%	100.0%
夫婦家族棟	6 室	18 人	4 室	6 人	66.7%	33.3%
夫婦室	3 室	6 人	3 室	3 人	100.0%	50.0%
家族室	3 室	12 人	1 室	3 人	33.3%	25.0%

* 建築年 1998年（平成10年） 鉄筋3階建て

* 使用料（光熱費等経費を除く）

●留学生 寄宿料（月額）	●研究者 使用料（月額）
単身室 ￥4,700	単身室 ￥7,927
夫婦室 ￥11,900	夫婦室 ￥16,753
家族室 ￥14,200	家族室 ￥22,809

ケ 国際教育棟

国際教育棟入居状況

令和4年5月1日現在

区 分	施設規模		入居状況		利用率	
	部屋数 a	収容定員 b	入居部屋数 A	入居者数 B	部屋利用率 A / a	定員充足率 B / b
合計	16 室	16 人	16 室	16 人	100.0%	100.0%
男子フロア	8 室	8 人	8 室	8 人	100.0%	100.0%
日本人学生	4 室	4 人	4 室	4 人	100.0%	100.0%
外国人留学生	4 室	4 人	4 室	4 人	100.0%	100.0%
女子フロア	8 室	8 人	8 室	8 人	100.0%	100.0%
日本人学生	4 室	4 人	4 室	4 人	100.0%	100.0%
外国人留学生	4 室	4 人	4 室	4 人	100.0%	100.0%

	男子フロア		女子フロア	
構造 / 間取り	鉄筋 5 階建 / 洋間 11㎡（約7畳）／キッチン・バス・シャ ワー・トイレ共用			
建築年	令和2年(2020年)			
居住可能学生	日本人学生	外国人留学生	日本人学生	外国人留学生
寮費（1人部屋）	20,200 円			

コ 自然観察実習園

令和4年度 利用実績

区分	講座等	使用責任者	目 的	申込面積 (㎡)	使用面積 (㎡)
畑	理科教育	加藤淳太郎	植物生活実験及び卒論実験用植物の維持管理	100	100
	幼児教育	鈴木裕子	幼児教育選修、保育内容研究、環境	50	50
	理科教育	渡邊幹男	研究材料のアブラナ科等の植物栽培	100	100
	附属幼稚園	馬越恵子	自然に親しむ（サツマイモ、ジャガイモ）	100	100
	技術教育	太田弘一	畑作物（夏・秋・冬）、鉢物栽培、ミツバチ巣箱	100	100

生産物の販売実績

各年度3月31日現在

品 名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)
さつまいも	50.0kg	17,150	50 kg	18,000	48 kg	22,560	25kg	7,750
じゃがいも	247.5kg	54,450	37.5 kg	8,250	140.0kg	44,800	60kg	14,760
玄米	50kg	13,800	-	-	-	-	-	-
大根	458本	37,880	79	7,900	98	5,850	-	-
ブロッコリー	-	-	15個	900	-	-	-	-
もち米（1.4kg入り）	130袋	65,000	102袋	45,900	159袋	90,530	200袋	114,000
キャベツ	53個	4,240	8個	480	-	-	-	-
タマネギ	224個	44,800	172 kg	25,800	-	-	-	-
合 計		237,320		107,230		163,740		136,510

サ 生駒野外実習地

生産物の販売実績

各年度3月31日現在

品 名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)	販売量	販売収益 (円)
玄米	21袋	201,600	-	-	-	-	-	-
じゃがいも	110kg	17,600	34kg	7,480	-	-	-	-
合 計		219,200		7,480		0		0

第11章 財務状況

別添資料「令和4事業年度財務諸表」を参照

第12章 自己点検評価及び教育情報の公表

1 自己点検評価

本学ウェブサイト参照（各中期目標期間の「自己点検評価」）

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/corporative/hyoka.html>

2 評価結果に対する改善

【第3期中期目標期間（平成28～令和3年度）の指摘事項の改善状況等】

本学ウェブサイト参照（第3期中期目標期間の各表中「指摘事項の改善状況」）

- 法人評価 https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/kaizen-houjin_h28-r3_20230331.pdf
- 自己点検評価 https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/kaizen-jikotenken_h28-r3_20230609.pdf
- 認証評価 https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/ninsyou_kaizen_20230609.pdf

3 教育情報の公表状況

学校教育法施行規則第172条の2に基づく教育情報

本学ウェブサイト参照

https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/release/edu_info.html

第13章 危機管理

1 危機管理に対する整備状況

（1）防災ハンドブック

本学ウェブサイト参照

https://www.aichi-edu.ac.jp/campus/student/jishin_bousai.html

（2）緊急地震速報システム

設置状況	大学構内、全ての附属学校に2012年3月に設置
作動概要	気象庁から発信する緊急地震速報を基に、緊急地震速報システム契約会社において地震が到達する時間と震度が計算されたものを大学の地震速報受信機が受信し、大学構内及び各附属学校の放送設備から「緊急地震速報」が放送される。 なお、本受信機は、震度5弱以上の地震に対して放送が流れるよう設定している。

（3）安否確認システム

設置状況	2013年3月から運用開始
概要	市販されている安否確認サービスを利用し、有事の際に、事前に登録している学生、教職員個人のパソコン、携帯電話などのメールアドレス等に対して安否確認連絡が配信され、学生、教職員が受信したメール等から安否状況を登録することにより、全構成員の安否確認を行う仕組みである。